

フィールドレポーター

# 掲 示 板



2000年 第1号 (5月)

今年度フィールドレポーターを担当することになりました桑原@琵琶湖博物館です。昨年度より始まったフィールドレポーター掲示板、みなさんが日頃気のついたことやおもしろいと思ったこと、疑問に思ったことなど気軽に投稿してみてください。ほかのフィールドレポーターの人にも同じ思いの人がいるかもしれません。また、おたがい新しい発見があればきっと楽しいと思います。今年度は、できるだけ発行していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ところで、今回は早々に送られてきた投稿の内、特に春のにおいのするものを中心に載せてみました。読んでみて感じたことなど送ってもらえるとありがたいです。

なお、本文の頭に〔投稿日〕投稿者名を記入しています。

## 【表題：タンポポ】

〔000418〕栗東町@川北浩史さん

栗東町下戸山に引っこして5年、ここにはシロバナタンポポをはじめ、日本タンポポが多く、とっとうれしく思っていました。我が家の庭にもシロバナタンポポがやってきて喜んでいたやさき、セイヨウタンポポを見つけてしまいました。下戸山もやがてはセイヨウタンポポの天下になるのでしょうか？それとも両者は共生していくのでしょうか？

〔000421〕大津市@西野薫さん

かつて、県内全域を対象としたタンポポの種類調査が行なわれ、私も参加しました。しかし調査の時期が少しズレた為か、シロバナタンポポの実状が不明でした。4月20日頃、甲賀郡土山町、甲賀町、甲南町、水口町、甲西町、石部町、信楽町では、タンポポの8割方がシロバナタンポポです。自動車で幹線道路(国道、県道)を走っていると、見当てるのはシロバナタンポポばかりです。

## 【表題：ツバメ】

〔000420〕大津市@N.H.さん

ツバメが巣作りに励んでいます。3月31日に来て1羽で巣作りしていましたが、4月16日からは2羽で頑張っています。洗濯物を汚すので少々困っています。半分は諦めの心境です。

フィールドレポーターをしていて、色々なことにとっても好奇心があるのですがたまたま周囲にその調査対象物が見つからなかったり、時間の都合がつかなかったり、悔しいことが多々あります。今年は何とか縁ある対象物に巡り合えるようにと願っています。何といっても参加出来た時の充実感というか、活動を他の人と共有できた時の喜びは何事にも勝ると思います。

## 【表題：七草がゆのほとけのざはコオニタビラコ】

【000419】安土町@中村かをるさん

今年の七草がゆを作る時、他の物はそろったのですがほとけのざだけが、どんな植物なのか知り合いに聞いても全然判らず、店で買った物も調べてみたのですが、違うものが入っている状態でした。近所に山野草に詳しい方が居られるので聞いてみた所、図鑑を見せて頂き、ほとけのざはコオニタビラコで、最近見なくなると言われました。

一度見てみたいと探しつづけていた所、4月になり黄色い花が咲き、ついに田んぼでコオニタビラコを見つけました。その時の気持、わかっていただけますか。ついに自分で見つけたという充実感を味わえました。

## 【表題：第二名神工事現場の堆肥】

【000420】土山町@京 美季男さん

鈴鹿トンネル掘削のために溪谷の立木を伐採したあと、その草木をカッターでチップにして発酵させ、工事終了後、土と混ぜて溪谷の表面に30cm～60cmの厚さに敷いて植生の復元を図る方法が行われていました。面積が広いので樹を植える方法は適さないようです。環境への配慮が伺えました。

## 【表題：安曇川のウグイ漁とウグイ料理に参加して】

【000420】志賀町@尾形勇さん

琵琶湖博物館の催し物案内紙を見て、先ずは第一番目の4月2日“安曇川のウグイ漁とその料理”に参加させてもらった。

10時半頃、現地（安曇川下流湖岸近くの本庄橋の100m上流）川幅一杯に設置された“かつとり築”について地元漁業組合長さんから案内と説明をうけた。なにしろ初見学の“築”、川を遡上してくる魚がどのように捕獲されるのかと興味しんしんで川面を見ていたが、「あいにく今日は前夜の降雨と上流（朽木村）の雪解け水で増水しており、流れが速く水温も8℃と低いので遡上には条件が悪い。水温は14℃位がいい。」と桑原さん。残念ながら話聞く勢いのいい遡上は見られないが、この築は琵琶湖の古くからの漁法だとのこと。そのすぐれた仕掛けに感じ入った次第。このあとは待望の食事。次なる場所、今津の川魚料理屋さんへと急ぐ。席を暖める間もなく出てくるわ、出てくるわ、すごいウグイづくしの料理の数々。刺身、焼き魚、煮付け、フライ、酢の物、お吸い物と盛りだくさんの豪勢なもの。いずれも新鮮、美味で舌鼓を打って頂戴した。

子供の頃、川魚とりによく遊んだが、ウグイは鯉や鮒などのように自慢の対象にもならず、すぐ放すし形も琵琶湖のウグイより遥かに小型（半分位）のものだった。（専門家の桑村さんに聞くと、同種のものだと。琵琶湖では大きく育つのかも。）ましてやこれを食べるなどとは驚きの連続で、大変楽しい一日を過ごさせて頂きました。お世話して下さいました桑原さん、桑村さんどうも有り難うございました。

## 【表題：各地域の「きせつだより」の交流】

【000425】新旭町@堀野善博さん

毎月1～2種類の植物を決めて、その開花初認日を記録する。そしてデータを博物館に報告する。どんな結果が出るか楽しみ。（観察する植物の選定が大切、また難しいと思いますが）

大型の) フクロウ類、マガモ、マミチャイナ、ムクドリ、ムナグロ、メジロ、キズ、ヤマガラ、ユリカモメ (計52種)

?は鳥名にあまり自身のない鳥です。その他にも気になる鳥に、ハヤブサにシルエットが似るが、それより少し大きなワシ・タカ類、ムナグロ大から少し大きめの2、3種のシギ類を良く見かけます。

## 【表題：稲枝駅西側、御当地野鳥事情】

[000418] 彦根市@加藤啓英

昨年3月13日より百葉箱まがいの物を作り庭に設置し、最高気温・最低気温を記録し続けておりますが、それまであまり疑問に思わなかったことが、気になります。そこで、暇を持て余している方が居られましたら、私の疑問にお付き合いください。

1. 「百葉箱」の読み方ですが、遷歴を過ぎるまで「ヒャクヨウバコ」だと思っておりましたが、妻は「ヒャクソウバコ」だと言います。そこで百科事典で調べましたら、小学館「日本百科大辞典」では「ヒャクヨウバコ」、平凡社「世界大百科事典」では「ヒャクソウバコ」、痛み分けでした。多分、誰でも小学校の理科の先生の受け売りで疑わずに過ごしているでしょう。
2. 百葉箱内の最低気温が0℃以上であっても、路面や水溜りが凍っていることがあります。これは、風が水面の空気を入れ換え、水蒸気を吹き払うため、蒸発を促進し気化熱を奪うことによりそこが空気の温度より低くなると考えられますが、これは真の気温が同じでも百葉箱が乾いているか濡れているかでも測定値に差が出ることも意味します。体感気温は普通は「風速」だけで語られますが、風が体温を奪うことに加えて気化熱を奪うこと(濡れ)とも大きく関わっていると思います。
3. 気圧が下がれば、これまた蒸発を助けることになり、水分のある所の近くは温度が下がるはずです。
4. 百葉箱の屋根に雪が積もると、雪が完全に凍るか融けるかしない限り、水の固相と液相が共存することになり、1気圧では0℃付近に安定してしまうはずです。

正式には日本式は1m角の容積と1mの床の高さとなっておりますので、我が家のものは容積にして10%弱なので測定精度は充分とは言えませんが、これを始めたことにより、今まで漫然と見聞きしていた天気予報の気温が何を意味しているのかかえってわからなくなりました。

## 【表題：かもしかの子どもって黒いの？白いの？両方いるの？】

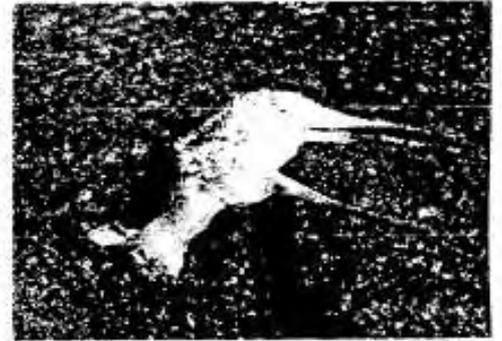
〔000417〕能登川町@浅井融さん

数年前、多賀町の山道で真っ黒なかもしかに出会いました。8月はじめの午後でした。うす茶色な動物とばかり思っていたのでびっくりし、本で調べたり、人にたずねたりしました。その結果、真っ黒なかもしかは夏毛のかもしかじゃなかったかなど、自分で思っています。しかし、わからないのは、土地の猟師さんは「真っ黒なかもしかはいる。子どもはみんな真っ黒や」というし、青森で研究しておられる人は「かもしかの子どもは真っ白でかわいい」といわれる。種類がちがうのか、地域によって毛の色がちがうのか、はっきり知りたいのですがどなたか教えてください。

## 【表題：溪流で死んでいた鹿】

〔000420〕土山町@京 美季男

4月12日、野洲川ダムの白倉谷溪流で、小鹿を妊った雌鹿が浅瀬で死んでいた。前夜か前日、狼か野犬に追われて息絶えたらしい。背中を食い破られて、お腹の小鹿を引き出され、岸辺には可愛いパンピの脚が2本散らかっていた。食べたのはキツネかもしれない。非情な自然界の有様を目の当たりにしました。



## 【表題：「松飾り」を調べてみようと思います】

〔000420〕八日市市@森 小夜子さん

数年前から門松に大変興味を持っています。'98年に「近江植物歳時記」（京都新聞社）に少し執筆したことがあります。その後も続けて調査しています。平成11年3月に「松飾り」というテーマを発見しました。県内各地のお正月の松を調べてみませんか。シキミ、ソヨゴ、ネジキ、いろいろありますよ。

## 【表題：スミレ類とのお付き合い】

〔000418〕彦根市@加藤啓英さん

昨年来、野生のスミレ類を育てていますが、今年も5種類ほど咲き始めました。種類の検索以外は採集・栽培・繁殖が全て容易ですので、この楽しみを皆様にもお勧めします。私の楽しみ方は以下の通りです。

1. 植付け・栽培用地 河原で拾ってきた、成る可く綺麗な拳大の石を、家の横の排水側溝の縁に並べてセメント付けします。すると家のフェンスの下のブロックとの間が溝状になりますので、そこに側溝の泥を上げます。（ご近所からは手まめにドブ掃除をするオッチャンの評価を得ています。） 種蒔きには浅く土を入れた発泡スチロールの箱をあてています。

2. いくつかの品種を集めるには、道端（舗装の隙間、畦道、山道等）空き地等、何処にでもありますので、その内からなるべく人に踏まれそうな所の小さなものを選んで、根を傷つけないように掘り上げ持ち帰り、充分に水を吸わせてから植えつけます。又、種から育てるには、あまり熟さない内に（始めは下を向いているサクが「招き猫」の挙げた前足ほどに上を向きかけたころ、）採取し、新聞紙で作った袋（湿気が透過する）にとり持ち帰ります。サクは袋の中ではじけて粒状の種が得られますので、順次湿った土に蒔き、僅かに土を掛けます。

種の発芽率はかなり高いのですが、種に土を掛けないと、蟻が運び出してしまいます。蟻

は種の本体ではなく、種に付いているエライオソームという脂肪分に富む、言わば郵便切手か運賃に当たる部分を食べる為に、穴の中に運び込むらしいのです。

3. 栽培はいたって簡単。病気もあまり無さそうですが、ツマグロヒョウモンに卵を産み付けられます。この幼虫をほっておくと丸坊主に食い荒らされますので、私はその幼虫を庭に沢山ある園芸種のニオイスマレの葉に移しています。尚、スマレ類は地下の蓄えが豊かな為か、地上部を完全に喰われても、そのまま枯れることはなく、そのうちに葉が生えてくるようです。

4. スマレ類の変わった性質に、美しい花卉を持つ花は受粉せず、目立たない無開花（閉鎖花）に種が出来るらしいのですが、どのように受粉するのか、自家受粉以外はおこらず他の固体との遺伝子の交換が行われぬのか等、十分な説明のある書物に出会っていません。（小学館 野の植物 牧野晩成著 には大きな花卉の花に雄しべと雌しべがあり、結実している図が記載されている。）

5. 雑種の出来ることを避けるために花に袋を掛けたりしましたが、知識不足の為、種の検索が出来ませんので、無意味だったかのかどうか未だにわかりません。

種の特徴とは別に、葉の形や花の大きさが成長段階か栄養状態によるものか解りませんが、同じ種や同じ固体でもかなり変化するらしく、同種・異種・雑種の判断が出来かねることが多いのです。

6. 今年もスマレ（和名：以下スマレと書く）の葉が出揃いました。全部で少なくとも8種類ほどはあると思いますが、今はタチツボスマレ、ツボスマレ、その他種名の不明なものが3種類ほどの花が咲いています。

今年こそは主な固体をナンバリングし、葉の変化と対応する花を記録し、確実な検索を心がけようと思います。

スマレに興味のある方がおいでになりましたらご連絡ください。実生の苗をお分け出来ますし、いっしょに採取に行くことも出来ますので。

追記 タチツボスマレは早朝には花が全部閉じており、明るくなると開きだします。そこで4月17日8:45から12:45の4時間、開花した状態のところに、アルミラミネートしたプラスチックフィルムの袋（焼き海苔の袋）をかぶせておきましたが、花は開いたままでした。翌朝（4月18日7:15）にはいつも通り開いていました。

尚、「これで何がわかるか？」と問われると困るのです。花の開閉が光によるのか温度や湿度の変化によるのか、又、開閉の力が花卉内外の成長の差によるのか、細胞内圧がかかるのか、等等何の解明にもならないのです。ご存知の方がおられましたらお教えてください。

## 【表題：スマレ類とのお付き合い】

【000418】彦根市@加岡啓英さん

昨年来、野生のスマレ類を育てていますが、今年も5種類ほど咲き始めました。種類の検索以外は採集・栽培・繁殖が全て容易ですので、この楽しみを皆様にもお勧めします。私の楽しみ方は以下の通りです。

1. 植付け・栽培用地 河原で拾ってきた拳大の石を、家の横の排水側溝の縁に並べてセメント付けします。するとフェンスの下のブロックとの間が溝状になるので、そこに側溝の泥を上げます。種蒔きには浅く土を入れた発泡スチロールの箱をあてています。

2. スマレは道端（舗装の隙間、畦、山道）や空き地など、何処にでもありますので、なるべく人に踏まれそうな所の小さなものを選んで、根を傷つけないように掘り上げ、充分

に水を吸わせてから植えつけます。種から育てるには、初めは下を向いているサクが「招き猫」の挙げた手ほどに上を向きかけたころ採取し、新聞紙で作った袋（湿気が透過するよう）に採り、持ち帰ります。袋の中でサクがはじけて種が得られますので、順次湿らせた土に蒔き、僅かに土を掛けます。（土を掛けないと、蟻が種を運び出してしまいます。蟻は種の本体ではなく、種に付着するエライオソームという脂肪分に富むものを食べるために、巣に持ち帰るらしいのです。）

3. 栽培はいたって簡単。病気もあまり無さそうですが、ツマグロヒョウモンに卵を産み付けられます。この幼虫をほっておくと丸坊上に食い荒らされますので、私は幼虫を庭にたくさんある園芸種のニオイスマレの葉に移しています。尚、スマレ類は地上部を完全に喰われてもそのまま枯れることはなく、そのうちに葉が生えてくるようです。

4. スマレ類の変わった性質に、美しい花卉を持つ花は受粉せず、目立たない無開花（閉鎖花）に種が出来らしいのですが、どのように受粉するのか十分な説明のある書物に出会っていません。

5. 交配を防ぐために花に袋を掛けたりしましたが、種の検索が出来ないので、意味があったかどうかわかりません。種の特徴とは別に、葉の形や花の大きさが同じ種、同じ固体でもかなり変化するらしく、同種・異種・雑種の判断が出来かねることが多いのです。

6. タチツボスマレは早朝には花が全部閉じており、明るくなると開きだします。花の開閉は光によるのか、温度や湿度の変化なのか。また、開閉の力が花卉内外の成長の差によるのか、細胞内圧がかわるのか。ご存知の方がおられましたらお教えください。

7. 今年もスマレの葉が出揃いました。少なくとも8種類ほどはあると思いますが、今はタチツボスマレ、ツボスマレ、他に種名の判らないものが3種類花を咲かせています。

今年こそは主な固体をナンバリングし、葉の変化と対応する花を記録し、確実な検索を心がけようと思います。

スマレに興味のある方がおいでになりましたらご連絡ください。実生の苗をお分け出来ますし、いっしょに採取に行くことも出来ますので。

## 【表題：稲枝駅西側、御当地野鳥事情】

【000418】彦根市@加藤啓英

私はJR稲枝駅の西側に住み、東をJR東海道線、西を琵琶湖湖岸、南を愛知川右岸、北を宇曾川左岸で囲まれた範囲を勝手にテリトリーと定め、犬の運動をかねて、植物や野鳥を見て回っています。

主な観察地は、自宅(冬季のみ控えめに餌付けしている)、周囲の水田や農場用水路、宇曾川とその周辺、愛知川とその周辺、曾根沼湖岸緑地、荒神山(南側鳥居～山頂)です。

鳥の名前を記録し始めたMar/30/99から今日までの全てを抜き書きしたところ、次のようになりました。但しコサギ以外の白い鷺、シギ・チドリ類、ワシ・タカ類、カモ類が良く識別出来ませんので、鳥を良く知る人にはもう少し多くが普通に見られると思います。

アオサギ、?アカエリカイツブリ、アトリ、アマサギ、イルカ、ウグイス、エナガ、オオヨシキリ、カイツブリ、カシラダカ、カワセミ、カワラヒワ、カルガミ、カワウ、キジ、キジバト、キンクロハジロ、キレンジャク、ケリ、ゴイサギ、?コオバシギ、コガモ、コガラ、コゲラ、コサギ、コシアカツバメ、?コチドリ、シジュウカラ、ジョウビタキ、スズメ、セグロセキレイ、?ダイサギ、タシギ、タゲリ、?チュウサギ、ツグミ、ツバメ、トビ、ハシビロガモ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、? (かなり

# フィールドレポーター 掲 示 板



2000年度 第2号 (7月)

フィールドレポーター担当の桑原@琵琶湖博物館です。

梅雨もいよいよ佳境に入り、田んぼの稲もだいぶ大きくなってきました。田んぼの中干しもだいぶ進んできているようです。田んぼの生き物調査も、6月末日でとりあえず一段落としました。もちろん今お手持ちのサンプルや、新しい発見があればお寄せください。

さて、今年度第2号のフィールドレポーター掲示板をお届けします。今回から、フィールドレポータースタッフの古谷さんと武田さんを中心に編集をしていただきました。また、みなさんから頂いた原稿の雰囲気を壊さないために、差し障りのない限りそのまま掲載するようにしてみました。

開設2年目に入り、タイムリーでユニークな掲示板作りを目指していますので、メール(kuwahara@lbn.go.jp)・ファックス・投稿用紙の郵送などで、どしどし投稿してください。

ところで、ちょっとお願いなのですが。最近、ワープロで打った原稿で投稿していただくケースが増えてきています。その場合可能であれば、原稿ファイルをフロッピーに入れて送っていただくと助かりますので、よろしくお願いします。

表 題 【 つばめのヒナの声はいつ頃聞:えるのか 】

投稿日 【 5月19日 】 お名前 【 大津 市町村 N.H.さん 】

3月31日 一羽の燕がアパートの軒先に泥ん:で巣作りを  
始め。ほぼ半分位出来上った。4月16日から二羽の燕となり  
ました。そして、5月16日朝小さな卵の殻が3個落ちてい  
たのです。二羽の燕は交互に巣に飛来しては何か突つ  
くような仕舞をした。じつと巣の中で座っている様も時  
あります。なかに、どんなに耳を付しても子燕の声か鳴き  
声か聞:えて:ないのです。とてし待ち遠しくてたまりません

表 題 [キツネ、タヌキとの遭遇、事故報告]

投 稿 日 [990501]

名 前 [加 固 啓 英

彦 根 市 ]

メモを残し出してから日が浅いのですが、これほど多くの死体に出ています。なんとかならないものでしょうか。又、皆さんが<sup>の</sup>この様な記録を集め、集積すれば種息の知られていない所でも見つかる可能性があるのではないのでしょうか。

2月13日 場所：安土城跡前の舗装道路上 狸 事故死体 一頭

2月29日 場所：荒神山 稲村神社の少し上、狐に出会う 生きた狐 一頭

(少しくたびれた個体、舗装道路上 距離13 m 約4秒間にらみ合いその後林の中へ)

4月03日 場所：愛知川左岸、能登川の八幡橋下流の駐車場、狸 腐乱死体 一頭

4月15日 場所：湖岸周遊道路 琵琶湖側マイアミより北、狸 事故死体 二頭

4月30日 場所：湖岸周遊道路 大中あたり、狸 事故死体 一頭



表 題 [江戸の花見を彦根でする話]

投 稿 日 [990501]

名 前 [加 固 啓 英

彦 根 市 ]

遷居を迎えた昨年より、県立滋賀大学で公開講義を年に2教科づつ、受講していますが、昨年の植物生態学の折、「林檎はなぜ、同じ品種間では受粉しないのか」と質問しましたところ、先生は口ごもり「果樹や園芸品種は種類と言っても・・・」 愚問でした、これら、接ぎ木、挿し木、取り木、生長点培養等で繁殖させたものは、見てくれは多数の株でも遺伝子的には、言わば一株同然なのでした。

私の家には、幹の周囲105 cmの桜(染井吉野、アヤハディオがアサヒと言った頃、小指程の太さの苗を買ってきたもの。)があり、向う三軒両隣の範囲内に限り桜の名所として知れ渡っております。

「桜の元には狂気が宿る。」と言われてますが、妄想に取りつかれました。この樹の大枝の何本かが空間軸上では東の方向へ、時間軸上では江戸時代の方角へ伸びているのです。

その下では、はっつあん、熊さん、ご隠居さんが小鉢をたたいて唄うやら舞うやらのお花見真最中。なにしろわが家の桜は江戸末期の染井村で作出されたものと同じ株なのですから。私は下戸ですが、素面でこんな妄想が湧くのですからお酒は必要なさそうです。

表題 田んぼの生きもの調査

投稿日 [000612] 志賀町高城 尾形 勇

フィールドレポーター本年度最初の課題“田んぼの生きもの調査”を

湖西、湖北で現地調査をすることとなり 参加させてもらった。

6月3日(土) 10時 JR湖西線近江舞子駅集合 総勢ほぼ二十人

ご指導される楠岡さんより本日の調査スケジュールの説明があり 各自指定された車に2~3人ごと分乗した、小生は 前田さん、グライガーさん、桑原さん(学芸員)と第一号車となり先頭出発 最初の調査地は国道161号線 志賀町北小松で国道沿いの左側の田んぼ(東隣に岩除地蔵堂あり) 此処は全員で調査 幾人かが採取したタニシ、カワニナ、を観察しながら楠岡さんの説明あり、武田さん“草むらの中に蛇をみつける” 田んぼの中を滑るように走るのを見る 今日はいささきいいかなあー?

次からは コースを3~4ヶ所に分け 湖岸、国道方面、河川、山側方面と別れて進む 我々第一号車は 河川、山側方面へと走る。

グライガーさんが以前に単独で湖西湖北を下見しておられたことで このあと方角と進路 調査地をガイドされることとなった。JR高島駅から北へ約500m R161号線ぞい田んぼ(高島町永田456) タニシ、カワニナのみ 特ダネになるものなし、

次 安曇川町青柳 R161号と朽木方面行き街道との交差点のすぐ東側の田んぼで採取 タニシ類のみ 3度目は新旭町新庄 JR線路の東側田んぼ 先と同じタニシ類のみ、グライガーさんは此の附近をまだ調べたき未練あるらしい様子だが、桑原さんこれを制し 時刻も早や12時半過ぎ 集合時間(12時)を遙かに過ぎていたので携帯電話で1時ごろ着と仲間に連絡された。

集合地点は新旭町餐場4166(風車街道との合流地点コンビニストアがある) 此処の湖岸で弁当時間 先着の津田さんが言う カイエビを見つけたとのこと 安曇川の田んぼだと これがカイエビの北限かも知れんと 今日のトピックニュースだ。

2時前出発 前田さんが此処で湖岸側に移り 代わりに山本さん同乗者となる

グライガーさん 助手席で進路をしばしば 右だ左だと急転換する、桑原さん運転大変

“早めに言はないと 車は直ぐには曲がれない” おお笑い!

R161号線を北上しマキノ町に入り 知内川の上流(白谷温泉の近く) オー場の南麓上開田~下開田区、の田んぼ、更に川沿いを下って寺久保区の田んぼを見る 山本さんカワニナとタニシをとる みんな同様

この北部地区まで来て思うがこの辺りは春が遅く 田植えも湖南に比べ一ヶ月は遅いのではないだろうか 苗も小さいし田んぼの水(川の水を直接引いている)も冷たかった

三番目の集合地点、マキノ町野口(R161号線とR303号線との合流地点) 此処で 記念写真撮るなど 小半時休憩。

午後3時 再出発 トンネルを抜けるとやがて右側にJR永原駅が見えてきた、ここは西浅井町大浦と言う地名、此处で大き目のタニシを捕る、楠岡さんよりこのあと塩津方面に進み1~2箇所調査をして再び此处に戻り終わりとしたい旨 言はれ出発

トンネルを抜け(城山トンネル)前方のR8号線が交差する近くまで進める この田んぼもやはりタニシのみ ただ山本さんが気づいたように 今までのよりもずっと大きいタニシだったのが目をひいた。

先ほどの地点大浦に戻る、ここで各車毎に採取した 生き物を館の公用車に積み替え 楠岡さんの閉会のご挨拶で 解散

帰路は 武田さんのご好意で車で和途まで送ってもらった。

今日の調査は湖西-湖北にわたり大々的に行われたが結果は環境、気候、などの違いもあり未確認のものもあり課題を多く残したように思いました。私だけの思いかもしれませんが 他にお気づきのことや、発見されておられることなど有りましたら 交流会の時や掲示版でも教えていただければ幸いです。



### 【表題：カブトエビ、ハウネンエビ、カイエビ見~つけた！】

[200608] 大津市@松田常子さん

ふふふ、見つけましたよ！カブトエビ、ハウネンエビ、カイエビをどっさり。去年はタニシ類しか見つけられなくて、内心悔しい思いがしていましたが、今年はバッチリ。やはり琵琶湖博物館に直接行き、レポータースタッフの作業に参加した成果でしょうか。

もうNさんばかりにいはらせません。今年はたくさんの田んぼのアゼで腹ばいになって観察し、その結果、農薬や化学肥料とエビ類の生息は、やはり関係があるように思いました。生産者もそう明言しておられました。カイエビはちょっと分かりません。カブトエビハウネンエビより汚染に強そうです。カブトエビ、ハウネンエビのいる田は多様な生物が生息することも発見しました。また、稲の生長、水入れ等で生物層も変わるみたいです。

### 【表層：カマキリの誕生を待っています。】

[000622] 草津市@古谷善彦さん

今年の1月カマキリの卵のう調査で採取したオオカマキリの卵のうを2個、掲示板で松田さんから教えていただいた条件で自宅の垣根に置いています、誕生は未だのようです

6月17日(土)定例会で交流室に行ったとき、誰かが持ち込まれたようですがお目にかかれませんでした。どなたか誕生を目撃された方いらっしゃいませんか？

表 題 【雀の学校の給食時間】

投 稿 日 【990501】

名 前 【加 岡 啓 英

彦根市】

ここ数年冬の間だけ、庭木に餌入れを取りつけ、小鳥に餌を与えています。暖かくなり採餌が容易になった頃、穀類だけでは育雛に悪いと思い、徐々に減らしております。

残った餌を、一握りだけ濡れ紙の上に置いたダンボールの上においています。

朝、私はアルミサッシのガラス一枚を隔てて、約60 cmの距離から、布団の中から枕に頸を乗せて見ているわけです。雀から見た、顔だけの私はさしずめ、収穫時に取り残されて、放置された裏なりのカボチャという所です。

庭を見回すと、庭木の梢に1~2羽の雀が見えるだけです。サッシを開けて一握りの餌を蓋くと、すでにマークをされており、途端に雀の鳴き声が変わります。5秒と待たずに先発隊が飛んできますが、私の顔を見てあわてて飛び去ります。どうやらカボチャと人の顔を瞬時に見分けたようです。次に飛んできたのは、庭に横たえた木片の陰に隠れ、一呼吸おいて、そろそろと首を伸ばしてこちらを窺います。西部戦線異常なし・・・トレンチ戦の膠着状態です。この頃には総勢10羽程（冬には20羽ほど、）にも増えています。その内、私の目の前でホバリングし、恐れてはいないことを誇示するように空中でやかましく鳴きだてるものがでできます。これだけの手順の後、そろって餌場に降り立ち、ついでにみ始めますが、こちらに対する警戒は片時も怠りない様子です。瓜2つならめ瓜10個で、個体識別はとても出来ませんが、観察の視野から出ない範囲では、餌場で争うのはきまった2羽のようです。と、言うことは雀同士では個体差を認識しているらしいのです。餌場からはみ出した連中は近くの本の枝でなにやらついでに、順番を待っています。この間、多分虫を食べていると思われ、庭木の為にもなっていると思われます。

雀の去った合間に他の鳥も採餌にきますが、キジバトやマミチャイナは、私が動かないかぎりカボチャとの区別は出来ず、全くの無警戒です。

雀は餌場を作るとすぐにやってきます。朝の内に餌がなくなり、雀は去りますが、翌朝にはその場所が見える所で待ち構えています。つまり一度餌にありつけば、約24時間は憶えているらしいのです。人や飼猫のテリトリー内で生き抜く雀は見かけによらずしたたかなようです。

この冬は貪欲なヒヨドリが少なく、雀はあまり追い回されずにすんだようです。

【表題 : 五個荘からレポート】

神崎郡五個荘町宮荘 坪田敏男さん

遅まきながらレポートします。

私のエリアである五個荘は昭和 55 年より土地改良事業に取り組みました。その後、用配水路が整備されて、かつての湧水地（でっぼ）は殆ど無くなりすべて乾田池に変わりました。

この度、レポーターとなって田圃の生植物がだんだんと消え去るのを改めて痛感しました。何か寂しい思いが致します。

同封のサンプルは以下の通りです。ご査察下さい。

記

1. 4/22日 撮影 アゲハチョウ 畑  
近年、余りみかけなくなりましたアゲハチョウです。  
脱皮して間もなしのところを偶然に撮りました。  
場所は近くの畑です。



2. 5/20日 採集 エビ U字溝の水口  
手持ちの図鑑でもみてもわからないので教えてください。
3. 5/30日 ① カワニナ ハリヨの里あれじ池  
側面のコンクリートに密集しています。  
② タニシ 民家から100m程離れた田圃、排水路のたまり場50mの間に数百匹いた。  
昔、タニシ拾いをして食べた思い出があります。今は田の中では見かけません。

いろいろと勉強になります。これからも時間の許す限り、観察します。

過日（5/25）、桑原さんには博物館では、いろいろ教えて頂きありがとうございました。

屋敷内のミカンの木に数匹のテントウ虫が毎日来ています。可愛いものです。

梅花藻を貰ってきましたが、着生しません。増やす方法があればお知らせ下さい。

以上

表題 [ 専門講座 (フナズシ を作って見よう) に参加して ]

投稿日 [ 000425 ] お名前 [ 志賀町 尾形 勇 ]

博物館主催の この フナズシ作りの体験学習は 作りはじめから完成まで前後三回受講があり 三回とも受講しなければ結果はもらえないと前もって注意を言はれている。私の大好物であり なんとんでも受講まっとうし作品を手に入れたく申込み、参加させてもらえた。

当日十時 集合場所(実験工房室前の広場)には 早くも数十人の人々が詰掛けている、この催し物のなんと人気の高いこと 予定人員の三倍(50名)にもなったらしい

程なくして 材料の「にごろブナ」が小型トラックで運び込まれてきた、木箱三つそれぞれほぼいっぱいになり 生きのいいフナ(20cm前後)がピンピン跳ねてはいつている、全部で50kg(300匹位か)買はれたとのこと

本日のお師匠さんこと北村さんと言う れっきとした現役の鮓ずし屋のご主人だ チラシが配られ 師匠が左手に魚をもち、右手で 包丁、箸、千枚とうし、など手際よくつかいこなす見る見るうちに、 鱗とり、えら、うき袋、内臓とえぐりとる素早いお手本をみせてくれる。

さて 自分がいよいよ始めだすと なんと難しいことか、えら下の肉を切り裂いたり 卵膜を破いたり、卵を内臓と一緒に流出させたり、浮き袋が出てこないなど、 五匹のうちまともに出来たのはなのは二匹だけだ。

あと水洗いを丹念に(四/五回)やり よく水をきって いよいよ塩漬け作業 一匹々々の腹の中に塩を思い切り固く詰め込む、表面体にも塩をまんべんなく塗りつけ、用意された大きな桶に底から たてに並べ詰めこんでゆく 一段ごとに塩をたっぷりかけ二段三段と積み重ねていく 一番上には わらで作った広幅の綱をわっぱのように巻きながら敷いて その上に分厚い円形の板蓋を乗せる、そして重石を二つ(一つ25kg位のもの)その上にのせて 本日の作業終わり。二時間ばかりの 楽しい作業でした。

真新しい 知識と体験を得させて頂いた喜びと ともに 次なる体験日が待ちどろしい限りである。

表 題【 おたまじやくしほじこに？ 】

投稿日【 000426 】お名前【 大津 ①町村 夫 】

通学途中にある田んぼには今年もたくさんのおたまじやくしかまいて  
いる。ある晴れの日 私がいつも通り田んぼの中を見ながら歩い  
ていると、田んぼが干上がり、かろうじて残っている水たまりの中に2匹くらいの  
おたまじやくしが群れていた。「かわいいそうだな」と思っていたら、通り  
過ぎたのですが 次の日その田んぼを見ると水は完全に干上がり、おた  
まじやくしも一匹残らず消えていました。周りには手拭いコックリトなどの  
で逃げられるはずもないと思うのですが、一体おたまじやくしはどっしにどこへ行ったのか？

表 題【 フローバーとレンゲの花 】

投稿日【 00427 】お名前【 草津 ①町村 小林光子 】

近くに新草津川予定地としての空地があります。今フローバーで一面覆われて  
います。その1割位はレンゲの花が混じっていて、ヒコブタの花が咲き  
を持ち上げてきました。思わす座り込みになる程です。自然に生えてきたの  
で(よか)。1年程前に取り返され直された所です。  
4月22日(土)一番早く田植えをしたのは、かみの早苗の上を飛び交うつばめ  
を見つけた。寒い寒いと思っていたのに季節は進みますね。

表 題【琵琶湖岸のトンビについて。】

投稿日【5月6日】お名前【小島F】市町村 大津市

近江大橋 大津岸のおまし公園では 常時 20~30羽のトンビが  
飛んでいます。彼らは どのくらいにしているのでしょうか。  
あまり高い所を飛んでいるのでしょうか、どのような  
構成（家族、同年令、オスだけ、メスだけ）で 群れをなして  
いるのでしょうか、鳩にエサをやり、時々 大量に降りてきたり  
しますが、個体識別は どのようにできていますか。

表 題【ヒヨの抱卵】

投稿日【5/22】お名前【大津市町村 小島 F】

我が家の玄関に一本だけはえている カイズカイブキの木に ヒヨが  
巣を作り始めて 2週間 3日前 3個の ウズラ木の卵 発見、はじめうちは  
時々しか戻って来なかったのに 人が通るとか、キャッチボール しようと  
じい、と抱いている。10~15分 時々 警戒音を出して 飛んで  
くるので ファミリー全員 とろぼろのように 家を出はいるししています。  
うまいといいな。

表題【 田んぼのわか田んぼには「ほーねんえび」がいます 】

投稿日【 000615 】お名前【 大津 町村 BZU02323@ 】

井后 和美 fifty.ne.jp

雑誌240-11に和を作っている。

昨年 その中に、みゆみゆ動く毛を見つけた

と云う。(私 は今年度から入ったので見えない) )

「今年もみゆみゆ動いてたら、BZU先生にまでに見てもらいませぬ」と言っている。

私は、ほーねんえび博士です。(その正体を

ばうした) → 何で雑誌240-11にいますか、Ia中に見たかとかを探すとオモシロそう。

表題 皆さん、投稿ありがとうございます

投稿日 7月2日 芳賀裕樹 (博物館学芸技師・Fレポーター-副担当)

皆さん投稿ありがとうございます。楽しく読ませていただいています。N.H.さんのお便りには少し時間がたってしまいましたが、ツバメのヒナの声は聞こえましたでしょうか。T.A.さんのお便りのオタマジャクシの行方も気になりますね。うまく水路に逃げたかもしれません。逃げ遅れたのは、サギなどの餌になったのではないかと想像します。オタマジャクシには不幸な出来事ですが、サギには幸運な出来事なのでしょう。小島ファミリーさんはトンビの個体識別が可能かどうかについてお尋ねです。北海道のツルについてそんな話を聞いたような気がします。多分可能だろうと思いますが、何をポイントに見分けたいかはまったく想像が出来ません。どなたか、鳥の好きな方で答えをご存知の方がいらっしゃいましたらお便りをください。

さて、今日は田んぼの調査でよく見つかるヒルのことが話題になりました。緑色の背中に黄色のスジがあるヤツの名前を調べ、セスジビルかチスイビルかというあたりまでわかったのですが、結論は先送りになりました。図鑑を見ると、人や温血動物の血を吸うヒルと、貝や魚やカエルの血を吸うヒルがいて、後者は死んだ生き物が分解されるのに重要な役割を果たしているようです。でもどんなヒルが田んぼにいて、何をしているかは良くわかりません。「滋賀の自然」などの分厚い調査報告にもヒルに関する記述はないようです。グライガー学芸員の話では日本にはヒルの研究者がとても少ないとのこと。ヒルのことは、実際に田んぼで仕事をされていた方の体験をお聞きするのが一番かなぁ、と思いました。

フィールドレポーター

# 掲 示 板



2000 年度 第 3 号 (8 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。鳥丸半島の付け根に広がるハス群落も、すっかり満開になり夏真っ盛りです。

田んぼの生きもの調査も、みなさんのご協力のおかげで、今回は去年の 2 倍近い 400 通以上ものデータが集まりました。やはり 2 回目ともなると、調査にも慣れてきてやりやすくなり、おもしろさも増してくるのかもしれませんがね。

ところで、先日 7 月 15 日(土)に次回の調査のテーマが話し合われました。案としては、「お地蔵さんと地蔵盆調査」、「鎮守の神様調査」、「正月のお飾り調査」、「初物に感謝する行事の調査」、そのほかにも「クモの調査」、「ユリカモメ調査」など、たくさんの案が出されました。ただ、議論の中で「鎮守の神様調査」などのように宗教的な調査については、個人の信仰が絡んでくるため、できるだけ広くみんなが参加できるという目的からはずれてしまうのではないかという議論がなされました。また、地元の多くの人の協力が必要になるような調査では、調査結果をそれらの人たちに還元するような体制が必要となりますが、現在はその体制をとることができません。そこで、とりあえず今回は、これらの宗教的な色彩の強い調査は見送ることになりました。もちろんこれを完全に却下するというのではなく、これらの体制を作っていくためにはどうしたらよいかという議論をこれからも続け、その上で時期を見て行ってはどうかということです。できるだけ多くの方々にスタッフとして参加していただき、フィールドレポーターの活動内容や、調査のデータなどをリアルタイムで公表してゆけるような体制ができると、もっと活動の幅が広がるような気がします。

ということで、次回のテーマは「ドングリ」ということになりました。ドングリは子供から大人まで興味を持てますし、時期的にもドングリが実る時期になるのでちょうど良いのではないかということになりました。布谷さんにお話ししたところ、すっかり乗り気になっていただけました。ドングリにはいろいろとおもしろいことがあるようで、調査後の交流会のアイデアまで出していただきました。きっとみなさんにも楽しんでいただけることと思います。



# フィールドレポーター-掲示板 投稿

表題 1日2ハス、アユ and ホウネンエビ etc.

投稿日 0007013 名前 土山町 京美季男

- 去る6月4日(日)に、琵琶湖博物館の見学会、  
く見て食べよう!! 四季の漁業(初夏)「姉川のヤナ」に  
参加しました。定員20人の2倍を越える大好評でしたが  
全員参加できました。昼食は、世継橋たもとの料亭で  
幾種類ものハス料理に舌鼓を打ちました。
- その昔、彦根の殿様も来~~て~~駕して、賞味された  
という、秘伝のハス料理にもめぐり会いました。  
中には、ハスという魚を初めて知り、ここに来るまでは  
蓮根料理だとはばかり思っていたという人もおられ  
ました。
- 午後は、姉川のヤナ場まで、車で移動し、古来から  
伝わる漁法をゆくりと見学しました。河口から  
200m位の所に、50m位の川中いっおいに、  
太い松の杭を上流に向けて斜めに、一列に  
打ち、竹の簀で水を塞き止めて、先端の1ヶ所  
だけ水を豊富に流して、そこを遡上する稚アユ  
を回し手網ですくい取り方法でした。

午後2時で、1分間に2回、網をすくい上げ、ていまた  
網の中央部には、その密度、数トンのアエが、銀鱗を  
躍らせていて、そのまま、半透明の直径10cm程の  
ハイフを流水と共に通って、生け簀に送られ、  
待期していた水槽付きトラックに、計量ののち、積み  
込まれて、全国各地へと出荷されていきました。

カイツボい遊上するアエの習性を見事に利用した  
見応えのある漁場風景ではありました。

- 。 そのあと、<sup>前</sup>昨日、湖北まで、ほんまの生きもの調査  
で、どいつはなつた武田さんから、ホウネンエビ、カブト  
エビ、カイエビを数匹ずつ、容器の中で、元気に  
泳ぎ回っている状態で、いただきました。私は、  
初めて見る3種のエビに驚異の目を見はりました。  
緑の胴体に赤いしっぽのホウネンエビは、沢山の足を  
動かして、背泳ぎしています。カブトガニをうんと小さく  
したのと同じ形のカブトエビは、活発に泳ぎ、  
カイエビは、薄い2枚貝が水中を舞っているようです。

- 。 未知の生きものに遭遇するということは、何と  
感懐の瞬間でしょう。持ち帰った翌日の夕方には  
どれも弱って来たので、アルコール標本にして大切に  
とっておきます。武田さん、ありがとうございました。  
とても素晴らしい1日でした。

表 題 [琵琶湖子の外来魚について]

投 稿 日 [000828]

名 前 [加 岡 啓 英]

シンポジウム～琵琶湖の外来魚問題について～を聞かせていただき、その時頂いた資料にあげられている参考文献に目を通したく思い、彦根市立図書館へ行ってきました。

私は何の疑いもなく、「外来種に限らず生態系攪乱の恐れのある生物の移動はしてはならないもので、それが公理のように世間にも認められているもの。」とっておりましたので、それに対して説得力のある反対意見があるのなら、それも含めて全体像がつかめる程度のものは読んでおくべきと思ったからです。ところが、著者名、外来魚、で検索して頂いても生態系に関するものには全く出会えず、ブラックバスで検索したところバスフィッシングのたのしさやテクニック、釣り場情報に関するものばかりが際限もなくスクロール画面が必要なほど挙がってくるのです。学術書や研究論文は一般の人や子供の目の届く範囲、理解出来る状況にないようです。

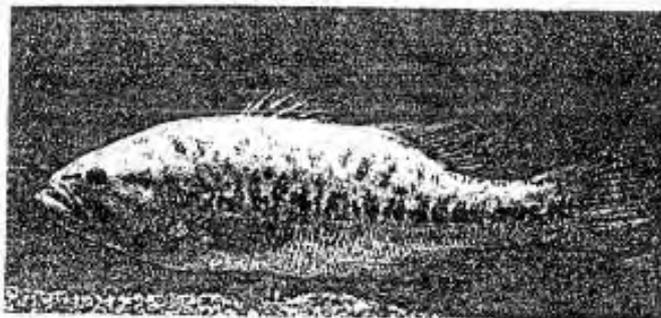
真更な子供の脳に最初に入ってくるのがルアーフィッシング賛歌では、後での修正はほとんど不可能ではないかと思えます。

一般向け、子供向けの単行本や科学雑誌等のバックナンバーから外来魚問題に、公平で真面目に取り組んだものを選び出し、公立図書館に図書名を指定してお願いしておくこと、大抵はそろえて頂けますので、これを決定版というものを一通りそろえて頂くようではありませんか。もしこれに同意が頂け、これぞと思う良書をご存じでしたらお教えください。

会場での大方の意見はキャッチ アンド イートに否定的に見受けられましたが、在来種同様に水産資源とみなすわけではなく、排除する過渡期の手段としてテレビ等のメディアを駆使して料理法の普及等で「食用魚」であることを常識化すれば相当の圧力になると思いますし、肥料にする加工費用の一部高代わり程度の役は果たせるのではないのでしょうか。

目に付きやすい鳥を例にしますと、カラスを食べる国は少なく、この増えすぎが問題になっている国は多いようですが、野性化したハトが問題になることは少ないようです。

これはハトを肉用と考える地域が多いことも一因でしょう。問題となる種は人が食べようとしないうるカラス、カワウ、野性化ハト等であり、大規模に行われていた密猟が近年厳しく取締られているツグミは数多く見かけられるようになっています。



## フィールドレポーター掲示板投稿用紙

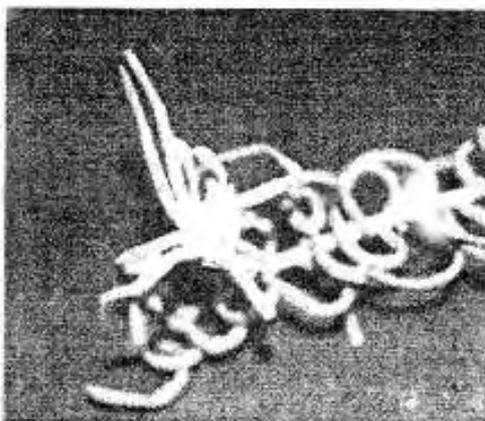
身のまわりで気づいたこと、他のレポーターの意見、質問等についてのお答え、新たな呼びかけなど、おしゃべりをする感じで投稿してください。

表 題【 くもの ゆけがら を 見た。 】

投稿日【 000713 】 お名前【 能登川市 田村 謙 井 扇 虫 】

山道をジョギングしながら、ふと草の葉にくもが二匹からみ合っているのが目についた。木々一匹は口を合わせている。ふと聞いて、ふと手を止めた。一匹はぴんぴんととんでいてしまった。あせに誘ったのは何と今思いついていた。くものゆけがら。「あつ くもって脱皮するんや、大勢にあって帰ってこれないんや。1本足入るにだけ帰ってこれたのが二匹やん、あつら築をほらなくもかえ知れや。あつらかやん

あつらゆけがらに、毛もくじらもあつらとちんちんを帰ってこれて



送信者: 梶本 さつき <GZD02760@nifty.ne.jp>  
宛先: <kuwahara@ibm.go.jp>  
送信日時: 2000年7月11日 21:28  
件名: 掲示板ありがとうございました。

はじめましてびわ町のフィールドレポーターです。  
掲示板第2号をいただきながらお礼が遅くなりまして  
申し訳ございません。

本日(7/11)家でも、鮎ずしの本漬けをしました。  
土用の発酵で、お正月にはおいしい鮎ずしが漬かっている  
と思います。水の管理を怠りなくしなければなりません。  
掲示板での塩漬けより、塩の分量は少ないかと思ひます。  
専門講座の鮎ずしも、たのしみですね。  
どちらがおいしでしょうね。  
とにかく、こだわりの郷土料理です。

たんぼの生きものですが、今年のタニシやカワニナは昨年  
に比べ小さかったと思ひます。  
エビ類はどんなに観察しても見つかりません。  
田んぼのエビはどんな姿をしているのか一度みたい  
と思ひます。

五個荘では、アゲハチョウをあまり見かけないそうですが、  
こちらでは、うんざりするほど見ます。  
ミカンの木、山椒の木などにはよくつきます。  
ミカンの木を1本植えてみてください。  
必ずアゲハがつきます。

表 題 【 えっ、私って!? 】

投稿日 【 000703 】 お名前 【 草津 市 町村 ラッキーニャン 】

今日は  
フィールドレポーター記念日です。腕章をつけて アミを  
持って レポーターヤットを持って 田んぼへ。

早速、アミを 見つけ。道路わきの 犬のウニ子、  
ワッ、臭い。カガとんぼの イー。刺さってる。

泥水がかかっ、フ、イヤアア。何目何? 47から  
ん。。。。 えっ、私って、フィールドレポーター何って

つかい? と 落ちこみかけた 時の時、友人の

「これ 何や あもろいもん 見つけた?」の 声に  
「何? 何? 何?」と 喜び 走って いく私でした。

※ 草津市。今日の感想を書きました。

送信者： ひまわり <hitsuji@mbox.kyoto-inet.or.jp>  
宛先： 古谷 善彦 <huruya@poppy.ocn.ne.jp>; kuwahara <kuwahara@lbn.go.jp>  
送信日時： 2000年7月9日 22:47  
件名： 掲示板に再挑戦？フィールドレポーターの山本です。

カマキリの卵のこと。  
[000622]の古谷さんへ。 羊の大冒険より。

7月6日に3cmくらいのカマキリの子供をみつけました。  
つつじの木にそっと残しておいた、観察用のカマキリの卵の様子を久し振りに見に行きました。  
それまでは硬かった卵が、触ったとたん、なかが空洞であることがわかりました。  
枝を切り取って間近でよくみたら、底辺と、側面に穴がいくつかあいていました。  
それまでは、孵化する以前に乾燥してしまったのかなあ。なんて思って解剖を試みようとしてま  
したが、おもいとどまって「よかった。」  
でも、肝心の誕生のシーンを目撃できなかったのが、残念です。みたかったなあ。

。。。。。。△。。。○。。。。◆。。。。。。。。

ちなみに、交流室に孵化後の卵がついたつつじの小枝をおいてきました。  
フカフカ感を是非触って、あじわってみてください。

。。。。。。。。☆。。。★。。。。。。。。

以前の掲示板を見ていたら、[000420]の森小夜子さんも、  
「お正月の松飾を調べてはどうでしょう」とおっしゃってました。  
有田さんと山本の原案がもし採用になるようでしたら、八日市の森さんの意見も聞いて見てくだ  
さい。個人的にもけっこう専門的に調査をされているみたいですし。の

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

山本恵美子  
e-mail:hitsuji@mbox.kyoto-inet.or.jp

送信者： ひまわり <hitsuji@mbox.kyoto-inet.or.jp>  
宛先： kuwahara <kuwahara@lbn.go.jp>  
送信日時： 2000年7月8日 23:02  
件名： フィールドレポーター掲示板への投稿

表題【井戸から泥水？】  
投稿日 2000.7.8 草津市・ひつじの大冒険。

聞いた話ですが。  
5月6日頃。井戸水からどぶくさい水が出てきたそうです。  
色もおいもすっかりドブミズだったとか。  
電気で吸い上げて、水道のように蛇口で使用しているのですが、こんなことは初めて。  
翌日には収まったそうです。  
場所はJR栗東駅の近所。  
都市化がすすむ栗東町の恐怖でしょうか。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

山本恵美子  
e-mail:hitsuji@mbox.kyoto-inet.or.jp

表題【カマキリの卵囊ーその結果ー】

投稿日【000801】

名前 草津市の古谷善彦

山本さんからカマキリの子供をみつけた。とのメールを受け早速養育？中のオオカマキリの卵囊を見たところも触ったところもなんら変わったところがないので、先月中旬に時期も遅いので、いよいよ解剖にかかりました

中は乾燥していて、一個には焦げ茶色の小粒が多数、もう一個の卵囊は何も無く、今年の孵化は不発に終わりました。もう一度挑戦？するか  
アドバイス頂いた皆さん、有り難うございました。



卵囊は何も考え中。

表題【来年はホタルが舞うか？】

投稿日 000801

名前 草津市の古谷善彦

春先になるとホタルの情報が、あちこちから耳に入ってくる。しかし残念ながらこの数年いや十数年もホタルを見たことがない。

ところが、である。7月中旬の頃、国道1号線の草津川天井トンネルを越えてサンサン通りの一筋北の細い道（草津・栗東行政事務組合、休日診療所などのある道）沿いの1メートル余りの川に、魚やカワニナがたくさん棲んでいるのを発見。水も大変きれい。

来年はきっとホタルが舞う！？！？だろう・・・と今から期待している。



## フィールド レポーター 掲示板投稿用紙

表 題 【本当だったハンターズ ストーリー】

投 稿 日 【000705】

名 前 【加 田 啓 英】

ハンターの間で言い伝えられ、嘘とも本当とも断言しきれない話はいくつかあります。その内の一つ。「ハンターは物陰に隠れ、水辺の堤の上を、赤犬に行ったり来たりさせると、鶉が寄ってくる。そこで、やおら飛び出し銃を撃ちまくれば簡単に鶉が獲れる。」これにつき、実際に目にしましたので、その様子をお知らせします。

場所は県立曽根沼湖岸緑地（膠根の西南端）、犬は殆ど黒に近く、わずかに褐色の縦縞、（但しチンチンした時と動物学者には横縞）です。冬、この沼で多数の、コガモ、ハシビロガモ、マガモ、カルガモ等が冬を越します。ここに運動のために良く犬を連れて行くのですが、犬が勝手に水辺をウロチョロすると、沖の鶉の大群が、一斉に静かにこちらに向きを変え、大艦隊の上陸作戦か、あるいは集団催眠にかかったか、のように滑る様に迫ってくるのです。人がカモ類と分類したものが同じ行動を取り、カイツブリ、オオバン、カワウは「我聞せず。」なものも面白いと思います。

今は殆どが飛び去り、オオバン、カイツブリの親子、カルガモの親子が残るのみです。

カルガモは、冬ほどではありませんが子連れのまま犬に向かってくる傾向があるようで、この習性は種にとって、かなり不利ではないでしょうか。

表 題 【 水色のあじさいはどこへ、 】

投稿日 【 00.07.06 】 お名前 【 大 津 町 村 】

伊 東 貴 美 子

隣の家のあじさいは、昨年までとてめ涼しそうな水色でした。どろした事が今年、赤色です。私の家も少し離れた家から水色のあじさいの枝を貰って来て昨年まで木を植えました。今年は蕾がついたので楽しみにしていました。ところが赤色です。では町内は、と見て歩くと赤い花の方が多いのです。

土の質によって(酸性土は水色、アルカリ性は赤色)違ふと以前から聞いていたが、土を入れ変えただけでもないので、科学的に言っても何が原因なのでしょうか。私はやっぱり雨に濡れているあじさいは水色が好きです。

## フィールド レポーター掲示板投稿用紙

表 題 [ハンターズ ストーリーの続編]  
投 稿 日 [000725]

名前 [加岡 啓英]

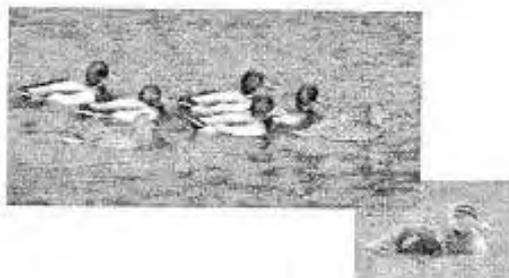
7月10日に又、犬を連れて曾根沼湖岸緑地へ行きましたが、珍事件に会いましたので聞いてください。西岸のカルガモの群れが泳いでいる横を通り過ぎ、約200m程離れたところで犬が泳ぎだしてところ、5羽のカルガモが（血相を変えて？）低空をピーピーガーガー鳴きながら飛来し、犬の鼻先へ着水、しつこく付きまとうのです。犬を約500m程離れた所まで連れて行き、泳がせますと、またまた集団ストッキングです。犬が陸に上がっても間近に取り巻き、カモの飛び立ち難い道路上でも、常に犬の前に立ち塞がり騒ぎ立てますが、犬が進めばカルガモが少し退きますので、直接の接触はありません。尚、この5羽は全て成鳥でした。

カラスやケリのモビング、コチドリの偽傷も、こちらが営巣場所を離ればおさまるのに、なぜこうまでつきまとい警戒するのかわかりません。

この犬を飼いだしてから5年になり、週に何回かはカルガモの泳ぐ川や沼で泳がせていますが、こんな目にあったのは初めてです。

その後、7月11日と7月17日に、再現写真に撮るつもりで、同じコースを歩きましたが、カモは岸近くまでは来ますが、陸までは追って来ませんでした。あの時の興奮のトリガーは何だったのでしょか。

ここでは今、カルガモの雛はブラックバスの餌食1こなるのか、親1羽子2羽程度の極端な少子化が進んでおり、生き延びた雛は殆ど親に近い大きさまで育っています。ところが7月17日に、親が背中に乗せて泳ぐほどの小さな雛を7羽連れた一家を見ました。抱卵中の鳥の卵を抜き取ると、又産み足すことは知られていますが、雛が全滅すると又産むことがあるのでしょうか。



## フィールド レポーター掲示板投稿用紙

表 題 【プランターで水稲自作農】

投 稿 日 【000725】

名前【加 固 啓 英】

プランター2個に水稲を栽培しています。底はポリエチレンシートで水はバケツで加え、カップで汲み出し、肥料はN:P:K=5:10:5の液体肥料ですので、外界から一応隔離された、いわばスタンドアロン型水田です。実は外からのバイオニア的侵入動物を観察したかったのですが、庭土が混入してしまったこと、及び粉からの生育が思わしくなく、他所から頂いた苗を追加してしまった為、この点については失敗に終わりました。生き物はミジンコの類とおもわれるものが認められますが、苗が庭土に由来するものでしょう。来年は鹿沼土の様な生物のいないと考えられる土で、粉から作りつて見るつもりです。これを手掛けてから、妙なことが気にかかります。

その1 稲を植えてあるプランターは同等の水を張った容器と比べると、水の蒸発が非常に速く、すぐに中干し状態になり、多量の水を加えることとなります。

これは、水に溶けている塩類等は、非常に大幅に濃縮と希釈をくり返しているのでは無いでしょうか、この環境に適応した稲にとっては「住めば都」なのでしょう。

その2 風が吹くと蒸発が更に加速されるようです。表面積の大きな葉の間の空気が急速に更新されることで、稲の吸い上げた水の蒸散がうながされる為でしょうが、それに伴い、肥料となる水溶性物質の取り込みも加速されそうな気がします。

「風がふけば桶屋が儲かる。」ではなく「風がふけばお米が豊作。」てな話は聞いたことがありませんが。

### 「プランターでの水稲自作農」（加 固 啓 英）へのコメント

このコメントを求められたのですが、「へえ、そうですか」というくらいしか言えないですね。プランターの水の蒸発が非常に早いというのはよくわかります。水面からの蒸発よりも植物からの蒸散のほうが量はずっと多いということです。例えば森があると水がたくさん蓄えられているようにいいますが、あれは間違いです。樹木が蒸散する水の量は地面からの蒸発よりもずっと多いですから。森が水源として注目されるのは、一度にすべて流れてしまう水とその場所や地下に一時的に残すためです。

外の田んぼで中干しをするのは、丈夫な稲を作るためと聞いたことがあります。プランターでも結果としてはそのほうが良い環境なのではないでしょうか。

「風がふけばお米が豊作」は面白いですね。ある程度までの風ならそうなりそうな気がします。

（布谷 知夫：学芸員）

表題 カマキリの羽化はまだ?

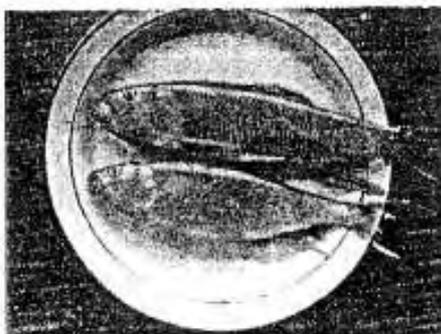
投稿日：2000年8月5日

有田重彦

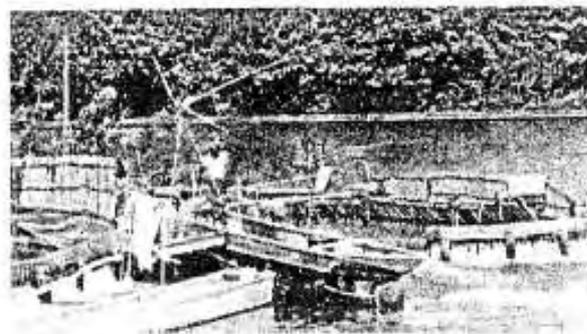
昨8月3日、公園横の草むらでカマキリを見つけましたがまだ羽根のない幼虫でした。カマキリは卵のうちで前幼虫 *pre-nymph* となり、5月から6月にかけて孵化して1齢幼虫となりますが、8月の最終孵化（羽化）まで5ないし6回の脱皮を繰り返して大きくなるそうです。

先の田んぼの生き物調査のとき、畦道の草むらで長さ3cm位のまさにニンフのように愛くるしい2ないし3齢と思われる幼虫を見つけ、元気に育っているな、頑張れよと励ましてやったのですが、今回見つけたものは5ないし6cmの大きさと多分最終の5ないし6齢幼虫でしょう。

次に羽化した成虫の姿を見つけることが出来るのは何日でしょうか、楽しみにしています。



雄ばすと雌ばす



姉川の四つ手網漁

フィールドレポーター

# 掲 示 板



2000年度 第4号 (9月)

・ フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

なかなかまとまった雨が降らず、9月10日の朝には琵琶湖の水位は-97cmまで下がり、琵琶湖に限らず、山も、畑もカラカラの状態が続いていました。実をいうと、当館水族では、5日には琵琶湖から取水できなくなってしまい、それ以降魚たちの飼育に水道水を使っているような状態です。また、今月はじめには、この渇水の状態をみなさんがどのように感じておられるかを調査しようということで、担当の方の独断により緊急調査ということで、みなさんに渇水のレポートをお願いしました。ところがところが、10日の夕方から降り始めた雨は、この原稿を書いている11日にもまだ降り続け、少なくとも明日までは降り続けるようです。カラカラだった山も畑もみんなこれで一息つくことができるでしょう。この雨で、琵琶湖の水位がどのくらい回復するか期待したいと思います。

ところで、前回の掲示板でもお知らせしましたが、「ドングリ調査」がいよいよ始まります。みなさんの身の回りにあるドングリの木にも、もうそろそろ小さなドングリの赤ちゃんが実り始めているのではないのでしょうか。楽しく、有意義な調査になるようみなさんよろしくお願いします。また、今年度最初の交流会を10月に開催しようということになりました。今回の交流会では、前回行った田んぼの生き物調査の報告と、今回行うドングリ調査の勉強会を兼ねたものにする事になりました。その際、フィールドレポーターの活動を広く知ってもらい意味からも、交流会にフィールドレポーター以外の人たちの参加も呼びかけてみようと思いますので、お知り合いや興味のある方をお誘い合わせておいください。フィールドレポータースタッフからの呼びかけにもありますように、フィールドレポーター同士の交流をもっと活発にしてゆきたいと思います。そのためのアイデア等ありましたら、是非お寄せください。

フィールドレポーター10月の予定をお知らせします。

- ・ 10月1日(日)  
定例会：交流会の準備等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・ 10月21日(土)  
平成12年度第1回交流会 於：琵琶湖博物館生活実験工房 13:00～
- ・ 10月28日(土)  
定例会：交流会のまとめ等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～

多くの方のご参加をお待ちしています。また、これ以外の日でもお気軽に来ていただければと思います。

表題【田んぼに貝が全くいない！】

投稿日【000715】 大津市 前田雅子

田んぼの生き物調査ではついついエビ類に目が向いてしまいます。そこで今年は、貝類も積極的に探すように心がけました。

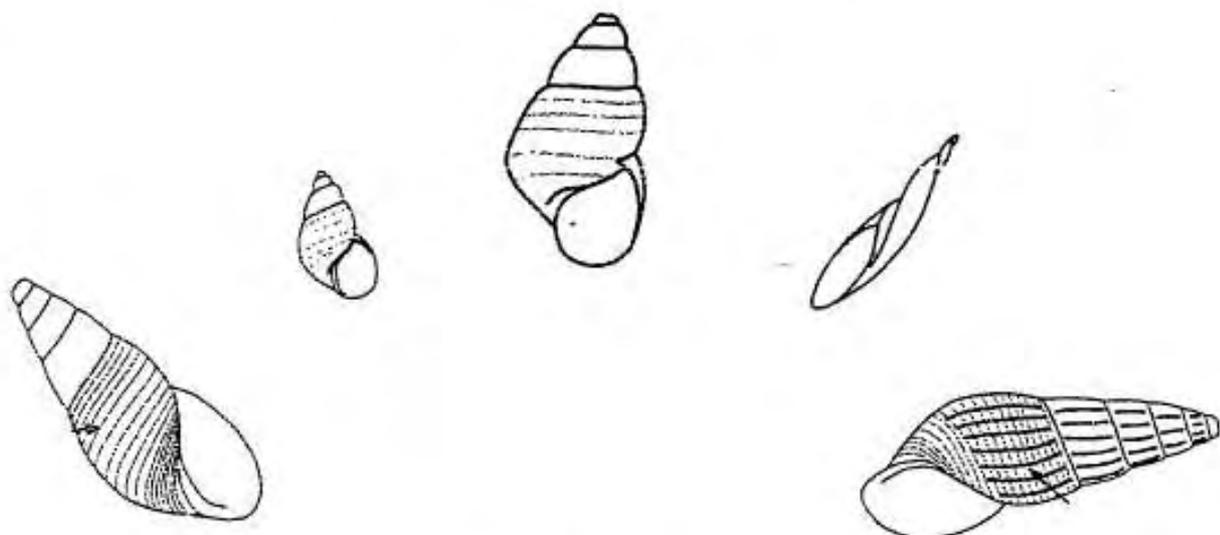
私が調査したのは大津市北部と志賀町南部で、ホウネンエビやカイエビが所々にいて、貝はヒメモノアラガイが一番多く見られる地域です。田んぼ一枚一枚をみるとエビ類だけがいる田、貝類だけの田、また両方ともいる田とさまざまですが、貝もエビもない田が40%ほどありました。貝がない理由を農家の方に尋ねると、「農業のせい」または「乾田化で」とおっしゃいます。掲示板第2号で松田常子さんが農業・肥料とエビ類の関係を述べていらっしゃいましたが、私が聞いた中には「昔はたくさんタニシがいたが、農業でいなくなり、替わりにこれ(ヒメノアラガイ)が出てきた」という意見もありました。

ところが、あちこち調べるうち、一帯のすべての田に貝類が全く見られない地域があることに気がつきました。志賀町のJR蓬萊駅の西地区(76枚の田、面積約7ha)と、志賀駅北西の荒川地区(51枚の田、約9ha)です。

この辺りは未圃場整備の棚田が続く所で、水温が低いためか(6月中旬の曇りの日で水路19~22℃、水田内21~29℃)ミジンコが少なく、草や藻もなく、一見とてもきれいな田んぼが多いのが特徴です。大きなオタマジャクシがたくさんいるのも目をひきます。

それにしても、どうして全く貝がないのでしょうか？ いないのではなく、見つけることができないだけかもしれません。2週間後に行くと生物相が変わっていたということもあります。そこで中干しに入るまでに、2週間の間をおいて2回以上調べてみましたが、やはり見つけることはできませんでした。いない理由として強い農業を使っている、気温や水温が低い、餌がないなどが考えられますが、ここだけが特別な状況にあるとは思えません。

今回の調査で私と同じ経験をされた方はいらっしゃいませんか？そんなことが他の所でもあるのかどうかお教え下さい。



表題【おたまじゃくしはどこに？】

【000426】 大津市@T. Aさん

【000719】 大津市@前田雅子さん

田んぼの調査をしていて、「これだけのオタマジャクシがみんなカエルになったら…」と思わなくもありせまん。でも一夜にしていなくなるのは不思議ですね。参考になるかどうか分かりませんが、調査で見たことを書きます。

1. サギが何を食べているかに注目したことがあります。この時期カブトエビや貝類も食べるようですが、オタマジャクシしかいない田でも採餌していました。ということはサギに食べられたのかも。
2. 田植え時は水路にたくさんヒメモノアラガイがいたのに、中干しの頃に行くとそこにヒメモノアラガイは見えず、オタマジャクシがひしめきあっていました。田んぼの排水口から落ちて生きのびたようです。
3. 中干しの泥田をオタマジャクシが器用に這って移動していました。這って行った先に水があるとラッキーなのですが…。
4. 同じく中干しの田んぼで貝を探していると有機肥料のような臭いが…。よく見ると干からびたオタマジャクシが土に帰ろうとしていました。

動物には受難がいっぱいです。

☆☆

表 題 【 伯 楽 常 に ある と い え ど 】

投稿日【000814】お名前【彦根 ①町村 加 園 啓 英】

植物の種子や昆虫等を、つぶすことなく取扱うのに写真のスルム  
ケースが便利です。そこでDPE屋さんにそれを譲って頂けない  
かと伺いますと、「捨てるだけですから。」と馬に喰わせる程  
の量を渡されました。

今、この内の半分程でも食べてくれる馬を探しています。

尚、田んぼの生き物を扱うには天プラを油から取出す  
ステンズ網が便利です。水を濁さず、サンプルの水洗も容易です。

## フィールド レポーター 掲示板投稿用紙

表 題 [続 プランターで水稲自作農]

投稿 日 [000711]

名前 [加固 啓英]

- 1) これを喜んでいてはプロにはなれないのですが、私のプランター水田に歴きとした農業雑草が2種類も生えました。これで紛れもない水田と認められたような気がします。最も近い、本当の水田からは約30m離れており、それより近くには種子を供給するような、親株となる植物は見当たりません。

種類は タマガヤツリ(カヤツリグサ科)とコナギ(ミズアオイ科)と思われます。カヤツリグサ科にはこれほどソックリさんが多いとは今回初めて知りました。

- 2) どうやら無事受粉出来たようです。「突るほど頭を下げる・・・」状態の様に見受けられます。

水田からは約30m離れており、50×22cmのプランター2個、総面積にして2200cm<sup>2</sup>、苗2~3本を一籠めとして植えつけた植え株数16株、この小さな田んぼを風が吹き抜ける間に花粉が雌しべに付く確立は非常に低いように思われたのですが、多分粉が出来ている様に見受けられます。

- \* 稲の様な一年性草本と云われるものは、遺伝情報の中にプログラミングされた運命によって、必ず枯死するものなのではないでしょうか。光(日照時間)と温度を管理すれば延命できる可能性があるのでしょうか。もし可能性があるのでしたら穂を刈り取った後の株で試してみたいのです。

---

加固 様

秋の田んぼの刈り取りの後で、その株から緑が伸びてきて、秋の終わりごろには稲が突っているのをご覧になったことはありませんか。普通はシイナが大部分なのですが、ちょっと暖かい秋だったりすると、ちゃんと突っていることがあります。

一年草とか二年草とかいう呼び方は、とてもあいまいで、例えば庭のキクが冬をこして翌年も咲いていたりします。関西では一年草だと思っても、九州あたりでは多年草であったりするものもあります。

ムギは収穫の時には完全に全草が枯れてしまっています。あれははっきりした越年草です。しかしイネはそうではなくて、収穫の時にまだ茎は緑のままです。つまりイネは温度と日光が確保されれば、おそらく何年も生きている可能性があります。

ただここまでは経験的にそう思っているだけで、管理して何年生かせるものなのかは知りません。暖かくして、電燈をあてていれば、かなり長く生きていると思うのですが、ぜひやってみてください。(植物担当者 布谷)

表題「除草剤の使用は最少限に」(田んぼの生き物調査を終えて思うこと)

投稿日 000816

能登川町 浅井融

「うちの田は化学肥料はつかわんのや。畦の草も除草剤つかわんと刈るんや。ほんで、うちの田には貝やらがいっぱいおるし、米がうまいんや」

Aさんはそうって自慢していた。原因は分からないけど、確かにAさんの田んぼには貝類もたくさんいたし、貝エビもたくさんいて、私にとっては大変ありがたかった。

稲が大分分けつしてきたころのある日、Aさんは胸のところにつりさげた機械で白いつぶをまいていた。

「よつんばいになって草取りもできへんし、いっぺんだけ除草剤をまきますんや」

「あっ、これ おたく言うてやあった虫とちがうかいな」

わたしは急いでAさんのそばに行ってみると、どうだろう、たくさんな貝エビが群になって水面を泳ぎ回っている。そんな群があっちにも、こっちにも――。苦しくて逃げ回っている。わたしにはそう見えた。

「おたくのいうてやあった虫、ちょっと死ぬかもしれんな」

Aさんは悪いことをしたときのように、すまなさそうに言っていた。

Aさんの予言は的中した。二日後に田んぼに行ってみると、どこにも一匹の貝エビもない。それどころか小さな貝類もいくつもはらわたを出して浮かんでいた。

わたしは初めて除草剤の恐ろしさを目の当たりにしたのだ。

ずっとずっと昔、山の分校にいたころ、夏休みの終わりにPTAと運動場の草むしりをしたことがあった。草だらけ、少ない人数、とうとうお父さんたちは除草剤をまきだした。わたしたちは走って行って「除草剤はまかないでください」と頼んだ。おかげであとの草むしりが大変だったけれど、子どもたちは取り残しの草のある運動場をはしりまわって、山の分校の小さな小さな運動会が無事終わったのを、ふと思い出した。

「除草剤は――」と書いていても、そのころは、いやそれ以後もその恐ろしさを目にしたことはなかった。それだけに、今度の出来事はがつんと来たし何よりも貝エビたちが可哀想であった。

最近はお墓の草むしりにも除草剤が使われているそうだ。土の下の人々はどう思っているだろう。それにこの間、虫が入ってこないように網戸に噴霧する薬があることを初めて知った。虫がいやがって逃げるのではなく、網戸に来た虫たちが薬をなめて死ぬようにするためのものだそうだ。これは除草剤ではなくて殺虫剤だが、どっちにしても虫にとっては同じようなものだと思う。

部屋の中に迷い込んだほたるにきゅきゅ言ったのはいつのころだったのか。だいどこの隅でりりりりと鳴くこおろぎに秋を感じたのはいつのころだったのか。そんなことを言っているのは年よった証拠かも知れない。

いや、このごろのあぜ道を見てごらん。草はみんな茶色に枯れて、そばの堤防の草まで茶色に枯れて、たくさんの草たちが枯れて、たくさんの虫たちが死んでその真ん中に稲が青々と茂っている。

自然を畏れることを知らないひとびとに幸せはこないだろう。太陽を拝し、神々に感謝の祭りを残したいにしえの人々の心は、もうのこっていないのだろうか。

話が、うんとそれてしまったが、私の願いは「除草剤の使用は最少限にしてほしい」だったそれだけである。

表題 [カマキリの羽化一統]

投稿日 [000829]

名前 [有田重彦]

8月3日に続き、8月18日にも公園の桜の枝先で、まだ羽化していない尻尾の大きなカマキリの終齢幼虫を見付けました。孫と蟬捕りに来ていたので帰りに捕まえて羽化の様子を観察してやろう、そのためには生きた餌がいるな等と考えていたのですが、帰りに寄ってみると、羽がないのにどこに行ったのか見つからず残念に思った次第です。

ところで今日8月29日、その公園にドングリの成長状況を見に行ったところ、枝先にひっかかっているカマキリの脱皮した抜け殻を見付けました。尻尾の部分が無くなっていたのが無念ですが、カマキリの最終孵化が8月の18日から29日の間という、予想外に遅いことが確認出来たと思っています。カマキリは夏の虫ではなく秋の虫だと認識を変えないといけないようです。



投稿日 2000.8.14.

加園啓英

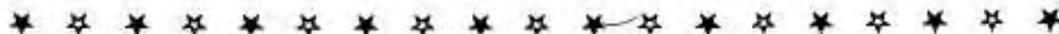
表題 これは何者でしょうか

これは何者でしょうか。

悲しいかな老眼でよく見えないのですが、苦手なカメムシにも、甲虫にも見えますので。

たぶん家の前でジョロウグモの写真を撮ったときに乗り移ったと思いますが、室内で私の手の甲をはっていました。

Aug/14/00 8:30



加園様

これは、トゲシラホシカメムシ (*Eysarcoris parvus* Uhler) という種類のカメムシの仲間です。イネ科雑草中に普通な種で、7月下旬頃から水田に侵入してイネを加害し、斑点米の原因となる重要な害虫です。雑草の株元などで、成虫で越冬します。

昆虫類担当

八尋克郎

# フィールド レポーター 掲示板投稿用紙

表 題 [わが家を訪れる蝶たち]

投 稿 日 [000711]

名 前 [加 岡 啓 英]

私の家（メッシュマップ30-5236-6145）は手当たり次第に野生植物を移植、取り蒔き、挿し木し、野鳥の糞から生えた物も加わり、昼なお暗いジャングルの様です。（少々オーバーかな。） その結果か、大型の蝶の通り道となっておりますので、わが家を訪れる蝶たちを紹介させていただきます。

**アゲハ** 庭にノビルあり。自宅から最も近いミカンの木まで約60m。  
 （本によって和名がアゲハチョウ<平凡社 動物百科>ナミアゲハ<平凡社 日本動物大百科 9 昆虫 II>等となっているものがある。）

**キアゲハ** 庭にミツバとバセリが自生状態。

**クロアゲハ** 庭にネムノキあり（勝手に生えた、現在二階の屋根より高い。）

**アオスジアゲハ** 自宅から最も近いクスノキまで約100m。

防虫剤の樟脳（カド）の原料であるクスノキを食草にするとはい工根性しとるなー。

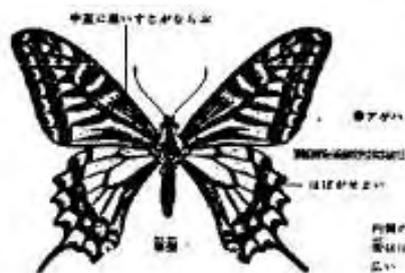
**モンキアゲハ** 食草（主に野生のミカン科）がどこに有るのか不明。自宅から最も近いミカンの木まで約60m。

私は茨城県の土浦市で育ちましたが、この蝶を茨城県で、その後も勤務地の東京、静岡県で見た記憶がありません。

**ツマグロヒョウモン** 庭に多数のニオイスマシ、プランターその他で野生種のスマシ類を栽培。猛烈な食欲でスマシ類の地上部はすぐに食いつくされる。

\* 残念なのは近くの荒神山で見かけるカラスアゲハがやって来ないことです。

\*\* 食草としてカラタチの様なミカン科の木が欲しいところです。セリ科のミツバやバセリの種子を蒔き、そのまま放置して置けば、アゲハチョウ類の道が出来、卵を生んでゆきます。但し、相当の量の食草を食い荒らされることは覚悟しておかなければなりません。



(参考 自然観察のついで 25頁 [上])

桑原様：梶本です。

掲示板第3号ありがとうございました。

まったく雨の降らない夏。こちらは、畑の水やりに、もうほっこりしています。長浜は、ときどき夕立があるそうなのですが、びわ町は、雨雲に嫌われたのか、まてどもまてども降りません。

ところで、雨が降らないので、北湖の透明度がいいのかと思っていたら、かなり悪い状態で、驚いています。水草が繁茂し、それが腐って異臭までしています。人の手が入らないと田畑も湖も荒れてしまうことがよくわかります。今年は、湖上へ、出ていないので、湖岸からの観察だけで、確かなことはわからないのですが透明度は昨年と比べわるいのでしょうか？

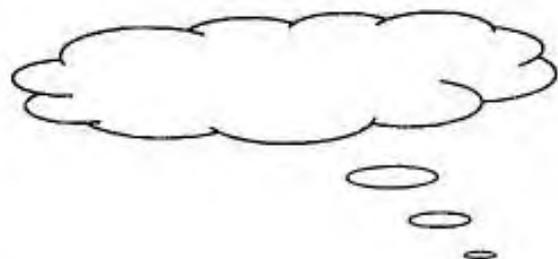
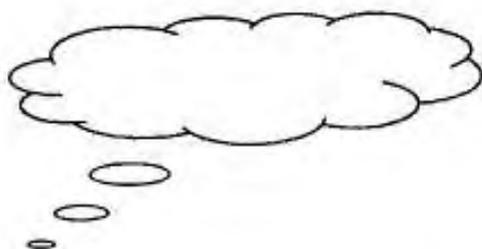
蓮とハスのおはなしたのしく拝読いたしました。わたしは、土山町へお茶の見学に行ったとき整然と続く美しい茶畑に感激したことがあります。同じ県内でも地域の環境がちがうとわからないことがたくさんあります。掲示板は、それを明らかにしてくれるうれしいお便りです。

ところでわたしは、ハスの塩焼きにお酢をかけていただくのがいちばん好きです。夏の味ですね。

ところで、ホウネンエビ・カブトエビ・カイエビをはじめて見る事ができた感動的な瞬間うらやましく思いました。

たのしい掲示板本当に有り難うございました。

では、お礼まで。



表題【「ブナの森を調べよう」】

投稿日【000830】お名前【土山市<sup>町</sup>村 京美季男】

8月13日(日)、比良山武奈ヶ岳への観察会に参加しました。  
約1000mの山頂駅では晴天でしたが、1100m位から雲の中  
を進みました。直径40~50cmのブナの大木もあって、葉から  
枝へ、枝から幹へと水が伝わって、地面に流れていました。  
砂漠にいる甲虫が、霧を水滴に変えて飲んでいくように  
ブナの木も、沢山の葉で、霧を水滴に変えているように  
思いました。ブナの木があると、谷間に水が流れるように思  
いました。

(当日のスライド同封)



表 題【 登山道に続けて40年 】

投稿日【 】 表名前【 彦根 市野村 山園啓英 】

残暑お見舞い申し上げます。高へい所からの無礼をお赦し下さい。

登山歴が長いので山に登山道が山小屋のゴミ箱や  
道辺の残土置き場をのぞいてまた水を集めておきます。

そこには丁寧に挿し芽すれば登山道にまた山にはおまかせで

種子の付いている高山植物の残骸(道の脇修やこぼれ草の  
靴履きの周囲の除草で最少限ではあるが絶える。)があるの

です。持帰ったものが盗採と疑われそうでは出来ません。

向上心があるのか、足の臭いが  
好きなのか、低地の植物で  
ありながらオオバコなどは  
かたがたの高地まで付いて来ます。



追伸 山の花の写真家中村至伸氏に話をうかがう  
ことが出来ました。彼によると「みすみすゴミとなる分を持帰り  
大事に育てるのだったら、とかめだてすることではないでしょう」  
との意見でした。

こういうことを正式にコメントするというのはむづかしいなあ、と思いますけれども  
ここは本音でいしましょう。植物の勉強をしている者として考えると、持って帰って、  
育ててあげるのがいいのではないのでしょうか。

山草を盗掘されることにたいして、種子を採取して、それから育てて、その苗を配布  
している人(グループ)があります。そんな話を聞いて複雑な気持ちには成りますが、  
そういうやり方をせざるを得ない、ということも有るようには思います。

布谷 知夫(植物担当者!)

表題 「 (フナズシ を作って見よう ) 第二回目の作業に加わって」

投稿日 「900323」

投稿者 「志賀町 尾形 勇」

7月9日朝 昨日の電話どおり、前田さん9時にJR和歌駅前にマイカーで迎えに来て頂く。度々の事恐縮

琵琶湖大橋からは、湖上に白いヨットが点々と見え、あだかも数羽のかもめが 羽をやすめて いるよう、明るい太陽のもと初夏のえもいわれぬ、素晴らしい風景だ!

9時半博物館着、前田さんは受付の応援に 今一人別の会の方も来られていた。

ぼつぼつ 同仲間の人々が集まって来て、10時前にはほぼ40人位になった。

桑村学芸員と前回のお師匠さん北村さんと、お二人から本日の作業と内容の説明があり、塩めき、水洗い、ご飯づめ、桶づめ、とのこと、今日まで仕込まれていた桶から魚を出して、あらかじめ水をいれた 大き目の鹽で、一匹ずつ丁寧に塩めき洗い作業とタワシで体の表をごしごしこすって 鱗の取り残しや、黒い皮の部分をごすりとしてさらに水洗いしてゆく、これなかなか力の要る 仕事なのだ。

それにエブロンはしているものの、魚の汁が飛び衣服全体にかかってその匂いたるやすごい悪臭 作業はさらに続く、よく洗った魚を、物干し竿に 一匹ずつ洗濯ばさみで吊り下げてゆく

その数300匹余り、全部で5竿につるした様はまるで 日下し魚の市がたつ風景だ!

そこえ大型扇風機二台をそえ、天日と合わせ風力乾燥だ。このまま午後の作業まで乾燥させる あと昼まで30分ばかりあり、前回やった縄編作業 - (わら縄を3本ずつで三つ編みし一本の) 縄帯 (長さ3~4m) をつくる。

12時~13時昼食 13時から北村師匠の講義 (フナズシに関する一般的知識/スライド を用いての説明) あり 14時から再び作業場へ

今度はいよいよ ご飯を魚に詰めるのと 大桶に魚を積み込む仕事だ、一匹々々に出来立てのご飯 (しばらく冷まして塩を混ぜたもの-おにぎりより一寸からい位) を 鯉からお腹のほうに おにぎり 一個ほど詰め込んでゆく 次にこれらを 大きな桶2個に 魚を底から敷き並べて 漬け 一段ごとに御飯を敷き (ナドウィッチ式に) 2段3段と漬けて一番上に先程作った縄帯を ワッパのように巻きながら敷き 最上部に板蓋を置き 重石 (20kgを2個) を乗せ作業終了 今日はかなり長時間の作業となった。これで12月の中頃まで ねかせて 第三回集合日である 12月17日の仕上がりを待つこととなった。勿論その間の大切な仕事 管理、水補給、検査 などは 博物館の森田学芸員が宅に持ち帰り長期間やってくることとなった、大変ご苦勞をお掛けします、よろしく願います。 あとは無事完成を祈って、...

表紙の写真 (フナズシ)

知る人ぞ知る滋賀県特産の「フナズシ」です。表紙の写真を見ただけで、もう「つばき」が出てきて、「お酒」が欲しいと思った人は「フナズシ通」です。

写真は、漬けたフナズシを薄く切って並べています。黄色い部分はフナの卵です。薄い皮のような部分が魚の腹の身で、背中の部分は漬けてあったのでやせています。まわりの白い粒が、フナと一緒に漬けて込んで発酵したご飯の残りです。たくさんの卵を詰めたフナを食べるのですから、たいへん貴重な食べ物です。大皿にきれいに盛られていると、おいしそうですが、発酵させているので匂いも独特で、好き嫌いのはなはだしい食べ物のひとつでしょう。多くの方に一度は試食していただきたい食べ物の一つです。(内藤)

(写真撮影、松田征也)



カワウは、少し前までは愛知川では夕方には湖北をめざして蚊柱の様に、宇曾川では視野に 10 羽程度、曾根沼では一視野に 2～3 羽は常に見られたのですが、今は全く見当たりません。7/02 文禄川 5/12 曾根沼、5/11 宇曾川(5/01 以前に愛知川)を最後に私の記録からは消えています。

これは何か対策を取った結果でしょうか、季節的な現象でしょうか。

### カワウについて回答

河川で見られるカワウですが、いなくなった理由は主に2つ考えられると思います。ひとつは、単に食物となる魚が季節的にいなくなったこと、もう一つはご指摘の通り、なんらかの対策により追い払われたこと、の可能性が考えられます。

カワウが河川に多く現れるのは、一般にアユの遡上の時期(5月頃)か、アユの産卵の時期(8-9月頃)となっています。もちろん、他の種類の魚でも餌になりそうなものがいれば、来る可能性はあります。5月以降見られなくなったというのは、そういった餌となる魚類が季節的に減ったために河川からいなくなった可能性が高いです。

もう一つ、対策の影響ですが、現在知る限り、とられている対策は有害鳥獣駆除という形で、食害があると考えられる場所で銃器による駆除がおこなわれています。駆除は期間が決まっていて、河川の場合はアユの遡上時期、つまり5月頃を中心に行われますので、その影響があった可能性はあります。ただし、観察された河川で駆除を行っていたかどうかは把握していません。ただし、繁殖地での駆除を見る限り、1回やそこらの駆除でカワウが全くいなくなるという可能性は低いですし、駆除を行っている可能性が低い曾根沼などでも見られなくなっていることから、対策の影響というよりは餌となる魚が季節的に減ったなどの影響の方が高いと思われます。

ちなみに、カワウの繁殖期は2月～8月頃で、繁殖期が終わるとカワウは広く分散して琵琶湖周辺での数は減ります。そうしたカワウそのものの生態や行動の変化が、生息場所の変化にも影響しているかもしれません。細かい分布についてはまだまだわかっていないことも多いので、また何か情報がありましたら教えて下さい。

琵琶湖博物館の鳥類担当学芸員、亀田でした。



水を浴びたあと、水をきるカワウ



つばさをひろげて日光浴をするカワウ

表題【トングリ】

投稿日【000828】お名前【草津市町村 中後佐知子】

近くの神社の横を通りかると、トングリの実を見つけ、布谷さんに説明を聞いたとなり、大きな帽子の中に小さな実がちよこんと、おほいよく毛が3本。これからどんな月に大きくなっていくのか、記録して見ようと思う。



表題【雙腕のカマキリ】

投稿日【000912】

名前【有田重彦】

今月初め、菜園横の草むらでやっと羽化したオオカマキリを見つけました。今冬のカマキリの卵のうち採取のとき見つけた3個のうち、この場所の種族保存のため残しておいた1個の卵のうちからちゃんと孵化して成虫になったのだと喜んだのですが、良く見ると右前足の付け根から一関節を残して先が無くなっています。外敵と格闘して食い切られたのか、ギザギザの切断面です。少し茶色がかっています。

名誉の負傷をした雙腕のカマキリでしょうが、これでは獲物を捕まえることが難しいだろうと保護、金魚鉢で飼うことにしました。餌は島にいる小さなバッタを8匹と、バッタの餌としてつる紫と草の鉢（プリンカップ）植を入れてやりました。バッタには悪い訳ですが、先日植付けたばかりの芽キャベツの新芽をあっという間に食い尽くした罰と言うことで納得の積もりです。

雙腕カマキリとバッタの関係はやはりバッタ優位で、一本の鎌では振り下ろしてもビョンと逃げられ半日経ってもバッタの数は減りません。やむを得ず小さいバッタを昆虫標本のように虫ピンで木の枝に刺してみましたが全然素知らぬ顔。まだ環境に慣れないのだと2時間程して見に行くとバッタの姿は無く、下に足の切れっぱしが無残ながら点在しており、餌付けに見事成功と言うことになりました。カマキリは餌を食べる前に比べなんとなく元気になったようで一安心と言うところです。

餌のバッタとカマキリのボリューム比較から、1日置いて与えた2匹目も何時の間にか食べてしまったのですが、また1日置いて与えた3匹目はどうしたのか手付かずで餌のバッタがダウン、動かない餌には見向きもしないのかなと餌の長生きを図ってセロテープで貼り付けたのですがやはり手付かずで次第に元気が無くなり、飼いだして丁度1週間目の夕方とうとう死んでしまいました。鎌の傷口が見つけたときの薄茶色から黒くなっておりこれが死因かと思われます。

雙腕のカマキリを捕まえずにそのままにしても結果は同じだったと思いますが、昆虫の持つ再生機能に期待して前足を根本から折り取ってその再生を図ったほうが良かったのかなと反省しているところです。

なお、雄雌不明ですが遺骸は解剖して内部構造を勉強しようと、冷凍保存しています。

合掌

## フィールドレポーターの交流を活発にしましょう！！

表題 【提案】 フィールドレポーターの交流について 彦根市 加國啓英

フィールドレポーター間のゆるい交流（お互いが拘束と感じない程度の）を図れないでしょうか。その利点は

1. 調査地域がオーバーラップしたり、抜け落ちたり、密度が片寄ったりすることが改善できる。
2. 各人の得手・不得手、知識、特技、資格等を共有、都合しあえる。

現在、フィールドレポーター（以下レポーター）同志の交流は、交流会またはフィールドレポータースタッフ（以下スタッフ）定例会などに参加してもらい、お互いの親交、情報交換を図ってもらっています。しかしながら、交流会やスタッフ定例会に参加して頂く人は限られており、交流の輪の広がりはまだまだ少ないようです。

スタッフ一同も、交流会にレポーター以外の人オープン参加を呼びかける事、フィールドでの講習会の実施、スタッフ定例会へ誰でも参加してもらえるようにする等いろいろ考えて行きたいと思っています。

さて、フィールドレポーター制度は、みんなの自主的な活動より育てていくものだと思います。そして制度が発足して4年目、まだまだ新しい組織です、今なら皆さんの創意工夫や自由な発想でなんとでもなります。

そこをお願いします。レポーターの皆さん、掲示板に、レポーター間の交流に限らず調査の運営、交流会のやり方などについて、夢でも要望でも何でも結構です。いろいろ企画、アイディアを出してもらえませんか。

もう一つは、今年度はレポータースタッフへの新加入の方はゼロと寂しい限りです。いろいろ企画、実行していくには、スタッフの充実が必要です。レポーターの皆さん、一度是非スタッフ会議に参加して下さい。

あまり難しいことを言わず、桑原学芸員を囲んで、みんなでワイワイがやがやと結構楽しくやっていますよ。

また、琵琶湖博物館の学芸員さんとも親しく話しができ、レポーター同志も直ぐ親しくなれること請け合いです。

では皆さんのお越しをお待ちしています……。



掲示板担当  
古谷、武田

フィールドレポーター

# 掲 示 板



2000年度 第5号 (10月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

いよいよ秋も深まってきました。私は、ピワマスの生活史を調査することを専門としているのですが、そのピワマスもちょうど今産卵期を迎えています。機会があったら、北の方の川に行ってみてください、運が良ければピワマスの産卵を観察することができるかもしれません。おススメは、今津町を流れる石田川、マキノ町を流れる知内川、西浅井町を流れる塩津大川あたりでしょう。また、11月12日(日)には知内川においてピワマスの産卵観察会を行いますので、よろしければご参加ください。

ところで、10月21日(土)に今年度第1回目のフィールドレポーター交流会が開かれました。残念ながら、当日は参加者が思った以上に少なかったのですが、内容的にはかなり充実したものととなり、大いに盛り上がりました。今回のテーマは、今年度第1回目の調査テーマであった「田んぼの生きもの



調査」および「田んぼの生きものと小



の立場から発表していただき、ライガーさんと楠岡さん、中井これらについては、レポーター

らせたいと思います。また、私も含めてみなさん初めてドングリを食べた方が多かったようで、あくぬきさえしっかりとすればおいしく食べられるということを経験しました。とくに、ドングリからとった澱粉を固めて作った「カシ豆腐(ムック)」は、冷たく冷やして黒蜜で食べるととってもおいしいのではないかと評判でした。また、有田さんからは、前回のカマキリ調査のその後ということで、卵塊の構造について新しい知見を報告していただき、自然の不思議さ見事さに大いに感動しました。まだ予定は決まっていますが、次回の交流会にはぜひご参加ください。

と「ドングリ調査」の勉強会、ドングリの試食会でした。田んぼの調査については、武田さん、林さんにフィールドレポーター今回の結果から分かることをグさんに報告していただきました。便りにまとめてみなさんにお知



フィールドレポーター11月の予定をお知らせします。

- ・ 11月5日(日)  
定例会：レポーター便り準備等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・ 11月18日(土)  
定例会：レポーター便り発送 於：琵琶湖博物館交流室 13:00～  
次回調査案、交流会案検討

多くの方のご参加をお待ちしています。また、これ以外の日でもお気軽に来ていただければと思います。

表題 【 これは何ですか？ 】

投稿日 2000. 8. 30

土山町 京 美季男

連日猛暑が続いていますが、8月20日、庭のレンギョウの枝に、灰白色、紡錘形のタテ10センチ位の巣を見つけました。(スライド添付) 巣の周囲には、全く出入口がなく、8月30日、夕立のあと、軽くふれると、外殻が少し壊れて、一回り小さな巣が現れました。

断熱二重構造になっていました。トックリバチの巣でしょうか。あまりの暑さに夏眠しているのでしょうか。

美季男さんからの回答



お手紙とスライド拝見しました。

写っているハチの巣はスズメバチ *Oreumenes decoratus* (ドロバチ科) と思われます。巣の形、サイズ、営巣位置から多分、間違いないと思います。保育者の昆虫図鑑(下)などには、巣は石のくぼみなどにつくられるとしていますが、岩田久二雄さん(1980)の「自然観察の手記2」によれば、「…夏には地上高い木の梢枝や草むらの草茎に好んで巣をつけるが、秋には日当たりのよい石面に好んで付着させて…」とあります。これは夏季に作られた巣で、このように低木(レンギョウ?)の枝に作ったのでしよう。

なお、学名はかつてはスズメバチもトックリバチ属 *Eumen-es* に入っていました。その後上記学名に変更されています。(山根正気1996「キボシトックリバチ」インセクタリウム33(4))

以上報告します。 南 尊演 (滋賀虫の会)

表題「除草剤の使用は最少限に」(田んぼの生き物調査を終えて思うこと)

投稿日 000816

能登川町 浅井融

「うちの田は化学肥料はつかわんのや。畦の草も除草剤つかわんと刈るんや。ほんで、うちの田には貝やらがいっぱいおるし、米がうまいんや」

Aさんはそう言って自慢していた。原因は分からないけど、確かにAさんの田んぼには貝類もたくさんいたし、貝エビもたくさんいて、私にとっては大変ありがたかった。

稲が大分分けつしてきたころのある日、Aさんは胸のところにつりさげた機械で白いつぶをまいていた。

「よつんばいになって草取りもできへんし、いっぺんだけ除草剤をまきますんや」

「あっ、これ おたく言うてやあった虫とちがうかいな」

わたしは急いでAさんのそばに行ってみると、どうだろう、たくさんな貝エビが群になって水面を泳ぎ回っている。そんな群があっちにも、こっちにも一。苦しくて逃げ回っている。わたしにはそう見えた。

「おたくのいうてやあった虫、ちょっと死ぬかもしれんな」

Aさんは悪いことをしたときのように、すまなさそうに言っていた。

Aさんの予言は的中した。二日後に田んぼに行ってみると、どこにも一匹の貝エビもいない。それどころか小さな貝類もいくつもはらわたを出して浮かんでいた。

わたしは初めて除草剤の恐ろしさを目の当たりにしたのだ。

ずっとずっと昔、山の分校にいたころ、夏休みの終わりにPTAと運動場の草むしりをしたことがあった。草だらけ、少ない人数、とうとうお父さんたちは除草剤をまきだした。わたしたちは走って行って「除草剤はまかないください」と頼んだ。おかげであとの草むしりが大変だったけれど、子どもたちは取り残しの草のある運動場をはしりまわって、山の分校の小さな小さな運動会が無事終わったのを、ふと思い出した。

「除草剤は――」といても、そのころは、いやそれ以後もその恐ろしさを目にしたことはなかった。それだけに、今度の出来事はがつんと来たし何よりも貝エビたちが可哀想であった。

最近はお墓の草むしりにも除草剤が使われているそう。土の下の人々はどう思っているだろう。それにこの間、虫が入ってこないように網戸に噴霧する薬があることを初めて知った。虫がいやがって逃げるのではなく、網戸に来

た虫たちが薬をなめて死ぬようにするためのものだそうだ。これは除草剤ではなくて殺虫剤だが、どっちにしても虫にとっては同じようなものだと思う。

部屋の中に迷い込んだほたるにきやっきやつ言ったのはいつのころだったのか。だいたいどこかの隅でりりりりと鳴くこおろぎに秋を感じたのはいつのころだったのか。そんなことを言っているのは年よった証拠かも知れない。

いや、このごろのあぜ道を見てごらん。草はみんな茶色に枯れて、そばの堤防の草まで茶色に枯れて、たくさんの草たちが枯れて、たくさんの虫たちが死んでその真ん中に稲が青々と茂っている。

自然を畏れることを知らないひとびとに幸せはこないだろう。太陽を拝し、神々に感謝の祭りを残したいにしえの人々の心は、もうのこっていないのだろうか。

話が、うんとそれてしまったが、私の願いは「除草剤の使用は最少限にしてほしい」たったそれだけである。

## 【 ～霞ヶ浦は今～ について】

0008・・・彦根市@加固啓英さん

8月20日に標記の展示を見せて頂きました。

ジンベエザメやシャチ程話題性はありませんが、繊細な川魚の移送の方がずっと苦勞が多かったのではないのでしょうか。

私は霞ヶ浦の西端で育ち、父の実家は浜、船、加工場を持つ網元、母の実家は湖畔の農家でした。

頂いた資料を読みますと、漁法、漁具、湖の変化等につき私の記憶と少々異なる点が見受けられます。

アオコと悪臭のどぶにってしまった轍を琵琶湖には踏んでもらいたく有りませんので、研究される方がおられるのでしたら「語部」役を私が、又は私の高校の同窓会に働きかけて、努めることが出来ると思います。

もしお役に立てることが有りましたらご一報下さい。

〒521-1113

彦根市稲部町270-8

加固啓英

TEL兼FAX 0749-43-2576



学芸員さんからの回答

学芸員 秋山 ひとし

水族企画展示を担当した秋山です。

毎年本館の企画展と同じ時期に行われるこの展示では、本館の展示内容に関連づけのあるテーマを拾い上げています。同時に水族部門ならではの生物資料により、本館では出来ない展示内容にするよう心がけています。今回は、食と漁業という切り口から国内第二位の広さと琵琶湖に比肩できる漁業規模を持つ霞ヶ浦を取り上げました。しかし、私自身は民俗学などを専門としていないため、琵琶湖と霞ヶ浦を生物以外の視点からうまく追求していません。そのため、展示内容やリーフレットの内容を完全に煮詰めきっていませんでした。今回の資料収集は、千葉の佐原と茨城の玉造が主体でした。第二位といえども霞ヶ浦は広く、加古さんのご指摘のように地域による漁具の呼称や構造などに違いがありました。当然、湖の変化なども違いがあったものと考えられます。

琵琶湖博物館のテーマから考えても、日本の中で琵琶湖に次ぐ大きさをもつ霞ヶ浦と人々との関わりは、研究対象として無視できないものです。そこで、将来的には加固さんのお力も得て、こうした研究を進めていくことがあるかもしれませんが、現在は残念ながらこうした研究を行っている職員は居りません。今後も琵琶湖博物館の動きを見守りつつ、機会を見計らって御協力いただければと思います。



標 題 [タンカイザリガニにエールを]

投 稿 日 [000915]

名 前 [加 固 啓 英]

激減しているタンカイザリガニを救おうとしている人が居る一方、県としては、人手によって持ち込まれた外来の生物を保護する前例も根拠もなく、援助のしようも無いとの見解らしいのです。

そこで、以下の2点でタンカイザリガニの場合とよく似た一つの前例を挙げますので、ご一考をお願い致します。

- 1 人為的に持ち込まれた外来生物であること。
- 2 移入から長い年月が立っているが、棲息域が拡大されず、目立った環境の変化ももたらさない。

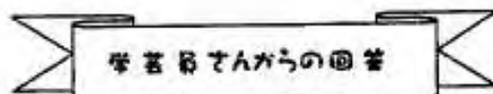
それはカササギ (Pica Pica という変な学名の鳥です。)

俗説には朝鮮出兵 (1592~) の時、「カチ、カチ (勝ちに通じる。)」と鳴くため喜んで持ち帰られたとも伝えられています。以後400年来、佐賀平野を中心とした北九州地方のみに棲息し、今では天然記念物にまで出世??を果たしています。

そこでタンカイザリガニも、研究用・博物館や水族館の展示用等の目的の明らかで有意義なものを除いて、生きた個体は持ち出しを厳禁とし、現在の棲息地のみでの保護をしてはいかがなものでしょうか。

「ポリシーに一貫性がない。」とのお叱りを受けるかも知れませんが、琵琶湖水系の外来魚、特にブラックバスとブルーギルについては、私は全く逆に、完全に排除すべきだと考えております。

それは、琵琶湖が日本の淡水の生物の重要な基準点、山にたとえるなら富士山に当たるものだから出す。富士山を崩して埋め立て用土にしてはまずいと思います。



高田啓英さんからの回答

こんにちは。

佐賀平野に生息するカササギについて、少しコメントしたいと思います。

(*Pica pica* という学名は覚えやすく個人的には気に入ってます。)

本当に人が持ち込んだ鳥なのかどうか、ちょっと定かでなかったため手元にあるいくつかの図鑑で調べてみました。すると、以下の二つの内容の記述が見つかりました。

・豊臣秀吉の朝鮮出兵（あるいは17世紀）の頃、朝鮮から持ち帰ったものが住み着いた  
・「野鳥の図鑑 陸の鳥1」（保育社）

「日本の鳥 550 山野の鳥」（文一総合出版）

・16世紀に移入されたと言いつたえられているが、確実な証拠はない

「山溪カラー名鑑 日本の野鳥」（山と溪谷社）

「新・山野の鳥」（財）日本野鳥の会）

カササギは、朝鮮半島までは確実に分布しており、佐賀とは距離も近いですし、空を飛べる鳥なら自然と分布を広げた可能性も考えられます。

ちなみに、日本鳥学会で作成した「日本産鳥類リスト」（1997）では、カササギは外来種ではなく「日本産鳥類」の方に入っています。少なくとも、400年程度の間日本で定着している種なので、日本産とみなしてよいということかもしれません。

それから、天然記念物についてもちょっとコメントしておきたいと思います。以前文化庁に勤めておられた方のお話をうかがう機会があったのですが、

「我が国にとって学術上価値の高いもの（＝記念物）」のうち、「重要なものを史跡、名勝又は天然記念物に指定することができる」となっています（文化財保護法）。

つまり天然記念物は、必ずしも固有種であったり希少種である必要はありません。蓄養動物、標本、巨木、あるいは地質鉱物、そして天然保護区域といった地域指定もあるそうです。

ちなみに、カササギの場合は「カササギ生息地」という、種そのものではなく地域を定めた指定となっています。

「学術上価値が高い」といった場合には、自然史（誌）的な価値と文化史的価値の両方が含まれます。つまり、人間と自然との関わりについて価値の高い種や地域が指定されることもあるそうです。お話をうかがった方がカテゴリー分けしてみたものでは、カササギ生息地は「文化史：吉兆」という位置づけに含まれていました。

ここからは個人的意見です。

ある生物種を増やそう（あるいは減らそう）とする場合、いったい何の目的でそれを行いたいのか？をよく考える必要があると思います。

外来種の何がいけないのか？在来種だったなぜいいのか？

種そのものを守りたいのか？他の生物や自然を守りたいのか？

あるいは、その生物に関わる人々や地域の関わりを大切にしたいのか？

その目的によって、取るべき態度は変わってくるでしょう。また、複数の目的が相反する場合も出てくるかもしれません。他の地域との関わりも、もしかしたら考えないといけないかもしれません。その場合はどうするのか。保護したい、増やしたい、と思った方々や関係する方々で、そこまで詰めて考えることができれば、取るべき道が見えてくる可能性はあるのではないかと思います。ただ、そこまで突っ込んで考えているケースというのはそれほど多くはないように思います。

上記の位置づけでいえば、学術上価値が高いと判断できれば、タンカイザリガニを天然記念物指定することは不可能ではないように思います。ただ、指定された場合、保存のための管理と行為規制はありますが、積極的に増加させるような対応が文化財保護法でできるかどうかは、私にはよくわかりません。自然保護や種の保護に関しては、文化財保護法は今後充実してもらおうか、あるいは別の法規に任せるかする必要はあるかもしれません。

亀田@琵琶湖博でした。

〔表題〕 いたちのことで教えてください

〔投稿日〕 2000.9.24

〔投稿者名〕 高瀬喜久男

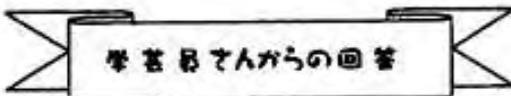
7月20日の午後3時頃、近くの田のあぜを散歩していたら前方30メートルのところを、きつねのような動物が2匹、稲の切れ目を横切りました。田んぼから巣があると思われる竹やぶに向かって、あごを少し上に向けて軽快なステップで。

見ていたのはほんの1秒くらいでした。

そして8月25日の午後7時、今度はわたしの目の前、5メートルのところに田の稲の間から出てきたちいさな動物が止まりました。犬を連れていたのですが、そんなことおかまいなしに。フェレットよりすこし大きい、それがいたちだと思うのですが、それでは7月20日に見たのは一体なんだろうかと気になっています。

きつねやたぬきは、よそで何度もみていますがきつねよりやや小さく猫よりやや大きい体で、しっぽはきつねに似ている。いたちは体長何センチになるのでしょうか。

30年くらい前、うちがまだにわとりを飼っていたころ、ときどきいたちに禽小屋に侵入されてやられました。まだしぶとく生き残っていたのだとおもうと感動ものですが、うちの近くに30×70mと20×40mの大昔からほとんど手付かずのたけやぶがあって、わたしにとってけっこう面白い観察ポイントになっています。



### 学芸員さんからの回答

滋賀県にいる哺乳類で、狐より小さく猫より大きい動物といえば、テンかイタチではないでしょうか。ただし、テンは田んぼをあるくようなことはないので、やはりイタチでしょうか。つれだってあるいているのは、あまりみかけませんが、子ずれの可能性はないことはないと思われます。

ちなみにイタチの大きさは、頭から尾の付け根までが、15cm～40cmくらい、尾が8cm～20cmくらいあります。

高橋啓一(ほ乳類担当)

〔表題〕 田んぼ調査を終えての感想

〔投稿日〕 2000.9.24

〔投稿者名〕 高瀬喜久男

はじめまして。栗東町のフィールドレポーターの高瀬です。

95年4月に栗東町に帰ってきて以来、田や水路の中をのぞきこむのが、わたしの楽しみのひとつになりました。私が家を離れていた20数年の間に、子どものころ魚とりをしたうらの川はもちろん、幅20cmの水路まで三面コンクリートになっていました。

昨年の夏の夜、その川でナマズを見つけました。懐かしい旧知の友に会ったように思えて、ジーンと感動してしまいました。幅1.5Mでコンクリート張りの川のどこに住んでいるんだろうと推測しますと、どうも草津線（すぐ横を通っている）の下の暗渠がねぐらではないかと思えます。同じところには、30cmほどのギンブナもいます（もしかしてコイかも）。

そんな田んぼをのぞくのが好きなわたしが、カイエビのことを今回始めて知りました。知らなかったり、興味のないものはそこにも見えないのだと認識しました。

こんどの調査で家の近くの田んぼを40枚ほど見てまわりましたが、その内、カイエビは6～7割の田で。ホウネンエビとアメリカカブトエビは5枚ほどの田にいました。

カブトエビに関してちょっと不思議なことがありました。

ある夜思い立って、いつもの場所と違う旧東海道の南側の田をみたところ、カブトエビがおそろしくたくさんいたのです。一目で15匹、田全体では200～300と推定しますが、まるで田の持ち主が草取りのために飼っているのではないかと思われるほどです。

不思議はここからあとで、一週間して見にいったら数匹を残して、ものの見事に姿を消していました。そして20Mの畑をはさんだ隣の田を見るとそこにまたたくさんのカブトエビ、まるで人の手で移したみたいに。

カブトエビは夜、ライトを当てると腹を上に向けてひっくりかえるのですね。それも不思議な光景でした。

学芸員の楠岡さんによれば、栗東町は5種類のエビが確認されているそうで見つかった当たり前かもしれませんが、調査は非常に面白かったです。

地図上の位置は栗東町六地藏の旧和中散本舗から半径100Mのところです。

これを読まれたかたは色々な分野の情報を交換したいのでメールを下さい。どなたでもけっこうです。

郵便では、〒520-3017 栗東町六地藏 604 高瀬喜久男です。

E-メールアドレス takase-k@mwb.biglobe.ne.jp

〔表題〕

〔投稿日〕 2000 10 4

〔投稿者名〕 梶本さつき

9月25日に琵琶湖へみずすまし（環境セミナー船）で出たのですが、明け方まで雨が降っていたこともあり、北湖（竹生島沖）の透明度は4mでした。5mは期待していたのですが。午前10時過ぎで水温が上昇する時間帯でもあり26℃の水温。気温は27℃でした。見つけたプランクトンは、スタウスツルムとオビケイソウでした。博物館の芳賀様におたずねすると、スタウスツルムは、北湖の夏の代表的なプランクトンで、オビケイソウは、春や、夏に多いプランクトンだと教えてくださいました。つまり夏から秋に移る琵琶湖だったそうです。湖面にも季節を感じる事ができ、また透明度からも琵琶湖の状態がわかり、興味ぶかいフィールドといえます。

そこで提案。

琵琶湖へ出て、北湖と南湖の性質のちがいや、プランクトンの観察ができるフィールド交流会があれば大変うれしいと思います。

5月下旬の琵琶湖ならもっとうれしいのですが。来年度の計画に是非お願いいたします。



〔表題〕 大発見のドングリ調査

〔投稿日〕 2000.10.4

〔投稿者名〕 梶本さつき

夫に「なんで 新居（ニノイ）のお宮さんにはドングリの木がないの」とたずねると、「何本もあるぞ」と答えられびっくり仰天のわたしでした。

早速、境内のあちこちを、案内してもらおうとまあ！大木のドングリが2本。そして、この木もこの木もと、何本もあるではありませんか。わたしは、銀杏の木はあるけれど、ドングリの木があるなんて35年間全く知りませんでした。

ドングリは、山にあるものと信じて疑ったことがないため、近くのお宮さんにあっても気づかずにいたのぜす。

大発見のドングリ調査です。

〔表題〕 掲示板 4号を見て

〔投稿日〕 2000.10.4

〔投稿者名〕 梶本さつき

田んぼに生物が少ないわけについてですが、ほじょう整備ができ、用水と排水が別々になって、排水の川は、田んぼから約 1.5 mも下にあるため貝等の生物が、田んぼまで上がれないのです。それでもたまにタニシを見つけると、「どうして上がってきたの！たいへんだったでしょう。」と声をかけたくなるほどです。昔は、川から用水も排水もするため川と田んぼの高さが変わらなかったため川の生き物も田んぼにいたというのが答えといえます。

農薬については、除草剤など開発が進み低毒性になっているので生き物がないのは、農薬のせいとばかりはいえませんが、つまり、田んぼに、生物が生きにくいシステムに人間がしたのです。

ほじょう整備の結果、田んぼの排水も、家庭排水も一直線に琵琶湖へ流れ込むことになり富栄養価になったと言っても過言ではないでしょう。

「田んぼに貝が全くいない」の前田様へ感想です。

---

〔表題〕 続掲示板 4号を見て

〔投稿日〕 2000.10.5

〔投稿者名〕 梶本さつき

昨夜、桑原様へのメールで前田様の「田んぼに貝が全くいない」について、田んぼと排水路の落差が問題だと書いてから、よく前田様の投稿を読み返してみると、欄田で未ほじょうの田んぼだと書いてありあわてています。前田様の調査された田んぼを見ていないのでわからないのですが、答えはわからないというのが正直なところです。

ただ、農薬については、昔のほうはずっときつい農薬だったことは確かです。昭和 30年代の増産時代は、DDT・BHC・水銀農薬が使われ確かにきつい農薬だったとおもわれますが、今の農薬は低毒性になっていて、昔のような問題は起こらないとおもいます。

でも、生物がない。見つからないということは何だかの原因があるはずですね。

どなたかの回答をわたしも待っています。

鳥の羽毛をカラクリとして見ると非常に精緻に作られておることに感心させられます。まずは羽毛一枚と一時を楽しんで下さい。

野外活動の機会の多い皆様には容易なことと思しますので、野鳥の羽毛、できれば翼端近くの大きな初列風切を一枚ご用意下さい。手抜きをして隣の鶏より無断調達はしないで下さい。また、一枚を見つけると大抵その近くに左右反対翼で対になっていたと思われる羽毛が見つかります。素人にのみ許される大胆、軽率、無責任な推測を述べますと、アポトーシスとか言うプログラミングされた死による調整が働き、翼の効率の左右均等が保たれているのでは無いでしょうか。

以下、翼を延ばした状態で翼端方向を先、付け根方向を元、頭の延長方向を前、尾の延長方向を後と呼ぶこととします。

\*\*\* 軸の元をつまんで羽毛を水平に持ち、上下に羽ばたく様に振って見て下さい。

下に振る時の抵抗は上に振る時より大きく感じられ、また、同時に前へ進む力が感じられませんか。上に振る時には後ろを押し下げ、下に振る時には押し上げる方向の捻りを感じられませんか。その重さは強度の割には（羽毛の様に）軽いとは思いませんか。もしそう感じないとしたら、あなたは素直でないのです、このままでは救われません。ひたすらに、理屈抜きに、そう信じましょう。

\* 軸の断面はハニカムに近い構造であり、大きな応力に耐える必要のある元は太く、力を受ける面積の小さい、強度のあまり必要でない先に向かって細くなる。更にトーションバーの様に振れにも適度の剛性と弾性を示す。軽量化・強度・機能を満足！

\* 翼を広げた状態で、軸の前の面積は狭く、後は広い。そして軸に直角に切った断面はゴム動力の模型飛行機の翼断面に近い形をしている。つまり、一枚一枚の羽毛が前へ進むか前から風を受ければ揚力が生じるゆるいカーブの山形の断面形状をしている。また羽を下向きに振れば良く空気を押さえ込み反作用で体は押し上げられ、上向きに振れば軸の前後の面はたわみ、上からの投影面積は小さくなり、体を押し下げる反作用は小さくなる、と同時に軸の前より面積の広い後ろの方がより多く押し下げられ軸に振れを与えて前上がりとなる。前上がりの面を上へ振る、つまり上から風が当たれば前向きの分力も生じ推進力となる。同様に振り下げる時は前下がりとなるりこれもまた推進力を生む。

つまり単純に翼を上下に振っているだけでも一応は揚力と推進力は得られる構造を備えている。

\*\* これを人が設計するとどの様な配慮が必要か??? 多分製作は無理でしょう。

- 1 全体を強度を満足したうえで軽量化し、しかも全体の形状を翼の形に整える。
- 2 上下に振った時、元から先への方向の捻みは少なく、前後方向は適度に捻む。
- 3 更に推進力を与える方向に適度の振れと剛性をもたせる。

\*\*\* これを人が作ると、板バネ、コイルスプリング、トーションバー、オイルダンパーにヒンジー、ロッド類、スプリングガイド等を組み合わせた、なんとも無骨で野暮なものとなってしまいます。

- \*\*\*\* 私の知る範囲で唯一大きな部材をそっくり撓ませて作動させたのはライト兄弟の飛行機の可撓翼だけです。翼端から張ったワイヤーを操縦桿に連動させて翼全体をねじ曲げ、機体を傾けることによって、ヨーロッパでは地団駄踏むように、やっと地面から離れようとしていた時期には余裕で8の字飛行をこなしていたそうです。
- \* 翼を一枚の大きな羽毛で構築しなかったのは、二乗三乗の法則に照らしても理に適っています。長さを2倍の構造にすると面積（強度にかかわる断面積も、）は4倍、体積（つまりは重量も、）は8倍となり、重量あたりの強度が約半分となってしまいます。また危険分散の意味でも有効です。
- \* 羽毛の面を構成している部分は軸に生えた糸状のものが、きれいに並んでベルクロとかマジックテープとか言われるもののように、絡み合っているだけなので、破れた様に見えても、糸状の部分がちぎれない限り指でつまんでしごくだけで、又は鳥が嘴で毛づくろいしただけで元に戻ります。その上、渡り鳥は布団を持ち歩く必要も無いのです。

質問 漫然と集めた羽毛がかなりたまりましたが、指でしごいたり、重りをぶら下げたりしてしまいましたので、今後集める分については、ラベルを添え資料としての価値の有る扱いと保管をしたいと思います。

そこで、DNAのコンタミネーションをして防ぐことも考慮して正しい取り扱い方法をお教え下さい、以下は現在気になっている点です。

- 1 素手で扱っても良いか。塗装用のマスキングテープで貼っても良いか。
- 2 ナフタリン等の防虫剤、シリカゲル、生石灰等の乾燥剤を同じ箱に入れても良いか。

### 琴瑟湖博物館からの回答

こんにちは。

亀田@琵琶湖博物館です。

鳥の羽についての質問、お答えします。

羽自体はよくもちます。いったん汚れを水などで落としてから乾かし、あとはそこそこの乾燥と防虫さえしておけばそれほど問題はないと思います。大切な衣類の保管と同じ様な対応をしておけばよいのではないのでしょうか。

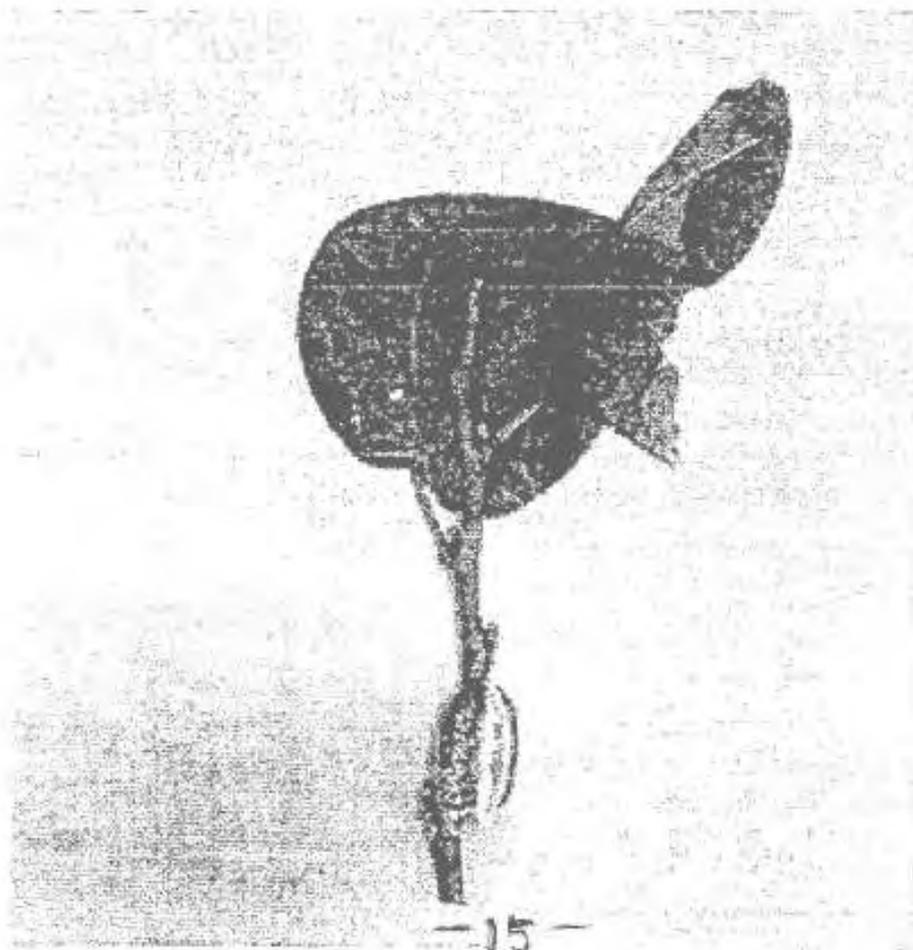
鳥の羽は本当に飛ぶための機能をよく備えています。航空力学の理論と一致するところも多々あり、形や材質は異なるものの、飛行機と共通する部分もたくさんあります。

ただ、飛行機のエンジンを考えていただければわかると思いますが、飛ぶためのエネルギー（特に飛び立つとき）を生むためには相当な筋力とエネルギーが必要で、鳥は人間とは比べものにならないくらい大きな割合で胸筋を持っています。

表題【こんな所にカマキリの卵が】

投稿日【00 10・09】お名前【日野 市(町)村 中在寺 1178  
マンション 5236-4/48  
山口泰司

10月9日、庭木の剪定をしていましたが花蘇枳(はなすおう)  
高さ2m 20cm くらいの梢に卵を見つけました。  
朝晩のつきりと冷えて来て、虫や蜘蛛の動きも鈍くなったな  
と、思っているうちにすっかり姿を見なくなりましたが偶然見かけ  
ましたのでお送りします。



掲示板前号（第4号）で隻腕カマキリ（写真1）の飼育について報告しましたが、今度は公園沿いのアスファルト舗装道路上で見つけた2匹の大カマキリの内、1匹の羽が無いように見えたのですが、よく見ると前後の羽とも羽化し損なって縮まったような状態（写真2）であり、隻腕に続いて身障（者）カマキリにご縁があるなあと苦笑しつつ、また保護飼育と言うことになりました。通常カマキリは公園（定期的に雑草刈りが行われ、バッタなどが少ない）よりは生存環境の良い雑草が茂りっぱなしの農園横の草むらに、大きなバッタを与えた状態で放ってやりました。ここには先住の大カマキリがいるのですが仲良くやって貰いたいものです。

この羽の無いカマキリはしっぽがとがっていることと、触角が長くないことからメスと思われるので産卵状況の観察を楽しみに、毎日餌取りに精を出しています。身障カマキリですが食欲は旺盛で、径で該部よりも大きな間履コオロギを縦長タイプのクワガタ飼育用鉢に入れると、すぐに気づいてしっと注視し、コオロギが動いた瞬間に飛びついて首と胸を鎌ではさみ（食べ易いように持ち替えたりしない）すぐに目の前の胸部からムシャムシャ、3時間以上かかって平らげてしまいました。触角、頭、羽、足5本が下の土の上に落ちていました。落とした餌は動かない限り取りに行かないようです。

餌としてコオロギを金魚鉢で飼うようにしたのですが、スズムシ、マツムシがコオロギ科の虫であるだけに朝夕きれいな音色を聞かせて呉れるので可愛想になり、バッタやイナゴを取ってきて与えています。一芸はやはり身を助けることになる訳で、メスのコオロギの産卵と来年の孵化まで期待する事になってしまいました。今冬の卵のう調査に始まったカマキリとの付き合いが予想外の発展になってきましたが、私にとっては楽しい大事な生き甲斐になっています。



写真1. 隻腕カマキリ（右前脚欠損）



写真2. 羽の無いカマキリ（前羽後羽とも萎縮）

今春、通称『金のなる木』の花について、たまたまその花弁の数の異常性を調べたことに端を発して下表のようにわが家の身近な花について追加調査をやっています。

花弁の数に異常の全くない安定した花もあれば、金のなる木のように13%という高い異常性を持つ花、ハナニラのように4弁から8弁までの幅広い異常性を持つ花といろいろあることが分かります。

これらの異常性が常に再現され、よそでも同じような異常性を持つなら、その異常性はその花に固有の変異性と言うことになり（異常のない花は変異性がゼロの花）、一時的、突発的に発生する奇形、突然変異とは区別される特性と思います。極論すれば植物図鑑にこれらの変異性はその固有値として記述されるべきではと、とんでもないことを考えたりしています。

興味と根気とひまをお持ちのフィールドレポーターが居られましたら、追試や別の花の調査を如何でしょうか。来春は桜について調べてみようと思っています。

なお、今を盛りの金木犀の花びらは4弁が一体になっており、何枚と見るか検討の予定です。

表 花弁の数の異常性調査結果

\* 正式名称の空欄は調査未完

花の名前		正常の花弁数	花弁の数/正常のものより2枚少ないものは-2弁							調査花数合計	調査年月
通称名	正式名称		-3弁	-2弁	-1弁	正常	+1弁	+2弁	+3弁		
金のなる木	花月	5	0	2 1.4%	10 6.8%	128 86.5%	8 5.4%	0	0	148 100%	12.3
クンシラン	クンシラン	6	0	0	0	33 95.0%	0	2 5.0%	0	40 100%	12.4
	ハナニラ	6	0	2 0.8%	1 0.4%	233 91.0%	13 5.1%	7 2.7%	0	256 100%	12.4
菜の花	白	4	0	0	3 2.5%	115 97.5%	0	0	0	118 100%	12.5
菜の花	黄	4	0	0	0	600 100.0%	0	0	0	600 100%	12.5
小雛の花	黄	4	0	0	0	129 100.0%	0	0	0	129 100%	12.5
オリヅルラン		6	0	0	1 3.6%	27 96.4%	0	0	0	28 100%	12.6
金木犀		4	0	0	0	207 100.0%	0	0	0	207 100%	12.X

表 題 【秋の日 比良山に登る、閑話一題】

投稿日 「001010」 お名前 「志賀町 尾形 勇」

9/16のフィールド・レポーター、スタッフ会で布谷さん（博物館）から、比良山に行くなら、あそこにはミズナラ があります、1千米級の山には先ずこの木は有ること間違いなしと聞き及び、10月1日の「チャレンジ比良」に参加するので、ぜひさがしてこようとおもったものです。

さて、この「チャレンジ比良」はご承知の方も多しとおもいますが、毎年体育の日に行われる、京滋では人気の高いイベントです。

毎年のことながら、私は此れを好い機会に自分の健康をはかるバロメーターとして勇んで参加している。

集合場所のJR志賀駅からバスでびわ湖ハレー山麓に行きリフトに乗り継ぎ打身山山頂へ、さあ、いよいよ出発、午前8時15分  
登攀コースが4通りあり、例年おなじ第4コース（14km）を選択したので道順はほぼ識っている積もりだったが、第一のチェックポイントまでさえも存外に遠い厳しいものだったことを、思いしらされる、

スタート地点から半時ばかりは極く平凡な峰づたいの道のりだったが、それから幾つかの峰や峠（木戸峠、比良岳、荒川峠、南比良峠）を登り下りすること、ほぼ二時間、そろそろ足腰が重く、息づかいも荒くなる体重（60kg）をもち上げる一歩一歩が何と苦しいことか、漸く第一の経過地点・荒川峠に辿りつく、いま越してきた山腹のはるか下方、視界が開けて雄大な琵琶湖が朝日を受けて燦然とかがやいて見える。湖上にはヨットの白帆が風にゆらめいている。

秋さやか 荒川峠に見る湖は

白帆のはしる 比良のこがらし

10時40分 ようやくにして名のある金粟峠に辿り着く、何と遠かったことか、暫し休憩し再出発。

あとは低い登り下りの峰づたい道が続くこと約30分ばかり、11時20分比良リフト山上駅に着く、身体もへとへと汗びっしょり、毎年だが先ず真っ先に水道蛇口に行き、上半身を冷水で拭き、下着など着替え一息つく。

いつもならここ比良ロッジで昼弁当をとるのだが、時間も早いし更に前進すること約25分ばかりで12時となり道の脇に腰を下ろし、おにぎり弁当を食べる、なんと旨いこと、たちまち五つ六つをたいらげてしまった。

一息いれはとしたところで、頭をよぎった、そうだまだ どんぐりの木さがしが、すんでいないのだ、



## 「フィールドレポータースタッフからの一言」

フィールドレポーターの皆さんこんにちは。

毎回のフィールド調査には、たくさんの回答をお寄せいただき有難うございます。

私達フィールドレポータースタッフは、いつも張り切ってそれらの整理や、また、知識の向上を目指して学芸員の皆さんに色々ご指導を得たり、助けられたりしながら、フィールドレポーター制度の活用と向上を目指しています。

調査のまとめは先ず、「フィールドレポーター交流会」で発表していますが、もっともっと参加者が増えて経過や結果に耳を傾けてほしいと願っています。

昨年度から「フィールドレポーター掲示板」を、桑村@琵琶湖博物館の発案で開設し発行しています。

これはレポーターから調査テーマに留まらずさまざまな投稿を寄せていただいたものを整理して、皆さんのお手元にお届けしていますが、それらの情報を掲示板だけに限定せず、レポーター同士横の繋がりにも利用していただき、まさしく交流して頂く目的もあります。

この「フィールドレポーター掲示板」は昨年度 4 回発行しましたが、今年度はこの号でもう 5 回目になりました。

投稿数が増えて一回のページ数も増える傾向にあり、ご覧になってお判りのように新しい投稿者も目に付くようになりました。

最近質問が多く、担当の桑原@琵琶湖博物館、を通じて学芸員の方々に回答を頂くことが増えてきましたが、これは博物館ならではのユニークな一面ではないでしょうか。

これからも紙面に余裕があれば、「フィールドレポータースタッフからの一言」で活動状況をお知らせしていきたいと思いますが、スタッフへの参加もお待ちしています。当面の予定は 1 ページ下欄をごらんください。

フィールドレポータースタッフ一同



だいぶ遅くなってしまいましたが、「田んぼの生きものみんなで調査会」のときの写真です。みんなで一緒に調査を行うのは、フィールドレポーターが始まって以来今回が初めてでしたが、志賀町から西浅井町にかけて有意義な調査をすることができました。今後も、機会があればこのような調査を企画したいと思いますので、そのときはぜひご参加ください。

桑原@琵琶湖博物館

フィールドレポーター

# 掲 示 板



2000年度 第6号 通巻第9号 (12月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

いよいよ師走になりました。この1年みなさんはどのようにお過ごしだったでしょうか。きっと、フィールドレポーター活動を楽しんでいただけたことと思います。また、この残り1ヶ月は、20世紀最後の1ヶ月でもあります。まあ、世紀が変わったところで突然世の中が変わるわけでもありませんが、これを機会に何か一念発起してみるのもよいかもしれません。何にせよ、残り1ヶ月足らず心残りなく過ごしたいと思っている今日この頃です。来年もどうかよろしく願いいたします。

ところで、ドングリ調査の方も一応11月末で閉めきりとなりました。もちろん、お手持ちのサンプル・データあるいはお気づきになられたことなどありましたらお送りください。今回のドングリ調査では、300件近くのデータが送られてきております。それぞれについては、布谷さんの方から、同定結果と多少のコメントをあわせて返送されています。みなさんの同定結果はいかがでしたでしょうか。私もこの調査を始めてから、できるだけ気をつけて身近なドングリの木を見るようにしているのですが、なかなか難しく思うようにはなかなか判別がつきません。それでも、これまでドングリとひとからげにしていたものの中にも、ずいぶんいろいろなものだと感心することしきりでした。また、次の調査テーマも決めないといけませんので、何かアイデアがあれば是非お知らせください。フィールドレポータースタッフの方々と一緒に考えてみたいと思います。

ここで、フィールドレポーター担当の方からお知らせがあります。フィールドレポータースタッフ用に、下のような名札を作ることになりました。これは、今後フィールドレポーターのみなさんが館内での活動をしやすくするために、身分をはっきりさせるという目的があります。ですから、いつでも来ていただいた際にはこの名札をつけていただくと、館内に自由に入っていただくことができます。もう一つ、館内にはミュージアムショップがありますが、この名札をつけていただくと一部の商品を除いて、購入の際に割引をしてもらうことができます。この機会に、フィールドレポータースタッフに参加してみませんか。



フィールドレポーター 12・1月の予定をお知らせします。

- ・12月16日(土)  
定例会：ドングリ調査まとめ等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
  - ・1月7日(日)  
定例会：次回調査準備等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
  - ・1月20日(土)  
定例会：交流会案検討等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- 多くの方のご参加をお待ちしています。また、これ以外の日でもお気軽に来ていただければと思います。

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

表 題 [カマキリとハリガネムシ]

投稿日 [001025]

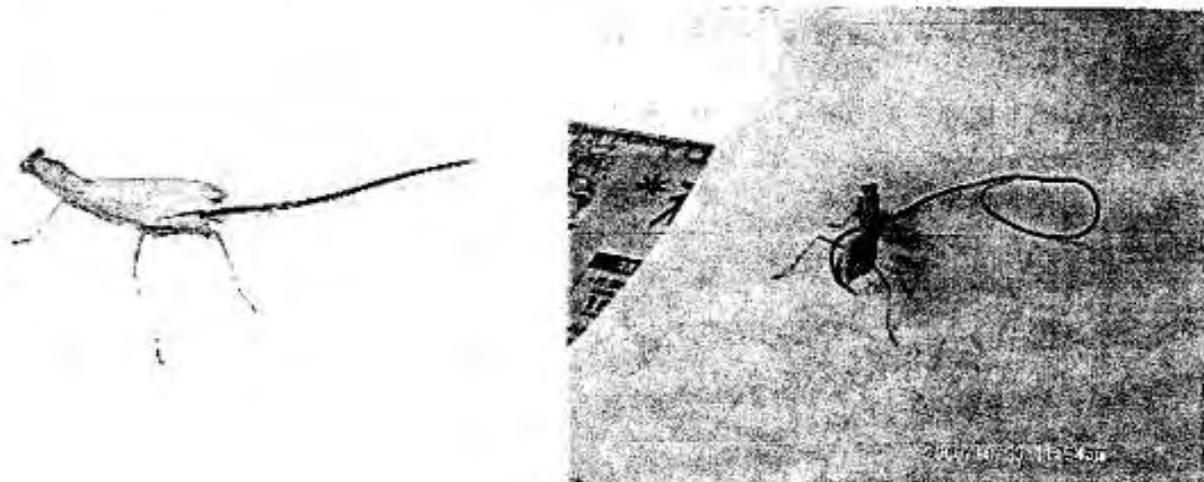
名前[有田重彦]

卵のうの産卵状況観察のために飼っている4匹のカマキリのうち、産卵間違い無しと太鼓判を押した特別腹の大きいハラビロカマキリが始めから食欲が無く、餌として与えたイナゴの方が金魚鉢の中を我が物顔でカマキリの方が逃げ出す始末、餌が大きすぎたかなと小さいバッタを与えると何時の間にか無くなってはいると言う程度。そして飼い出した頭初から落ち着きが無い様子でしたが、10日程経つと動きが鈍くなってきて、別のオオカマキリが産卵した2日後（飼い出して15日目）とうとう地面の上に這いつくばってぐったり。やはり食欲が無いので死期が近づいたのかな、それではハラビロの特徴をと取り出して紙の上で写真を撮り始めたところ、尻尾から黒いとげ状のものが5 mm ほど出てきて吃驚。暫くするうちに5 cm, 10 cm と伸び出してきたので（写真参照）やっとこれがカマキリの寄生虫ハリガネムシだ（子供の頃はどこで見つけたのか思い出しません。ゼンマイと呼んでいました。）と気が付いた次第です。産卵ならぬ産虫は5分余で終り、直径1.6 mm、全長30 cm（産まれた時は15 cm 位と思っていたのですが2日経って計ったらこの値）、一方の端は尻尾で細く尖っており反対側は口らしい端面になっている黒っぽく、濡れていてもかさかさした感じの細紐状のボディをゆっくりうねらせています。博物館のグライガーさんに引き取って貰い標本になっています。

この3日前のフィールドレポーター交流会の雑談会で、ハリガネムシの話が丁度あり、その偶然性に吃驚した次第で、楠岡さんに補足説明して貰った結果は次のとおりです。

「ハリガネムシは初夏に産卵し、孵化した幼虫は植物の上などで一旦休眠状態に入り、植物と共に水生昆虫に捕食されるのを待ちます。水棲昆虫が羽化して陸上に飛び出し、カマキリに捕食されるとハリガネムシはカマキリの体内で成虫になり、秋に外に出てきます。成虫は水に入り、そのまま春まで水中で過ごします。一説によるとハリガネムシに寄生されたカマキリは水辺に行きたくなるそうです。カマキリの他にバッタや甲虫、トンボにも寄生することがあるそうです。寒い時期に水棲昆虫の調査をしていると、ハリガネムシが団子状に何匹も絡み合っているのが見つかることが有るそうです。」

産後も地面に這いつくばったままのカマキリは6時間後にとうとう成仏、解剖研究のため冷凍室に安置しています。



隻腕カマキリに続いて羽なしカマキリを飼い出したのは介護が目的でしたが、10月からは卵のうの内部構造に関連して産卵状況調査のため、延べ8匹（ハラビロカマキリ1匹、コカマキリ2匹、他はオオカマキリ）の雌をクワガタ飼育ケース等で1匹ずつ飼育し、現在は産卵を終えた4匹が悠々自適の特別養護ホームで越冬を目指しているところです。

## 1. 産卵

飼育を始めてから産卵した卵のうは合計6個になり、1個だけ産んだのが2匹（共に生存中で1匹はコカマキリ）、2個産んだのが2匹のオオカマキリ（内1匹は産卵翌日に死亡）でした。このうち、産卵に立ち会えたのが4回でしたが、いずれも気づくのが遅く産卵の終の方1時間以内で残念と言うところです。産み始めの観察はまた来年と言うことになりますが、いろいろ分かったことや疑問点は次の通りです。

- ①産卵日は4匹8卵のうで、10月22日から11月25日まで、但し最後のものを除くと11月7日までで、大雑把に言って11月上旬で産卵は完了と言える。飼育は室内なので朝冷えが緩和されている影響が、特に一番遅いもので顕著かも知れない。
- ②2回目の卵のうを産む間隔は16日と19日で予想外に長い日数である。オオカマキリは3個の卵のうを産むと言われるので、飼育を始めて1~2回産卵したオオカマキリは、既に2~1回産卵していたものと思われる。
- ③最後に産んだ卵のう（3回目）は最終前のものより小さくて長さは2cm程度であった（普通のサイズは約3cm）。最終卵のうの卵数はいずれ数えるつもり。
- ④産卵開始時刻は、産卵に2時間半かかると言われるので逆算して午前6時が2匹、午後1時と3時各1匹になる。産卵は日の当たっている午前中との説もあるが此の例からは、ランダムのようなものであるが夜間はないと言える。
- ⑤産卵後は約2時間、産卵の最終姿勢を保ったままで眠っているようである。
- ⑥飼育槽内での産卵状況は次頁の写真のように接写ができてよく観察ができた。
  - \*卵のうは、まず外周の発泡体、次いで卵の生み付け、次いで卵室の膜とふ化孔膜の形成と1層ずつ形成される様である。
  - \*卵のう形成状況は尾の先にある八の字状の尾角で始終卵のうに触ってチェックし、尾部先端の前後左右の動きを制御しているようである。頭、脚、胸、羽根は最後までじっと静止していて形成の基準となっているようである。
  - \*尾の先から出てくる白い分泌液をそこにある複数の生殖弁の薄片を出し入れ振動させて攪拌し泡だたせているが空気を混合しているのでは無いようである。
- ⑦飼育槽の天井裏に水平に産卵した例が一つあり、しかもまともな出来栄であった。垂直産卵は絶対必要条件では無いようである。

## 2. 今後の予定

カマキリは10度以下の気温には耐えられないそうであるが、室内では何とかできそう

なので越冬を目標に飼育を続けていくことにする。朝の気温低下と共に餌のバッタ、イナゴ、コオロギが激減したが（これもカマキリの寿命を支配しているように思われる。）、野菜の青虫や糸で吊した薄餅、鶏肉に飛びついてくるので目下のところ元気である。

今後のカマキリに関する調査課題として次のようなことを検討している。

- ①越冬後のカマキリは大きくなるか。秋にはまた産卵できるか。
- ②来春の卵のうのふ化状況観察と幼虫の飼育。
- ③ばらばらにした卵をシャーレ内でふ化させ、その進行状況を観察。
- ④死んで冷凍しているカマキリの産卵器官解剖調査。

### 3. カマキリの七癖（飼育2か月で気付いたこと）

- ①獲物を左右の鎌で捕まえると、餌物が動く動かないに関わらず、またその部位が頭、足、胴体にお構いなしに目（口）の前から即座に食べ始める。
- ②自分の体長より長いものは食べないと言われるが、コカマキリ（体長55mm）は自分より短いが胴太のイナゴは捕獲しようとせず、無視したり逃げたりする。捕獲してもイナゴの強力な跳躍力に負けてしまうことが分かっているようである。
- ③餌を5日ほど与えなかった時、土の上に落ちていたイナゴの食べ残しをついに食べてしまった。動くもの以外は食べないと言われるが生命のピンチにはこう言うことも。
- ④乾燥した日に水を飼育槽に撒いてやったところ、目の前の水滴を食べるようにして飲んだ。羽化前の幼虫は水が好きで田んぼの畦道の草によくいるそうである。
- ⑤餌物は両方の鎌で挟んで食べるのが普通だが、小さい肉片やイナゴの足などは口だけでくわえたまま食べることができる。その口は複雑な構造なので可能なのであろう。歯は肉食性でありながら臼歯も持っており固い昆虫の皮質を搗り潰す機能であろう。
- ⑥飼育ケース内でのカマキリの静止姿勢は、垂直の壁面で下向き倒立と天井裏での仰向き姿勢が殆どで夜間は後者が多い。土の底面に這っている姿勢は体調が悪い時か（死ぬ前等）餌物を捕獲する時だけである。
- ⑦産卵を想定して槽内に小枝を立てたが、餌を取る時の足場に時々使う以外は全く無視で、6個の卵のうで小枝に産みつけたものは皆無であった。

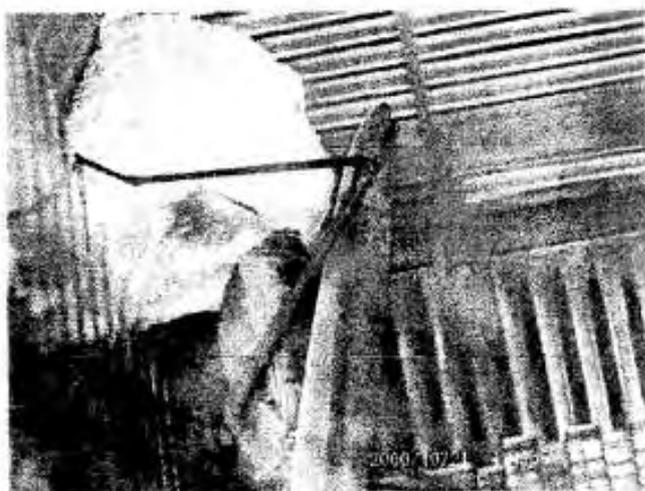


表 題 [超ジャンボ根切虫]

投稿日 [2000, 12, 01]

名 前 [大津市 有田重彦]

例年、秋の公園大掃除で山で集まった落ち葉を菜園の一角に埋めて堆肥としていますが先日、馬鈴薯を収穫した後の元肥としてその堆肥を掘り上あげていたところ、白い塊がボロッと出てきたので何だろうと軍手の上にとって見ると吃驚仰天。写真に示すような超ジャンボの根切り虫で、長さ10センチ、径で2センチ余りもあり、普通サイズ(長さ4センチ弱、径で0.7センチ)の3倍近い巨大さでした。この畑にはこの普通サイズより一回り小さい別種のような根切り虫(写真参照)もありますが、この超ジャンボは普通サイズのものと同種としても良いのでしょうか。水質を特別処理して育った超ジャンボ金魚をTVで見たことがありますし、ミミズにも吃驚するようなジャンボがいますが。

また小さい時(育ちは福岡)からこの虫を根切り虫と呼んでいましたが正式名やこちらでの別の通称があれば教えて下さい。

これとは別ですが、今飼っている4匹のカマキリの産卵が済んだので次は越冬を目標に保温と餌(冬場は小さい昆虫がいないので蒲鉾・鶏肉の小片で代用を始めていますが、この根切り虫を食べてくれることが分かり自然食でよかったと喜んでいますが、越冬した2年もの或いはそれ以上の越冬カマキリはどの位大きくなるのか、あるいは大きくなるのか(どうも大きくなりようですが)、この疑問から出発して昆虫・甲殻類そして人間を含めた動物全般、また植物はどうかと疑問は際限なく、スケールアップです。



大津市 福所(上)の森  
「アバマキ」です  
(武田)

標 題「これは本当にオオカミでしょうか」

投 稿 日「001121」

名 前「加 固 啓 英」

今朝の朝日新聞のコピーを添付します。この記事の写真がどうもオオカミに思えないのですが、一緒に考えて頂けないでしょうか。

疑問点 1 ストップと言うのでしょうか、頭から鼻の方向へ向かう線と鼻から頭の方  
方向に向かう線の交わる点に、この写真では、はっきりした段差が見られ  
ますが、日本の野生のイヌ科の動物の頭骨の写真ではキツネ、タヌキ、ニ  
ホンオオカミ共ほとんど滑らかな線を描いている。この段差は飼犬に多  
い特徴だと思います。(図1) タヌキの頭骨を手にとって見たことが有  
りますが、わずかに上に凸の細い稜線が続いている感じでした。

疑問点 2 「尾の先端が切れたように丸くくって・・・」とありますが、この写真  
だけで見る限り「先端が丸い」のではなく、手前に曲がっているため「丸  
く見える」ように思われます。

疑問点 3 この写真からは、胸の厚みが感じられますが、TVの画像で見る外国の  
オオカミも、たまに出会うキツネも胸幅はひどく狭く感じられます。  
犬だけが家畜化の過程で体形が変わったのではないのでしょうか。

写真に目がはっきりと写っていればなおはっきりするのですが。画像のオオカミもたま  
たま出会う(昼間の)キツネも、虹彩の占める面積が狭いためか、三白眼のように見え、  
怪しい雰囲気をもっていますが、飼犬はほとんど白目の見えない、いわゆる黒目がちで  
愛嬌があるように感じます。

逆に皆様に、この写真が本当のニホンオオカミであると思われる根拠をあげて頂き、頭  
の体操と話題を楽しみませんか。



図 1



古い保育社の図鑑から  
(写真が不鮮明)

# 九州にオオカミ?

中部の山中で  
高校長が撮影  
尾の形など似た特徴

絶滅したとされていたニホンオオカミによく似た動物を、北九州市門司区に住む福岡県立小倉西高校長、西田智さん(60)が九州中部の山中で撮影した。西田さんは二十日、同市役所で記者会見し、この動物の写真を発表した。体長は一以前後で、小型犬くらいの大きさ。また、この動物のものとみられる体毛やふんも採集したことを明らかにし、「今後、専門家に鑑定を依頼したい」と話した。今日

## 科学的な鑑定必要

丸山直樹・東京農工大教授(野生動物保護学)の話  
学会で発表されたときに写真を見たが、野犬のシエパードに思えた。野生動物が写真撮られるようなところに簡単に出てくるのは不自然だ。種の判定は、DNA鑑定など科学的な根拠に基づいて行わなければならない。写真だけで判断できない。

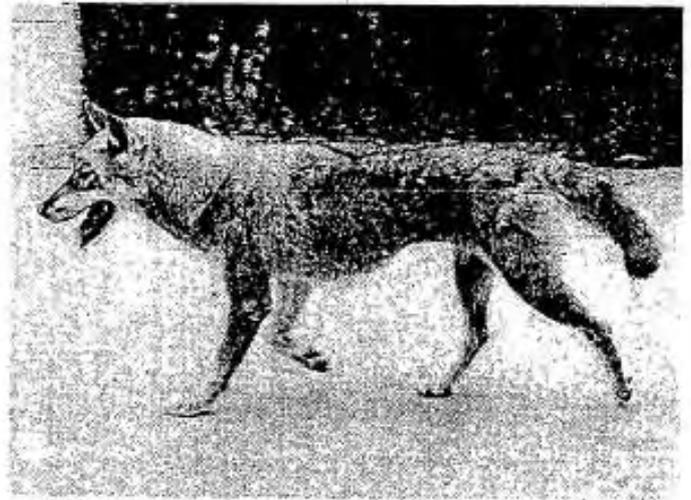
十二日に東大農学部であった野生動物保護学会でも発表している。

西田さんによると、撮影したのは今年七月八日夕。ツキノワグマやニホンオオカミの調査に九州中部の山中に入り、キャンプするためにテントを張った場所。犬のような動物に出会った。尾の形などの特徴が、雑誌で見たニホンオオカミの写真と似ていたため、写真を撮った。

公開した写真は、このうちの一枚で、尾の先端が切れたように丸くなっている点や、四肢の外側や耳の後ろがオレンジ色がかっている点など、ニホンオオカミと共通する特徴があるという。西田さんは元国立科学博物館動物研究部長の今泉吉典さんに写真を郵送し、鑑定を依頼。ニホンオオカミとみられるとの回答があったという。また、西田さんは動物を撮影した山や、その周辺の山中で、四、五

百本の体毛と二十数個のふんを採集したという。

ニホンオオカミは「ヤマイヌ」とも呼ばれ、オオカミのなかではもっとも小型で、体長一以前後。本州、四国、九州に分布していたが、一九〇五年に奈良県の山中で捕獲された一匹を最後に絶滅したとされる。詳しい生態は分かっていない。



西田智さんが九州中部で撮影したニホンオオカミによく似た動物

表 題【 桜と参加できました。 】

投稿日【 001105 】お名前【 彦根市 町村 みらん 】

ホウネンエロは探せど見つからず

干上がった<sup>水</sup>川の写真を撮ろうと知っているうちに

雨がふり、<sup>しかも</sup>参加できないのを ほかゆく<sup>か</sup>思っていたの

です。今回は<sup>は</sup>ドリ探しなら いくらでもできそうと

下しく取り組みました。でも、木の葉から落ちた実の音が

わからぬときもありました。

標 題「いろいろ教えてください。」

投 稿 日「001103」

名 前「彦根市 加岡 啓英」

稲の越冬栽培を試しておりますが、その周辺、バケツの縁や光の反射板を張り付けた床や周囲がベトつくのです。ムシトリナデシコやモチツツジ程度の粘り気です。

一度アブラムシが大発生してしまいましたが、それとは関係なさそうな部分まで粘つきます。

〔質問 1〕 この粘つきは一体何でしょう。

毎冬濡れ縁に用意している小鳥の餌場を今回は10月11日より始めました。例年ですとすぐに（夏でも）群れ集まるスズメが11月1日になって初めてやって来ました。

例年のことですが、餌場に鳥の来た次の日から夜中に多数のナメクジが集まり、夜明け前に全部姿を消します。多分無事帰宅するのでしょうか。この濡れ縁は、コンクリートの上に160cm間隔で立った柱の上の横木に、間を開けた板が張ってあるもので、地面からこの上に積んだブロックの上の餌場まではかなり難度の高い立体の迷路となっております。見たところ行き止まりに迷い込んでいるものも見当たりません。

濡れ縁のべたべたについて

これは何かについてのコメントを、と依頼されたのですが、まったく見当もつきません。もう少し情報があるようです。ちょっと考えたのは、霜が降りるようになって濡れ縁の木が湿気をおびて、そこについていたモノがネバリを出したのか、ということなのですが、さて何でしょうか。名前を出すものはばかれる状態の布谷でした。

植物担当 布谷知夫

# フィールドレポーター掲示板投稿用紙

表 題 〔ついに我が家にも未確認生物現る〕

投稿日 〔001001〕

名前〔岩根 健治〕

私の住んでいる滋賀県北部の町、木之本町の大字木之本(地図コード5336-21-08)では、以前から夜になると、あちらこちらの家の台所に現れ食物を食べるわ冷蔵庫を開けるわという傍若無人な振る舞いをする未確認生物が出没しているという噂を聞いていました。その生物が最近、我が家にも現れた様なので、その様子を現地レポートします。

雨がざーざーと降りしきる9月末のある深夜、あまりに激しく雷が鳴るので少し心配になって目を覚まし、台所へ行くと、先ほど寝る前に確かに閉めたアルミサッシのガラス戸が半分ほど開いてあり、外の雨音が聞こえていました。おかしいなと感じ戸に近づくと床はびしょびしょ、どろどろ、そばのゴミ箱はひっくり返っているし、生ゴミのゴミ箱は散乱しているし、その他あちこちに泥がついていました。それは例の噂の動物かと半分わくわくして辺りを観察していると、驚いたのは、子どもが机の上に置いていたクレヨンの箱を開け、中のクレヨンをかじった後があったことです。何故クレヨンをかじったのかわかりません。油性だからか、香りがついているからなのか謎です。本当に驚きました。

この生物が町内に出没し出してから約3年ほど経ちますが、以前からの目撃情報によれば、当初、たぬきだとか、あなぐまだとか噂が飛んでいました。最近「しくま」という情報が有力です。しかし、「しくま」と名前も聞き慣れない名前ですので、一度、詳しい資料いただけないでしょうか？

我が家に進入してきた生物は同封しました毛を2本残していきました。毛ぐらいでは生物確定することは出来ないかもしれませんが参考にして下さい。

その他の情報は、夜に出没する。戸をうまく開ける。冷蔵庫の扉を開ける。動きは緩慢。大きさは柴犬程度で大きなしっぽ。とっても人慣れしている。酒などアルコール系の臭いが好き。等です。教えて下さいお願いします。

昨日(11/7)、私の知りあい兵庫の王子動物園の獣医さんが博物館にみえたので、毛をみせてお聞きしました。その結果、アライグマの可能性はあるのではないかとということでした。人に良くなれているのは、ペットとして飼われていたせいではないかとということでした。これは、まだ確かではありませんが、その可能性を探ってみることが必要と思われる。とにかく、タヌキやキツネの毛とは違いますので。

また、アライグマの剥製に出会ったら注意してみます。

獣医さんのはなしでは、ワナをしかけるとかかるそうですから、被害がひどければ実行してみてもいいのでしょうか。アライグマの被害は、全国的にも話題になっています。アライグマとはなにか、その被害の1例を参考に載せます。

### 1. アライグマ とは？

アライグマ科の6種。全て、北・中央・南アメリカの原産

(アライグマ) Common Raccoon, *Procyon lotor*

カナダ南部から中央アメリカに分布、体長55センチ(尾長25センチ)体重通常は5-8キロ、最大15キロ。一番多く見られる種。日本に輸入されている主な種。

(カニクイアライグマ) Crab-eating raccoon, *P. concolor*

コスタリカ南部からアルゼンチン原産、アライグマよりも短く荒い毛で、尾は長く、首筋の毛が前に向く。日本で繁殖されていたとも言われている。

その他に、トレアリアアライグマ(メキシコ)、バルバドスアライグマ(バルバドス島)コズメルアライグマ(ユカタン・コズメル島)、グアドループアライグマなどがある。

英名の Raccoon は、北アメリカ・ネイティブの aroughcan, arukun から命名され、意味は「手でこする人」である。種名の lotor も、「洗うもの」から命名された。

食性は、蛙、ザリガニ、魚、鳥、卵、などを河の近くで夜間採食し、果実、木の実、げっ歯類、などを求めて山に出向く。新鮮なトウモロコシは、格別のご馳走である。

冬季には、活動が鈍り、夜間の気温が零度以上にならないと、1ヶ月以上も巣穴から戸外に出ることは無く(冬眠ではない)、複数の個体が寄り添って巣穴で冬を過ごす。

交尾期は、米国では一月の後半から二月にかけて、平均63日程度の妊娠期間後、5-7頭の子供を産む。単独の雄が複数の雌の行動圏を歩き、一夫多妻と思われる。雌は行動圏が重ならないが、雌は重なり合う。

行動圏は、食物の豊富さで50-5000haまでの差異があるが、平均して800ha程である(北米での調査結果)。

3-7頭の子供は、母親と一緒に行動し、半年から次の子供が生まれる春までには分散する。

(DR ウォイド、平凡社)

■横須賀でヒヒのような巨大サルが出没しているという目撃証言が寄せられ、早速取材すると・・・

### ■謎の巨大サル

ヒヒのような巨大サルは米軍基地内警察官からも目撃していた。『サル』は駐車場の屋根に上がったたり下りたりし、やがてスーパーの方に消えていったという。

さらに取材を進めていくと、目撃者が複数いることが分かった。その共通した目撃証言は「大きい」「ヒヒのよう」というものだった。

『サル』は米軍基地内に住んでいるものなのか？

しかし、この5日間基地内には目撃者はでていないという。そこで、『サル』の居場所を木が生い茂っている近くの諏訪公園に絞った。エサを置いておびき寄せる作戦を実行したが・・・残念ながら現れなかった。

#### ■アライグマ被害

『サル』の取材が暗礁に乗り上げていた頃、鎌倉でアライグマが保育園の木の上で見つかり、捕獲されたというニュースが飛び込んできた。鎌倉ではアライグマがすでに7頭捕獲されていた。鎌倉市の北部に位置する鈴木さん宅ではなんと屋根裏にアライグマが住みついた。屋根裏で5頭の子供を発見。まもなく里親に引き取られた。

アライグマは猫のエサを横取りしていたところも目撃されていた。さらに、池の鯉や金魚が被害に遭った家もある。

実は、この4月から9月までの間に、鎌倉市役所には目撃・被害情報が48件寄せられていた。市役所の人のお話ではアライグマの目撃情報が年々増えているという。

高橋啓

表 題 【 哀れな子狸を助けてあげたいというか 】

投稿日 【 001030 】 お名前 【 彦根市町村 寺村知子 】

今年開通した開出今橋の工事が始まり、犬上川堤防の雑木林が取り払われた頃からは我家付近に、雉子、狐、狸が棲みはじめました。夏頃、四匹の子狸が夜に歩いているのを見かけていたのですが、十月に入って久しぶりにその内の二匹を見て目をそむけてしまいました。小さいほうの一匹が全身に全く毛がなく、皮膚が痒そうにがさがさして臉もはれあがり、もう一匹と一緒になければ、狸とはわからない姿をしていたからです。翌朝、毛のある方の一匹と思われる狸をもう一度見かけたのですが、これも毛はあるものの、臉や身体のあるところがかぶれたようになっていました。彦根は、この一週間で随分寒くなり、夜は冷込みます。あの裸のような子狸を思うと胸が痛くなります。どうかして助けてはやれないものなのでしょうか。このような問題は取り上げては頂けないのでしょうか。

11月18日 彦根市 寺村知子

標 題「ガラクタ工作3連発」

投 稿 日「001101」

名 前「彦根市 加 固 啓 英」

暇あり、金なし、外は雨、脳みそもお休み状態。

そこでガラクタ工作を・・・一応3点が完成しました。

1) バードコール

時期外れにサクラ、ネムノキ、アカマツを大胆に枝打ち、サクラの残材のうちの手頃なものに、少しきつめの孔を開け、指で充分つまんで捻れる頭の付いたボルトをねじ込んだだけのもの。

市販品より良い音がしました。この頃は「これの使用はテリトリーの宣言や恋いの唄を攪乱することになり、好ましくない。」とも言われますので、もっぱら鳥好きの人を騙すことに専念します。

1) 水中の微細な生き物を獲るための物

お好み焼き用ソースの容器にポリプロピレンのストローを取り付けただけの物。

枕元で稲の越年栽培を試しており、今日現在までは、順調に生育していますが、その植えてあるバケツの水の中にミジンコと思われる微細な生き物が非常に元気良く泳ぎ回っております。捕まえて琵琶湖博物館の顕微鏡を使わせて頂き、確認したいと考えています。

3) 中性能指向性マイク（高性能と言いたいのですが、少々気がひけますので・・・）

庭の草木の根元に、落ち葉や枯れ枝や木切れなどの残材を押し込んでおきましたところ、多くの種類の虫の声が居ながらにして楽しめることとなりました。

（新格言：物ぐさは三文の得）そこで、モノラルラジカセで録音しようとしたのですが、遠くの犬の遠吠えや、近所の風呂のパーナーの音は良く捕らえているのに、虫の声だけが全く再生出来ないのです。

< 原因は3つ考えられます。>

その1 虫の声が小さ過ぎる。

人の脳は聞きたい音を選択的に補強してくれるが、機械はそういかない。

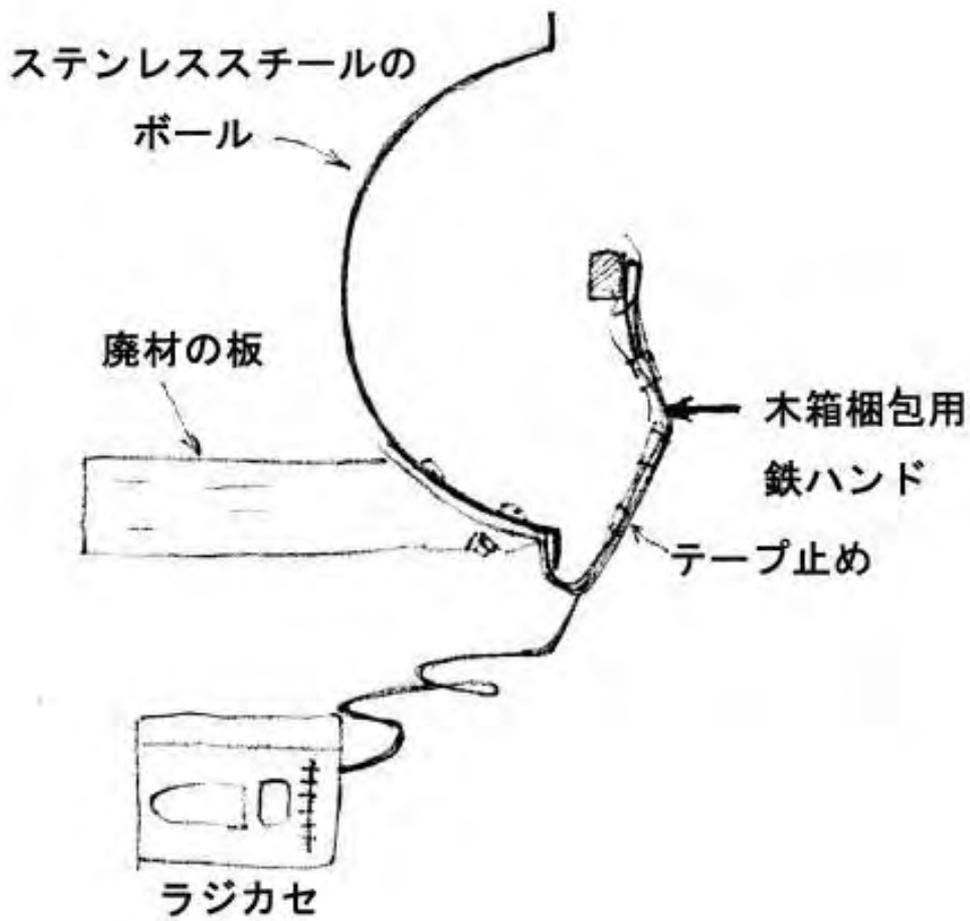
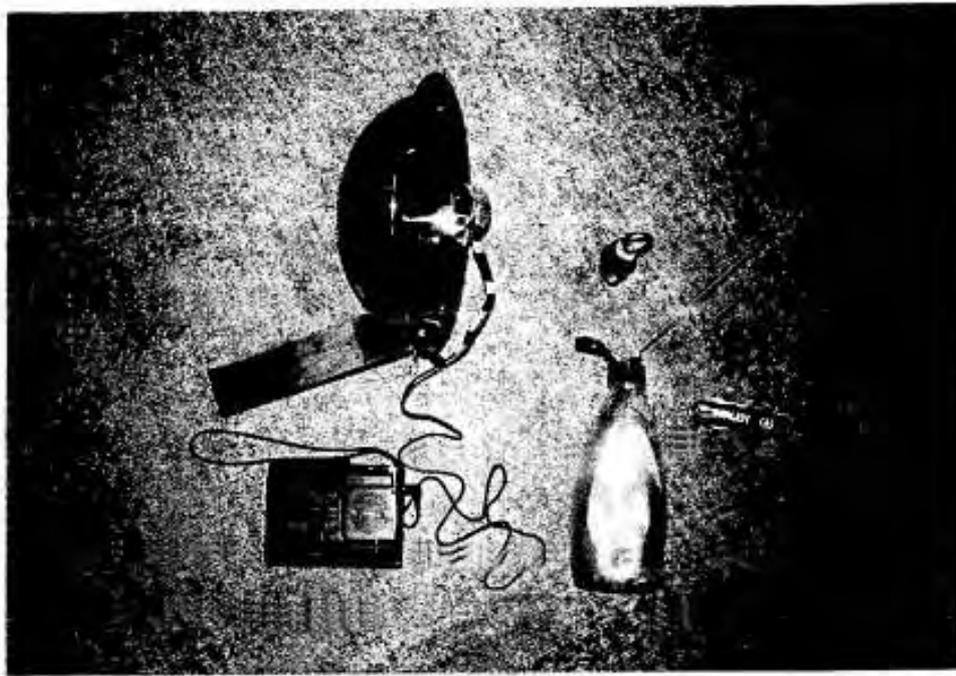
その2 このラジカセの性能が低く虫の声の周波数を録音出来ない。

その3 人の会話を聞き取りやすくする為、故意に可聴域の高音部分以上をカットする回路設計としてある。

駄目元で、その1にだけ有効な物を作り上げました。テレビの音声には有効名のですが、急に雨の日が多くなり、寒さも増し虫が鳴かなくなってしまい、虫の声ではまだ試していません。

\* 指向性マイクは最低でも9000円しますが、百元ショップのステンレスボールと1500円のタイピン型マイク、それに有り合わせの廃材で作りました。理論的にはバラボラ曲面とすべきでしょうが、耳たぶの後ろに手のひらをかざしただけでも一応の効果は有るので、これで良しとしました。

\* これは何かに似ていると思いませんか、はからずも鏡筒の短い天体反射望遠鏡と同じ構成となりました。



加固です。ドングリで食品を作ってみました。

渋みの有るドングリで、あまり多量の水と労力や灰汁や重曹等の添加物をひかえめに使用して食品とにならないかを試してみた。

ドングリの選定 : かなり渋いが粒が大きく、多量に手に入るナラガシワを用い、愛知川河川敷で採取したものと(以下、野生)、同所で採取したドングリから実生で育てた自宅の庭の樹になったもの(以下、自宅)を比べた。

1. 野生の樹は周囲80cm前後の大木であり、そのドングのほとんどに虫が食っており、かなりの部分の澱粉が変質していた。(可食部分が半分以下となる。)
2. 自宅の樹は周囲約30cmの若木であり、虫食い跡も変質もほとんど見受けられなかった。これは、若木が古い樹から隔離され、虫の追跡を振り切った結果と見受けられた。里山で一定に育った樹を伐採・更新することも同様の効果があったのではないか。この方が苦味も少なかった。虫に対抗するためにタンニンは増すのか?

試行錯誤で得たもの

1. ドングリを良く乾燥すると、中身が収縮し外の殻とシブ皮(あま皮)の間に隙間が出来、指先で強くつまんだだけで殻が潰れ、容易に取り除ける。
2. 灰汁抜きの前に加熱すると、ひどい悪臭に悩まされる。又、灰汁が取り込まれ溶出困難となる。
3. 外の殻と中のあま皮を良く取らないと、灰汁抜きが困難となる。

灰汁抜き

1. 中の虫を殺す為の加熱は手早く最小限にする。
2. 灰汁抜きは、小豆大の賽の目状に切り、水と共に攪拌を繰り返す。
3. 賽の目状のドングリを水と共に攪拌し、pH試験紙で調べるとpHは約7を示す。灰汁または重曹水溶液は中和剤としては必要はなく、使用する意味が良くはわからなかった。攪拌を3回ほど繰り返すと、ドングリの身も浸出させた水もあまり渋さが感じられなくなる。
4. ドングリを浸した水は、何度水を替えても茶色に着色するが、水中の溶出物は飽和に近い濃度とは考え難く、溶出速度が低い(十分な時間が必要)と考えられる。(但し、そう感じられただけであまり根拠なし。)これが正しければ、より細かく砕き(取り扱いに問題がなければ、澱粉粒状まで)十分に水と接触させる(十分な攪拌)ことで水の必要量は低減出来るように思われる。
5. 中にサトイモ等を入れて、小川の中で回転させて皮を剥く、イモグルマの応用は出来ないだろうか? 食品をまかせられるような、きれいな小川は身近には残っていないと思うが、

加工

十分に細かくし、澱粉粒とし、洗浄と静沈を繰り返して、精製すれば上品なものとなるのでしょうが、そうすると回収がむづかしくなりそうで、すこし粒が残る程度までとし適当に手抜きして、砂糖を混ぜて煮込み、ウイロウ(外郎)状のものが出来ました。いくぶん灰色で、舌触りはあまり滑らかでなく、少し渋みもありましたがまあまあ食べられました。



標 題「いろいろ教えてください。」

投 稿 日 [001103]

名 前 [彦根市 加藤 啓英]

〔質問 4〕 半世紀近く前、高校時代に習い、今はすっかり忘れていたのですが、動物の排泄するアンモニア性窒素が系統進化上、水の多量にある環境の動物ではすぐに溶出できるもの（アンモニア）、鳥などでは卵の中で無害な形のもの（グアニールユリア、哺乳類等では体内では分解してアンモニアとなるまで、一時無害なもの（尿素）、等等となっていたように、うっすらと記憶しております。これについて、正しく覚え直したいと思いますので、ご説明頂けないでしょうか。

学芸員さんからの回答

動物の進化と尿中窒素化合物に関わっての質問ですが、現行の高校生物では扱わなくなった内容です。しかし、受験する大学によっては二次試験で出題される可能性もないとは言えないので、一部の受験生はこのあたりの学習もしています。

さて質問に対して簡単に説明します。

動物は呼吸の材料に糖質、脂質それにタンパク質という栄養素を利用しますが、このうちタンパク質を利用した場合には、おっしゃるとおり結果として有害なアンモニアを生成します。しかしヒトではこのアンモニアを肝臓にある尿素回路で無害な尿素に変えて尿中に排出しています。ヒトと同じ尿素で排出するタイプの動物は哺乳動物のほか、両生類（成体）、軟骨魚類があります。また、水中生活をする無脊椎動物、硬骨魚類、両生類（幼生）は、生じたアンモニアをそのまま速やかに尿中に排出しています。これに対し、陸生でも卵生の動物、たとえばハ虫類、鳥類、昆虫類は卵内での発生が長期にわたるため、尿素をより安全な不溶性の尿酸に変えるという方法をとっています。鳥の糞に白い尿酸の結晶が含まれているのはよく知られています。

また、ニワトリの発生過程と尿中窒素との関係ですが、発生開始～5日目頃まではアンモニア、5～10日目頃までは尿素、10～15日目頃までは尿酸でそれぞれ排出しています。個体発生が系統発生を繰り返しているというヘッケルの「発生反復説」をよく示している事例です。

より詳しくということであれば動物生理学などの専門書を調べられたらいかがでしょうか。

交流センター 森田光治(高枚生物担当)

「フィールドレポータースタッフからの一言」

フィールドレポーターの皆さんこんにちは。

今年度フィールドの第1回調査「田んぼの生きもの」、第2回調査「ドングリを調べよう」では、それぞれに環境の変化の影響もあるのでしょうか、例年より早かったり、遅かったりの、現実を実感されたことと思います。それに伴って調査も一苦労したと言うレポーターの方々も多かったのではないかと思います。(スタッフからもそんな声が多かったです)。

それにも拘わらず、「田んぼの生きもの」調査の結果は「フィールドレポーターだより」にて11月に皆さんのお手元にお届けしましたように、昨年より一段と充実した中身の濃い結果が出たことから、フィールド調査への熱意がうかがえます。

つづいて、11月末までの第2回調査「ドングリを調べよう」も多くの報告が寄せられていますが、今回は博物館の布谷さんにご指導頂き、スタッフの前田さんを中心に刻々と整理、入力作業が続いているところです。どんな結果が出てくるのか楽しみです。この結果報告を皆さんにお知らせできるのは年を越しますが暫くお待ちください。

今年も残り僅かの日数となりました。調査や掲示板への投稿、また交流会への参加など、たくさんのご協力頂きありがとうございました。少し早いかも知れませんが、みなさん良いお年をお迎えください。そして来年もよろしく。

フィールドレポータースタッフ一同

# フィールドレポーター 掲 示 板



2000年度 第7号 通巻第10号 (1月)

あけましておめでとうございます。

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

いよいよ新しい年、そして新しい世紀が始まりました。年末から年始にかけて、20世紀のできごとなどの特集がテレビなどで盛んに行われていました。それを見ると、20世紀という時代はいろいろな意味で世の中が激変した時代だということがよくわかります。特に身の回りを見渡してみると、土や自然の草木、生き物などにふれる機会がほとんど無くなっています。食べるもの一つをとってみても、日本中にはいうに及ばず世界中のあらゆるものがスーパーの棚に並び、すでにそれらの本来の姿がわからないような状態になってしまっています。今や、町中にいて手に入らないものは無くなってしまいました。自然そのものもコンピューターの発達によって、バーチャルで再現されるようになってきています。その結果、生き物が実際にどんな生活をしているのか、自然に入っていったときの感動などを実際に感じるができなくなってしまっているのではないのでしょうか。フィールドレポーターの活動は、そのような時代にみんなで原点を探し求め、将来に伝えていくことができるような活動になれたらいいなと思います。今年、いや今世紀もどうかよろしく願いいたします。



ところで、2月4日(日)に今年度第2回目の交流会を開催することになりました。今回は、11月末で調査を終了した「ドングリを調べよう」のまとめになります。普段わりと身近なものに感じていたドングリも、調べてみると以外に知らないことが多いものだと感じられたのではないのでしょうか。寒い時期ではありますが、たくさんの人に集まっただいてわいわいと話をすれば、きっと身も心も温まること請け合いです。前回同様、レポーターの方以外の人の参加も大歓迎ですので、関心のありそうな方をお誘いの上ぜひご参加ください。

## フィールドレポーター1・2月の予定をお知らせします。

- ・1月20日(土)  
定例会：ドングリ調査まとめ  
交流会準備等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・1月27日(土)  
交流会準備 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・2月4日(日)  
平成12年度第2回交流会 於：琵琶湖博物館生活実験工房 14:00～
- ・2月17日(土)  
定例会：交流会まとめ等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～

特に交流会には多くの方のご参加をお待ちしています。また、これ以外の日にもお気軽に来ていただければと思います。

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

表 題 [湖北町 野鳥センターに見る、聞く、]

投稿日 001205

志賀町 尾形 勇

“琵琶湖に わし が飛んでくるんです”

え、まさか！ ほんまです。

湖北町(尾上)野鳥観察センター 所長さんのお話です。

やってくるのは おおわしで年末のぎりぎりに、たった一羽できます。

翌年の2月末頃までいまして北に帰っていきます、去年は12月28日に

飛来して来て今年の2月28日まで2ヶ月棲んでゐました。(センター内のパネル  
写真にくっきりと写しだされているのを指し示しながら所長の話はつづく)

まことに大きなものでして羽を広げると両翼2m40はあります、このセンターの  
裏山に飛来して来てびわ湖の魚を取っているのです、多分ブラックバスではない  
かと思います。

釣り人がブラックバスは持ち帰らず、岸で放してしまうので、魚が弱って動きが  
鈍くなっているのを高い木の上から見ていて急降下して捕らえるのです。

アマチャ写真家の幾人かは毎年来ています。年末電話かけてくださればお知らせします。

とご配慮の言葉を頂きました、

私から一言質問しました、なぜ一羽だけの飛来なのでしょう？

それはエサ場の縄張り(テリトリー)があり 他を寄せない習性かと、北に帰れば群れに  
戻るのでしょうか。

この日の私の目的のこはくちょう は100羽近くと ひしくいが十数羽が見られ  
十分楽しめましたし、おまけに貴重なわしの話が聞かれ幸運でした。

みなさん お正月の楽しみに湖北にわしを見にゆきませんか！きっと来ていると  
信じます。

でも、なぜ此処に一羽だけがくるのか！何かを追ってくるのでしょうか！基地は  
何処なんのでしょうか！ もう少し知りたいです、お教え願います。



野鳥カタログ 永岡書店 1996より



日本の野鳥 山と溪谷社 1990より

前回の掲示板（通巻第9号）で、11月末現在で4匹のカマキリの飼育状況を報告しましたがその後の状況を纏めてみた。

12月に入ってさすがに夜間の気温の低下が大きいので、飼育金魚鉢4個の入るビニールフレームを作り、100Wの赤外線ランプと熱帯魚の温度コントローラーで18～20度に24時間保温するようにし（12/11）、晴れた日は午前中日光浴という特別養護ホームの環境にしたが次の2匹が相次いで死んでしまい、残り2匹のオオカマキリが無事越冬したところですが、前報以降の出来事は下記の通り。

①羽なしオオカマキリ：10/04飼育開始、12/18死去（産卵1回）

②コカマキリ：11/03飼育開始、12/12死去（産卵3回）

### 1. 12月末に産卵

11/26日に捕まえ飼育を始めたオオカマキリは既に産卵は済んでいるものと思っていたが12/23日に卵のうを発見（前日朝は卵のう無し）。保温を始めて十日余になり季節感が狂って3個目或は4個目の産卵になったものと推察される。

なお、保温無しの飼育で最も遅い産卵日はオオカマキリの11/26日、コカマキリの12/07日であった。

### 2. コカマキリも3個の卵のうを出産

11/03日から飼い始めた1匹のコカマキリは、日時を特定できなかったが11/07、11/26、12/07日の3回、産卵したのを発見。然し最終産卵の5日後に食欲を無くして死去

3回産卵したコカマキリの産卵間隔は推定で19日と11日であり、オオカマキリと大差はないようである（16日と19日）。

飼育開始後は雄カマキリ不在なので、これらの卵のうが受精卵か否かと言うことになるが、飼育前にすでに受精していれば、雌カマキリは大きな受精嚢を持っていて雄の精包と言う精子の塊を保存できるので産卵毎の受精は不要であり、従ってこれらの卵のうは受精卵と思われる。初夏に孵化するかどうかが楽しみである。

### 3. 3個の卵のうの大きさ

沢山株分けしたあらかしの梢先（高さ2m）で見つけた3個のオオカマキリ卵のうの大きさと、3個産んだコカマキリの卵のうの大きさは下表のとおりで、コカマキリの卵のうの大きさが順次小さくなっていることが確認される。

オオカマキリも大きさの順の産卵と推察できる。

コカマキリの卵のうは隅角部に産みつけられたものもあるので形が不揃いであり寸法は傾向を示すだけである。

いずれ何個何段の卵からなっているか計数の予定。

表. 3個産まれた卵のうの大きさ 単位:mm

オオカマキリ/自然		コカマキリ/飼育	
長さx幅max	産卵順位	長さx幅max	産卵順位
33X26.5	1（推定）	25X9	1（確認）
26X26	2（推定）	20X8.5	2（確認）
21X24	3（推定）	18X7	3（確認）

## フィールドレポーター掲示板投稿用紙

表 題 【 ドングリのロマン(?) 】

投稿日 【 001208 】 お名前 【 草津 田町村 CONY 】

先日、大津市国命の幻住庵の森で、ドングリ(多分ツブラジイ)を見つけ、送った  
のですが、その後芭蕉の書いた「幻住庵記」を読んでみると、中に、  
『先づ頼む椎の木も有り夏木立』という句がありました。芭蕉が使った  
と言われる「とくとくの清水」の脇で拾ったので、もしかしたらこの  
「椎の木」が私の拾ったドングリの木かもしれないと短絡的に思って  
しまったわけですが、確かに、枝や葉がよく見えないう背の高い木で、  
かなりの年月がたっているものと思われませんが、この位の大きさの椎の木

は、樹令何年位のものなんでしょうか？芭蕉がここに滞在していたのが  
1690年—310年も昔のことですから、キョウト無理があるかな…子供か

表 題：投稿に対する意見等の場合は、元の表題を。新たな内容の提案・意見・質問の場合は、投  
稿者が内容のわかりやすい表題をつけて下さい。 孫の木かもしれないね。

投 稿 日：例：1999年5月15日の場合 990515とお書きください。

投 稿 者：市町村名とご希望のお名前(本名、イニシャル、ペンネームなど)をお書き下さい。

例：草津市 桑村邦彦 : 多賀町 K. M : 彦根市 タンポポ娘 など

※ 表題、投稿日、投稿者がわかればこの様式でなくても結構です。電話、E-mailでもOKです。

表題 種類を教えてください

投稿日 001210 彦根市 加岡啓英

元昆虫少年たちに見てもらい  
ましたか、何者かわかりません  
でした。(発送時生きていました。)

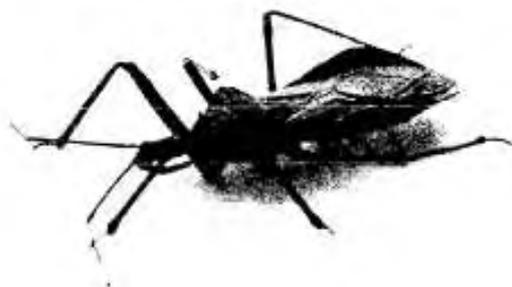
八尋さんに御願ひ  
出来ないでしょうか。

種類を教えて頂き、  
身元引受入になって  
頂きたいのです。

採取 Dec/10/'00

場所 大津市大石、県立ライフル  
射撃場、コンクリート床  
メッシュコード523-2785

彦根市 加岡啓英



学芸員さんより一言

オオトビサシガメ *Isyndus obscurus* (Dallas)

分類：半翅（カメムシ）目、サシガメ科。体長：20～26mm。

分布：本州、四国、九州、朝鮮半島、中国、ブータン。

生態：5～6月ごろより山間部の日あたりのよい樹上や草上で活動する。

6月下旬に産卵。樹皮下などで冬を越す。木にまいてある看板や  
むしろの下に集団で越冬していることもある。さされると激しい  
痛みがあるので注意を要する。さすカメムシということでサシガメ  
という名前がついている。

陸生昆虫担当 八尋克郎

標 題「樹の枝の扱いについて」

投 稿 日「001231」

名 前「彦根市 加藤 啓英」

2000年末も押し詰まりカナダのイエローナイフへオーロラを見に行き、北緯60度の非日常的な体験を楽しみました。運よく三晩の観測中2回と帰りの機上からの計3回オーロラを見ることが出来ましたが、見られた動物は、いずれも町中で人の生活に依存していると思われるワタリガラスと、民家の軒先で採餌する、この季節には全身純白のライチョウ（多分日本とは別種）のみでした。冬に南下して来ているカリブーの大群はオブションツアーで機上からみられるそうです。

森林限界に近いこの地は地表近くまで岩盤で、農耕地は見当たらず、貧弱な針葉樹を中心とした植生はひどく単純に思えました。湖の周辺広範囲にガマの穂に似たもの生えていましたが、薄暗く良く見えませんでした。

-37℃の観測地では、肩で押し分けた生樹の小枝が簡単に折れました。暗闇で良くはわかりませんが樹皮が白っぽく見え、シラカンバやダケカンバに近いものかと思われました。自然観察ガイドの言うには、防疫上の問題は無く、国外に持ち出しても良いとのこと、持ち帰り、根付くかどうかは解りませんが挿し木にしてあります。このガイドの方がどれだけの知識や権限があるのかは、私にはわかりません。

園芸樹としてこれを扱う事は許されるものでしょうか。又、先の長い話ではありますが雌雄同株ですと一個体から自家受粉で勝手に増える恐れは有るのでしょうか。

問題があれば焼き捨てるつもりです。

日本産のカバノキ科の樹木でベーリング海を越えてカナダまで連続しているものがあるか、素人の調べられる範囲で当たってみました。以下の通りで解りませんでした。

（ワープロ操作未熟でイタリック標記が出来ず、普通の英数字となってしまいました。）

<i>Betula corylifolia</i>	ネコシデ	本州近畿以西・亜高山
<i>B. ermanii</i>	ダケカンバ	北海道、本州・中部山岳以北、四国、雪崩跡地、カラフト、カムチャッカ半島、アムール地方、ウスリー地方
<i>B. grossa</i>	ヨグソミネバリ	本州、四国、九州、山地ブナ林に混生
<i>B. maximowiczian</i>	ウダイカンバ	本州北部～中部、千島列島・二次林
<i>B. platyphylla</i> Var. <i>japonica</i>	シラカンバ	北海道、本州北部～中部・雨の少ない内陸

学名がわかるようになりたく、彦根市立図書館よりLEXICON LATINO JAPONICUM（研究社）を借り、手当たり次第やみくもに調べていますが小種名はほとんど似た単語に出会いません。なにか入門の手掛かりはないでしょうか。保育社 カラー自然ガイド「人里の植物Ⅱ」は手元にあり、構成はなんとか解るのですが・・・

カナダの木の枝と学名の件

冬のカナダですか。寒そうですが、面白いものが見られそうですね。

まず枝を持ち帰ることの防疫上の問題は、おそらくありません。樹木で問題になるものはごく一部だったと思います。そういう意味では栽培することには問題はないと思います。大きくなれば自家受粉で種子はできると思いますが、その時にどうなるかはわかりません。多くの樹種が日本には入ってきていますので園芸種として管理してあれば、おそらく問題は起きないと思います。

まずその前に、挿し木がつくかどうかは気になります。それには持ち替えられた樹種が何か問題です。日本とカナダでのBetulaの共通種があるかどうかを調べてみたのですが、手元の本にはまったくありませんでした。

「Native Trees of Canada」という本です。この本には、カナダのBetulaとして15種があげられていました。シラカンバなどは同じではないかと思っていたのですが、シノニム（異名）にもありませんでしたので、別種ということになります。ですから持ち帰られた種が何かということ、葉がでて、できれば花が咲かないとわかりにくいということでしょう。

最後の学名の件、ちょっと意味がつかめないのですが、持ち帰られた種の学名が知りたいということでしょうか。あるいは学名とはどういうものかということを知りたいということでしょうか。学名とはどういうものかについては、いくつかの本はあります。でも具体的に植物の学名がどの様につけられているか、ということについては、そういう本を見てもなかなかわかりません。もしよければ、2月に植物の分類についての講座を行います。その中で時間を取って学名の話をしてはいかがでしょうか。その回だけでも参加していただければ幸いです。（布谷）

表題 岩根さんの「ついに我が家にも未確認生物現る」を見て

投稿日 0012 彦根市 加藤 啓英

フィールドレポーター掲示板の岩根さんの「ついに我が家にも未確認生物現る」を見て一寸心配になり、ご検討と、必要があれば警告をお願い出来ないでしょうか。

数年前「タヌキが民家に入り込み、大人の男性と大立ち回りの末絞め殺された」という新聞記事がありましたが、添えられた写真は尻尾に縞があり明らかにアライグマでした。コウモリやムササビなら衛生と騒音だけを問題にすればよいのですが、やたらに遊びの多く何を仕出かすかわからない動物らしく、これがアライグマであれば、ミルクの匂いのする赤ちゃんなどは襲われ命が脅かされる恐れは無いでしょうか。

表 題 【鮎ずしを作って見よう】 第三回（最終回）

投稿日 【001226】

投稿者 【志賀町 尾形 勇】

いよいよ今日 12月17日は、待望の鮎ずしがお目見えする日だ。

どうなっているだろうか？ わくわくする……

10時、加入者全員40名余揃ったところえ 運びこまれた大樽二個、北村師匠と桑村担当員から今日の作業および試食の説明がなされ、みんな固唾をのんで見まもるなか、師匠の呼びかけで、まずは樽の上の重石（3個）を取り外し、樽の中をのぞくと、ぎっしりと詰まった白いご飯、ブーン と酸っぱいような、塩からいような、なんとも言えない醗酵の香り、師匠がご飯を取り除く所作を見て、自分もそろりそろりと始める、 “鮎ずしの姿が現れてきた”

漬けたときの鮎の姿はすっかり変わり、ご飯に包まれた、まぎれもない鮎ずしの姿だ。

師匠が、一声、「出来ています！ これなら行けますぞ！」

みんな、ほっとした顔、しばしどよめき、かわりばんに手を入れ、ご飯を取り除き次々と鮎を別の容器に盛りこんで行く、此一時間ばかりですっかり樽はあき、次なる作業、【鮎ずしの、うす切り】これがなかなか難しい。

包丁は師匠が丹念に砥いだ上物で、実によく切れるが、こちら腕がともなわない。とても師匠お手本のように行かぬ、なんとか一匹切り終え、皿に盛ったが、出来映えはなんとも様にならず。師匠が言うには、ふぐさし、はもちり、鮎ずし、この三つは包丁さばきの最も難しいもので、これが出来れば一人前とのこと。

最後は、試食が楽しみだ。【待つてました！ 鮎ずしのお茶づけ！】 師匠が食べ方で、真っ先に伝授してくれたのが、これだ。

「鮎ずし二／三切れを、茶碗に盛ったご飯の上にのせ、とろろこんぶ、きざみこんぶ、それぞれ好みの量をのせ、熱湯を注ぐ、お醤油を少しかけて出来上がり」。

さっそく一口、わー！ これはうまい！

なんと言おうか、茶漬けがこんなにうまいものとは、ついぞ、しらなかったことだ。あまりの旨さに3／4杯も食べたが、さらにお吸い物（おなじものでご飯を入れていないだけ）としても2／3杯頂いた。

お仲間のうち、自家製をもってこられた方もあり、お二人に薦められるまま更に2杯頂いた。

今日のお目当ては、まずまず大成功と言うところだ、それにつけても、二種の昆布が実にうまく鮎ずしと会い、味を更に美味しくしていたことは驚きだった。

われらが作品、まずは合格品となり、各自に2／3匹ずつ分配され、有り難く頂戴した。「お陰で美味しい（酒肴）お正月ができます。」

今年4月16日第一回受講日より8ヶ月の長期間、北村師匠、桑村さん、森田さん、各位のご指導、保管管理、検査、手入れ、などなど誠に有り難うございました。

前回の掲示板（通巻9号）で「超ジャンボ根切り虫」の一文を投稿しましたが、博物館で聞きますとこの大きさからカブトムシの幼虫だろうとの事でした。他の小さい根切り虫もコガネムシ類の幼虫とのことで、私が根切り虫と称していたものが全て昆虫の幼虫であったと言うお粗末の一件でした。

お詫びと言う訳でもありませんが、根切り虫タイプの昆虫の幼虫の大きさを調べた結果は次のとうりで、超ジャンボ根切り虫はカブトムシのサイズでした。

表 成長した幼虫の大きさ（体長mm）（カブトムシは3齢幼虫）

カブトムシ 80	クワガタムシ かぶと並み?	カナブン 45	シロアリのムシ 40	クロコガネ 25	マメコガネ 20
-------------	------------------	------------	---------------	-------------	-------------

カブトムシの幼虫が菜園の落ち葉を積んだ堆肥の中にいたとは信じられないことですが近所の子供が飼育していた成虫が逃げ出して卵を産んだのであれば納得です。私の孫が4～5歳のころ、買ったカブトムシを次の日に籠から逃がしてやった理由として、朝のお散歩に出してやったらお家を忘れて帰ってこないんだよと言っていた事を思い出しました。この幼虫は折角なので飼育することにし、土と腐葉土、枯れ葉を入れたバケツの中で越冬中です。

ところで、カブトムシの幼虫の餌は朽ち木や腐葉土等ですが、成虫になるとクヌギやコナラの樹液になるそうですが、昆虫類の幼虫時代の餌と成虫時代の餌が違う理由は何でしょうか。蝶類でも幼虫時代のアオムシは葉っぱ類、成虫になると花の蜜に変わる訳ですがその理由を調べてみたところ次の様になりました。

- (1)幼虫は動きが遅い上に動く必要性も少ないのに対し、成虫は羽を動かして飛翔することが多いので、成虫は多くの食物（カロリー）が必要であり、枯れ葉や葉っぱが食物ではカロリー不足になってしまう。
- (2)空を飛ぶためには飛行機と一緒に体重は軽くないといけない。低カロリーの枯れ葉や葉っぱでは幼虫のように腹一杯の食物が必要であり（重い胃腸）、飛行機の燃料が石炭と同じことで到底軽々と飛ぶことはできない。樹液や蜜などの高密度、高カロリーの食物を少し食べて軽量化を図る必要がある訳で草食性の鳥が葉っぱは食べず果実や穀類を食べるのと一緒のようです。ただし大型の白鳥は例外とのことです。
- (3)それでは幼虫の時から羽があって樹液や蜜を食べたらどうかという事になりますが、樹液はともかく、花の蜜となるとその季節と幼虫の時期のマッチングが問題（春に孵化して幼虫になったが花が咲いていない、花が少ない）となるでしょう。樹液も寒い時は量が少ないのかも知れません。どこにでもある葉っぱをふんだんに食べる代わりに移動能力を犠牲にするのは理に適っているようです。

もう一つ、それでは幼虫が何故羽化するのかと言う疑問に対しては、羽を得る事によってあちこちを飛び回り幼虫が生きていける草を見つけて卵を産みつける種族保存のためだと言えるでしょう。

# フィールドレポーター 掲 示 板



2000 年度 第 8 号 通巻第 11 号 (3 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

いよいよ3月、日差しもぐっと暖くなり生命の躍動感を感じるようになってきました。みなさんはいかがお過ごしでしょうか。

ところで、先日の交流会はたくさんの方々にご参加いただきありがとうございました。レポーター便りでも書きましたが、27名もの方の参加を頂き担当としては、うれしい限りでした。これをきっかけに、調査活動にも、交流会にも、もっとたくさんの方に参加していただけるようさらに努力して行きたいと思っておりますので、どうかよろしくお祈りします。

3月といえば年度末です。2001年度(平成13年度)のフィールドレポーター更新および募集の時期になりました。昨年度の募集までは、募集の締め切りを3月末としていました。今年度から、4月以降も随時募集を続けていき、フィールドレポーターの輪をもっと広げてゆきたいと考えています。みなさんの周りに興味を持っていただけそうな方がおられましたら、ぜひ声をかけて誘ってみてください。もちろん、現フィールドレポーターの方々も、ぜひ来年度も更新していただきますようよろしくお願いいたします。フィールドレポーターという形で多くの方々をつながりを持ち、いろんなことに興味を持ってわいわい楽しみましょう。もう一つお願いがあります。調査や交流会への参加者の増加を目指して、調査テーマや調査の方法、交流会のあり方など、新年度新しい方向を模索しながらよい方向へ変えて行きたいと思っております。何かアイデアをお持ちの方はぜひ教えてください。また、この際にぜひフィールドレポータースタッフの方へも参加して下さいますようお願いいたします。

あと新年度に入ってからですが、4月29日(日)に守山市の野洲川河川敷で、「地球市民の森」—植樹祭—というイベントがあります。フィールドレポーターの活動を多くの方々に知ってもらうために、このイベントに参加することになりました。時間のおありの方はぜひご参加ください。

## フィールドレポーター3・4月の予定をお知らせします。

- ・ 3月18日(日)  
定例会：新年度へ向けて打ち合わせ 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・ 4月1日(日)  
定例会：新年度名簿作成等 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・ 4月21日(土)  
定例会：地球市民の森準備等 於：琵琶湖博物館生活実験工房 14:00～
- ・ 4月28日(土)  
地球市民の森準備 於：琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・ 4月29日(日)  
地球市民の森 植樹祭 於：守山市野洲川河川敷

\*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

標 題「いろいろ教えてください。」

投 稿 日 [001103]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

[質問 2] ナメクジやアサリ等の腹足類・斧足類の思考能力はどの程度の物でしょうか。頭足類のタコが餌につられてネジ蓋のピンを開ける場面等は時々テレビで見ますが、どこまで学習された優秀なタコかは説明がありません。

[質問 3] ナメクジは何に誘われて集まるのでしょうか。庭に撒いた鳥の餌にも、犬のトイレ(糞・尿)にも集まりません。ある種のアンモニア性窒素(グアニールユリア等)に誘われるのではないのでしょうか。

標 題「What どう云う doing?」

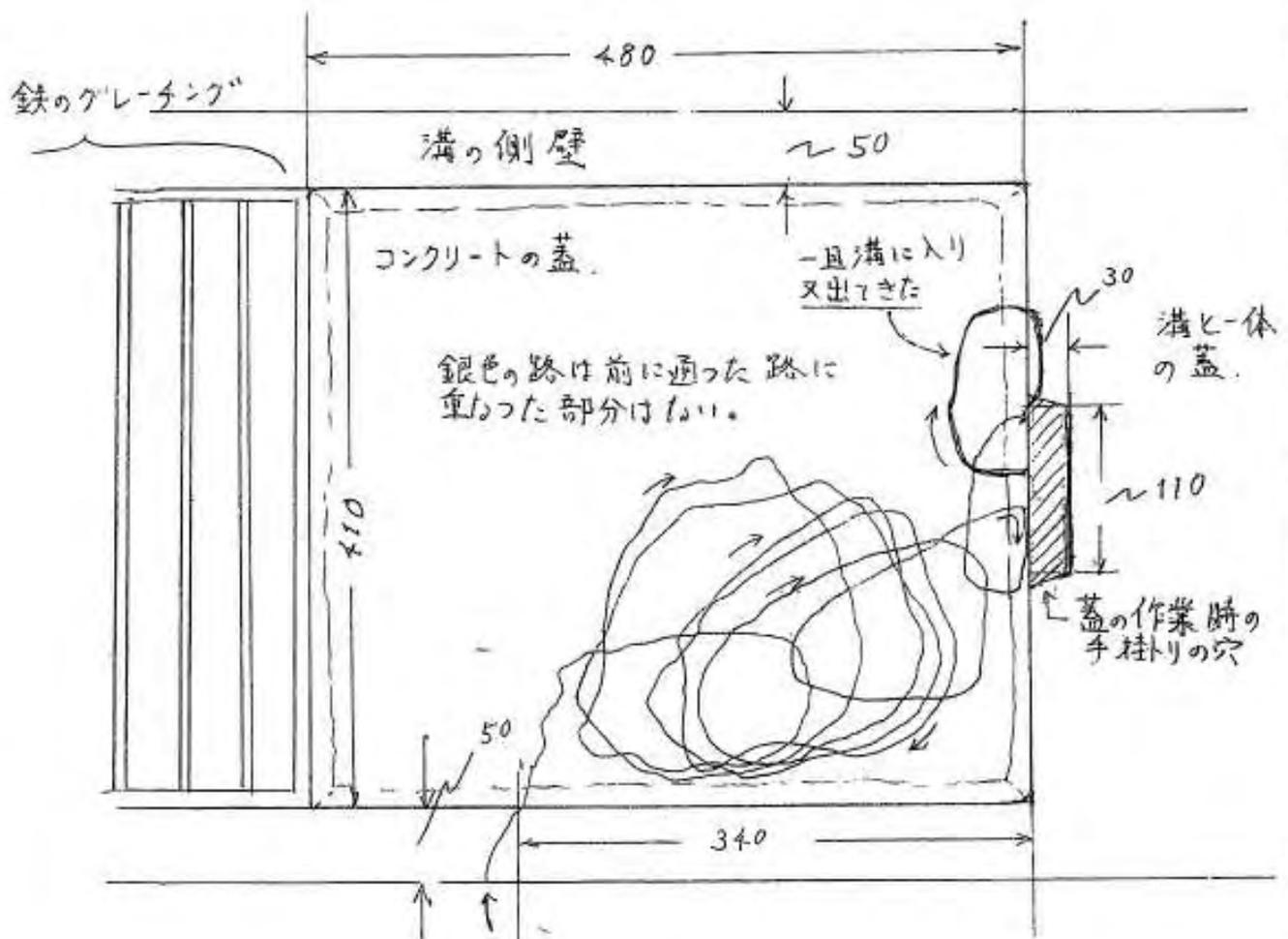
投 稿 日 [001010]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

わが家の前の家庭雑排水溝のコンクリートの蓋の上にナメクジが一匹、しきりに銀色の路を描いておりました。それが昔の和製ポップス通りなら「銀色の～遥かなみ～ち～」なるはずですが、このナメクジは霧の中で迷った登山家のように右へ右へとリンクワンデルグを続け、さっぱり進行方向が定まらないのです。

以下に「銀色の路」の見取り図を載せますので、どなたかナメクジの気持ちになって、彼の迷いを解いてやって下さい。

学芸員の方の科学的な見解も頂けたら、なお有り難いのですが。



加固さんからの難問を連発でいただきました。返答が遅くなってしまいましたこと、お詫びいたします。以下、続けますがちゃんとした回答になっているかどうか、ちょっと不安があります。

さて、まず第1問

「ナメクジやアサリ等の腹足類・斧足類の思考能力はどの程度の物でしょうか。頭足類のタコが餌につられてネジ蓋のピンを開ける場面等は時々テレビで見ますが、どこまで学習された優秀なタコかは説明がありません。」

とのことですが、

たぶんイカやタコの仲間・頭足類は、軟体動物のなかでは特別に賢いのではないのでしょうか？ 脳が圧倒的によく発達しているとのことですから。頭足類は眼もものすごく発達していることで有名です（脊椎動物とは独立して眼が進化し、脊椎動物の眼よりも盲点がない分すぐれているとも言われています）、体の色彩や模様、さらには凹凸や足の曲げかたまで自由自在に変化させるものもいます。おまけにあの俊敏な身のこなしによって、外敵から隠れたり逃げたりする一方で、果敢に餌を攻撃する仕種も見事です。このような行動を適切に行うには、相当の情報処理が必要ですし、きっと頭はいいことでしょう。でもネジ蓋を開けたりするのは、特別に条件反射の訓練をされた個体ではないかとも思いますけど。

いっぽう、腹足類にせよ斧足類にせよ、頭足類以外の軟体動物では、脳は少し大きめの神経節程度しか発達しておらず、別に大きさに必ずしも比例しているわけではないと思いますが、あまり脳の働きは活発ではないのではないかと推測します。実際、頭足類以外は身のこなしも緩慢で、それほど高度な情報処理も必要はないでしょうし。

私もタコやイカを含め、いろいろな軟体動物を食べていますが、これまで脳やら神経節やらを意識したことがありません。みなさんはどうでしょう？ 一度、食べる時にさがしてみたいかがでしょうか？

次に第2問。

「ナメクジは何に誘われて集まるのでしょうか。庭に撒いた鳥の餌にも、犬のトイレ（糞・尿）にも集まりません。ある種のアンモニア性窒素（グアニールユリア等）に誘われるのではないのでしょうか。」

です。

「グアニールユリア」という私が見たことも聞いたこともない物質の名前が出ています（不勉強をお詫びします。）が、アンモニア性窒素に誘引性があるかどうかは、私の知る範囲ではわかりません。

さて、多くの陸貝は枯れた植物質を主食にしており、ナメクジ類も大半がそのような食性だと思います。ですから鳥の餌にはあまり集まらないと思いますし、犬の糞尿はちょっと塩辛すぎるのではないのでしょうか。

前に住んでいた官舎の庭のナメクジは、チャコウラナメクジという移入種で、時々家の中にまで入ってきて、決まってビデオテープの背に貼ったシールを齧ってくれました。ですから、糊の成分には高い誘引性があると思います。時々、庭に紙コップに入れてビールを置いておくと、巷でよく言われるように、たしかにたくさんのナメクジがコップ内に落ちて溺れていました。ビールに含まれる誘引物質は何なのでしょうね。

ところで、インターネットで調べると、何種類ものナメクジ駆除剤が製品化されているのがわかります。それぞれナメクジにちなんだ商品名がユニークですので、ぜひ検索エンジンを使って調べてみてください。そのようにして調べたいいくつかの誘引剤の共通している成分は「メタアルデヒド」です。この成分は火種用固形燃料でも使われているようです。そういえば、学生の頃、登山をかじっていてガソリン・ストーブのプレヒート用に使う固形燃料が「メタ」と呼ばれていましたが、「メタアルデヒド」の略称だったのかしら？ 確かに燃やすと独特の「甘い」匂いがしたのを思い出します。

私たちは陸生貝類の調査をやっていますので、一度このような誘引剤を使って珍しい種類をごっそりと採集してみたいと夢見ています。まだ実現していませんが、いつかそのうちに・・・

最後の第3問は、観察された詳しい図まで付いていましたが、ここでは文章だけ紹介します。

「わが家の前の家庭雑排水溝のコンクリートの蓋の上にナメクジが一匹、しきりに銀色の路を描いておりました。それが昔の和製ポップス通りなら「銀色の □ 遥かなみ □ ち □」となるはずですが、このナメクジは霧の中で迷った登山家のように右へ右へとリンクワンデルングを続け、さっぱり進行方向が定まらないのです。以下に「銀色の路」の見取り図を載せますので、どなたかナメクジの気持ちになって、彼の迷いを解いてやって下さい。学芸員の方の科学的な見解も頂けたら、なお有り難いのですが。」

これはナメクジが這ったコンクリートの蓋は水平面ですよ。水直面だと重力ゆえにナメクジにも上下方向がはっきりわかるでしょうから、多少左右にぶれることはあっても、このような円形の軌跡は残さないとします。

この仮定のもとに話を進めます。このナメクジは、まさにリンクワンデルングをしてしまったのだと思います。動物というのは左右対称のように見えて微妙に対称でないのがふつうですから。人間でも内臓の配置は左右対称ではないものがありますし、利き手、利き足もあります。登山家のリンクワンデルングも右足を出す時の歩幅と左足を出す時の歩幅とが微妙に違うために、どちらかに少しずつ曲がり続け、大きな円径の足跡を残してしまうということですよ。

ナメクジも、もともとは殻を失ったカタツムリ。カタツムリは巻貝で、らせんの殻を持っていることから、左右は非対称です。一見、左右対称に見える体の部分も、生殖孔は体の左右どちらかの側面に開口しています。カタツムリの殻がまったくなくなったナメクジ類も、この左右非対称な体の部分そのまま残されています。そんなわけで、ナメクジが完全な左右対称でない動物であることを考えると、歩き方に微妙な「右利き／左利き」があることも不思議ではないと思いますがいかがでしょう。

表 題【 百舌の枝さし 】

投稿日【 010211 】お名前【 大津 町村 伴 貴美子 】

我が家の梅の蕾が春の訪れを告げる頃になりました。

ところが梅の木の様子が昔と違っています。以前は細く伸びた枝の先に、みみずや小さな蛙がさしてありました。蛙などはからさして、前足後足がぴんと伸びていました、それが寒風に晒されている様は、小鳥の仕業とは思えないくらい巧妙なものでした。百舌が秋にさして冬の食べ物や蓄えておくのだと理解していたのですが、全く見つかいません。

百舌にはその作業をする必要がなくなったのでしょうか？

それとももっと合理的な方法を考えたのでしょうか？

## 日本の鳥シリーズ

### モズ



日本に一年中すんでいる鳥を留鳥といいますが、それでも季節の変わり目に高い土地から低いところへ移る種類があります。モズがそうです。秋になると人里近くまでおりてきます。

小さなからだなのにくちばしはタカのようにカギ型をしており、小鳥を捕らえたりもします。

モズは生け垣などのとがった小枝や、有刺鉄線のトゲなどに、バッタやカエルなどのえものを串さしにする変わった習性があることで知られ、日本ではこれを「モズのはやにえ」と呼んで有名です。

イギリスではモズを「屠殺人の鳥」といい、ドイツでは「絞め殺す天使」と呼んだりするの、このはやにえから名づけられたものでしょう。

これらのことから、江戸時代はモズは凶鳥で、モズが鳴く夜は死人が出ると信じられました。

／ 鴟(もず)鳴くや むら雨かわく うしろ道 一茶 ／

【日本の鳥の目次】【日本の鳥に戻る】

伊東貴美子様

こんにちは。琵琶湖博物館の鳥類担当学芸員の亀田です。  
本当に、気温はまだまだ寒いですが、立春を過ぎてからだんだんと日差しが春らしく変わってきましたね。百舌の枝さしのお話、どうもありがとうございました。

正確には、モズのこうした行動は「モズのはやにえ」と呼ばれており、昆虫、カエル、トカゲ、カナヘビ、場合によっては他の鳥も捕まえてはやにえにしてしまうこともあります。(「はやにえ」とは「初物の供物」のことをいうのだと、広辞苑に書いてありました。)

最近はやにえが見られなくなったというのは、伊東さんのお宅になわばりをかまえていたモズが、残念ながらいなくなってしまう可能性があります。というのは、たしかに鳥も、環境に合わせて行動を柔軟に変化させることもありますが、モズにとってこのはやにえの行動は、かなり特徴的なものであるのです、そんなに簡単にこの行動をやめてしまうとは思えないからです。

非繁殖期には、モズはオス、メス別々になわばりをかまえます。よく秋や冬の初めにモズが木のでっぺんにとまって「キ、キ、キ、キ、キ、」と鳴いている声が聞かれますが(「モズの高鳴き」といいます)、これは、なわばりに侵入者が入ってきたときの威嚇の声です。こうした声やモズの姿を、最近お宅のお庭で聞いたり見たりすることがあるのでしょうか。もしそうでなければ、いなくなってしまう可能性は更に強くなります。なぜいなくなったのかは、寿命で死んだとか、食物が少ない年に死んだか移動したとか、あるいはネコや他の猛禽類に食べられてしまったとか、いろいろと想像はできますが、実際にはよくわからないでしょう。

ちなみに、なぜモズがはやにえをするのかは、実はまだはっきりわかっていません。おっしゃるとおり「食物の少ない時のための蓄え」であるとか、「なわばりの境界を示す」ものであるとか、「食物を食べるときに固定しておくため」とか、「メスに対するオスの求愛行動の一つ」であるとか、いろいろな説がありますが、どれが本当の機能か、あるいはいろいろな意味があるのかは、まだモズの研究者の間でも結論は出ていなかったと思います。

またなにか見つけられたことがありましたらお知らせ下さい。



表題 【 哀れな子狸を助けてやれないのでしょうか 】

投稿日 2000/10/30 彦根市 寺村 知子

投稿内容は、掲示板 2000 年度第 6 号（前号）に掲載しています。

専門家からの回答

彦根の寺村知子さんへ

11 月 18 日にお寄せ下さった毛のないタヌキの件ですが、原因はヒゼンダニというダニの一種です。人家に近づき、飼犬からうつるケースがほとんどであると言われています。

抗生物質の投与で完治する病気ですが、野生の場合は難しく、餌付け固体で、餌に混ぜて食べさせたところ治ったという例がありましたが、その他はほとんどが死に至っています。

一時期、神奈川県の大発生し、大量にタヌキがいなくなってしまったことがありましたが。

そこは、丘陵地の開発が原因だとされていました。こういうタヌキを増やさないためにも、健全な緑地帯（田畑や雑木林、ため池などがセットされた地域など）を確保しておく必要と対策が重要になってくると思います。

タヌキは、一つの休息場所に複数が一緒にいることも多く、これらの伝染性の高い病気などは、大量感染につながってしまいます。

人間側の問題をいろいろ解決していかなければ、いつまでたってもこういった悲劇は絶えませんよね。みんなで頑張りましょう！



回答者 瀬川 也寸子（ディスカバリー・ルーム担当・日本哺乳類学会員）

表題 楽しかったドングリ調査

投稿日 2001/1/11 びわ町 福本 さつき

フィールドレポーターといってもほんとに勉強させてもらうばかりで申し訳なく思っています。また、情報がいただけありがたく思います。

「ドングリ調査」は昨年のカマキリ調査より感激でした。

カマキリは、必ずいると思っていましたが、なかなか見つからずあせりました。

ドングリは身近にない。と思いこんでいたのですが、あまりにも身近に何本もあって目からうろこ状態でした。3才の孫に遊び方まで教わってほんとに楽しいドングリ調査でした。



ダーウィンの説程有名では無いのですが、個体進化の法則をご存じでしょうか

第一則 食べてすぐに寝ると牛になる。

第二則 食べて運動をしないと豚になる。

今世紀に入り天候の悪い日が続いたせいもあり、私も愛犬「トラ」もかなり豚に近くなってしまいました。そこで1月9日にいつもの散歩道である近くの荒神山に行き、真っ先に気になっていた、稲村神社の社務所のブロック塀をみましたが、態勢は決まってしまったのか、やはり目当ての物は見つかりませんでした。

事の発端は一昨年暮れごろ落成した稲村神社の社務所に始まります。建築に先立ち、そこから山頂へ続く林の中でこぼこな踏み分け路が、登り口を削って平らにされ、社務所まへの崖と路との境に、ブロックの、およその長さ16m、高さ80cm、幅15cm（ブロックのサイズと数より）の塀が作られました。

以前はこの登り口には、路の真ん中に岩の頭が突出しており、そこにはいつでも動物の糞がうやうやしく鎮座ましましておりました。この糞にはしょう果の種と節足動物の外骨格が含まれ白い部分が無い（鳥ではない）ので多分テンのものでしょう。（以下テンとします。）

いきなりサインポストを取り除かれたテンにしてみれば、卑怯な道場破りに尋常な勝負もなしに看板を奪われたようなものです。そこで意地と面子とテリトリーをかけた争いが始まったのです。テンは社務所の鼻先の塀にヒラリと飛び乗りウンチを一ひねり、すると社務所の管理者がすかさず箒の一掃き（見ていたように書きましたが、一度も現場は見えていません。）社務所側の掃除の時間も、テンの行動パターンも知りませんので正確なことは言えませんが、昨年の9月ごろまでは時々ブロック塀の上の糞を見かけましたが、その後の消息は不明です。人間にとっては箒の一掃きですが、テンにとっては糞を文字通り捻出しなければならぬのでかなり不利となるでしょう。どなたか動物と人間と、ついでに神様との権利の調停をして頂けないでしょうか。

高さ300mに満たない丘ですが、ここ荒神山はかなり面白い所です。運が良ければ、この社務所のすぐ近くでキツネに合えます。ドングリが多く、ネズミが満腹し、余禄がキツネの暮らし向きを裕福にしているのでしょう。この踏み分け道を上にたどると、鞋底に無数のモグラのトンネルが感じられます。また、なぜか水も無いところから愛犬「トラ」がイシガメを探し出し、舗装道路でカーリングを始めます。

野鳥も見物です。カラの類やほぼ同サイズの小鳥たち、リストラ世代にエールを送るゴジュウカラ、私の財布を見透かしたようなシジュウカラ、そのそっくりさんのヤマガラ、コガラ、エナガ、風花の吹き寄せられるようにやって来、身軽に楽しげに枝の間でたわむれます。それに比べひどく淑やかな動作なのがメジロ、そして実務波のコゲラは、遊びとは無縁のスケジュール消化一辺倒の無駄のない動作。見ている内に半催眠状態となり、我に返る頃には花びらの散るように消えて行きます。ワシ・タカ類で種名の不明なものがあり気になっています。

シダ植物、キノコ類（担子菌、子囊菌とも）は種類、量ともに豊富です。これらの知識のある方に見て頂きたく思っております。

標 題 [お土産のウンチについて]

投 稿 日 [010123]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

山から動物の糞を持ち帰る変人より。もし、これを調べたい奇人・・・いや、研究熱心な方が居られましたら。今朝、犬の散歩を兼ねて、雪の上の足跡を見に、近くの荒神山（メッシュコード5236-6175）へ行きました。そこで、下の図のような動物の糞を見つけ、上に紙が乗っていないことを確認のうえ持ち帰りました。フィールドガイド足跡図鑑（日経サイエンス）その他で調べましたが、似たものはありません。

TVの「開運お宝鑑定団」のファンとしては、製作年月日、製作場所も明らかで、作品は粒のそろった俵形をしており、「いい仕事をしていますなー、これで作者がわかれば相当の高値が・・・」といたいところです。これが何者の作品か推定出来ましたらお教え下さい。もし必要でしたら博物館までお届けします。（出来ることなら家内に気づかれないうちに処理したい。）

場所 混成林の尾根筋に作られた、林業・散策の為の細道。表土が露出した、雪解け跡（雪の上からではない、多分昨夜から今朝の早朝にかけて）

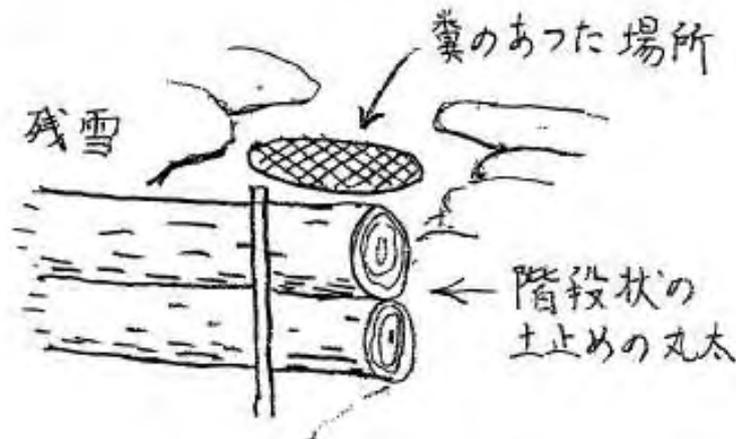
色 艶のある焦げ茶がかかった黒。均質な濡れた粘土状で種子・骨・節足動物の殻等は外からは見えない。

ここは週に2～3回は通っていますが、初めて見たものです。



以下目測り

約120mmのほぼ真円内に9個、向きはバラバラ、長さ約30~35mm 太さ約13mm 大きさ、形はよくそろっていた。



専門家からの回答

フンの大きさや形、色から、サルかイシシのフンのばらけたものか？と問い  
 ました。タヌキの通常のフンとは においと質感が違っているようだ。とにかくばら  
 けて内容物を一部舐めることになりました。中からは植物質のものばかり  
 でした。ほんの少しだけ 鳥の骨と羽軸らしきものがでてきました。タヌキの場合  
 だと、ひろくいなので、それに、糞の汁を舐めると 果実を食べれば必ず種  
 子がたくさんでてきます。鳥の骨がでてくると場合は たくさんの羽毛も食べてま  
 っている。それと必ず言えるほど 土壌動物(シムカデなど)がでてくる  
 ですが、それらが 全くと言ってよいほど 出てきませんでした。体毛も多く舐め  
 られていることがありますが それもないようでした。でてきた毛は？ですが、か  
 ための毛なので、タヌキのものとはちがっているようです。

サルではなにかと思います。  特に冬場のサルたちは  
 土や、冬芽、木のかげや 木の葉も食べ、時には小動物も食べます。  
 彼らは、羽毛はとりのとき、種子も わざと中味だけ食べてあとはノイ  
 とするようになることをします。冬場のフンは、糞工質で 団のようなおに  
 ぎり状のフンが つらなっているようなものが多いです。それがバラバラに  
 いることもあります。 たぶん まちがいはないと思います。

瀬川世世子 (琵琶湖博物館)  
 (日本哺乳類学会会員)  
 専門は ホンドタヌキ



表題 「鮎ずし」の昆布の使い方を教えてください

投稿日 2001/1/11

びわ町 梶本さつき

「鮎ずし」最終回レポート、条件反射の働きを感じながら拝読いたしました。  
おいしく漬かってほんとに良かったですね。

我が家では、一昨年のすしを今年のお正月に封を切りいただきました。頭もとろとろにやわらかく漬かっています。昨年漬けた桶も、そのうた開けてみたいと思います。

2桶漬かっているので今年は、漬けないつもりです。こちらでは、何かにつけて鮎ずしをいただくのですが、尾形さんほど喜んでもらえるとうりがありますね。

ところで二種の昆布を使っておられるようですが、どのように使っておられるのか教えて頂ければ幸いです。

わたくしどもは、昆布を使っておりません。よろしくお願ひいたします。

志賀町 尾形 勇さんからの回答

「鮎ずしを作って見よう」最終記事で鮎ずしのお茶づけが大変美味しかったことを載せましたところ、読者から、お茶漬けに入れる昆布の種類についてお問合せがありましたので、私の覚えていることを確かめ、先日北村師匠さんのお店「喜多品」（高島町勝野）を訪ね、お聞きしました所

1. とろろ昆布（おにぎりにも巻いて使う）

2. 塩ふき きざみ昆布（小さくきざんだ塩のふいている昆布）

の二種類で、どちらもごく普通の昆布で、スーパーや食料品店で売られている品（例ふじっ子）とのことです。ちなみに私もこの二種類を使って頂いております。一度お試しになって見て下さい。なお、お店のチラシでは、下記の通りお茶漬けの作り方の他、お吸い物、てんぷら、握り鮎、など食べ方がいろいろあることも知りました。ご参考まで。

### 鮎ずしの食べ方アレコレ

1. 生姜醤油をつけて、そのまま食べる。

日本酒には飯漬鮎ずし、洋酒には甘露漬鮎ずし

2. 鮎ずし茶漬け

お茶碗の中に暖かいご飯を少し入れ、鮎ずし2～3切れと、とろろ昆布、刻み塩 昆布を少々入れ熱いお湯を差す。その中にお醤油を2～3滴たらす。よくかきまぜて食べる。

### 3. 鮓ずしの吸い物

とろろ昆布、刻み昆布、鮓ずし2～3切れを入れて熱いお湯を差す。醤油を少々入れ、食べる。

ゆばの吸い物の中や、尊采の吸い物の中に鮓ずしを2～3切れ入れてもよい。

### 4. 鮓ずしの握り鮓

鮓飯と鮓ずしの上に木の芽を挟む。一口大の握りにする。

### 5. 鮓ずしのてんぷら

鮓ずしの切り身を練ったてんぷら粉（ころも）をつけ、青じそにくるんだもう一度練ったてんぷら粉をつけて油でさっと揚げる。揚げたてのアツアツを醤油（天つゆ、焼塩でもよい）をつけて食べる。

### 6. その他

薄切りにして前菜や懐石の八寸にといろいろ使えます。頭、尾、ひれも食べられる。

ひれをお酒の中に入れて「ひれ酒」として飲むのも風流。

—喜田品さんチラシより—

標 題 [ちょっと気になる直売品]

投 稿 日 [010111]

名 前 [彦根市 加藤 啓英]

今朝、家内の買い物に付き合い、能登川の湖岸道路沿いの、生産者直売の店「味菜」（アジサイと読む）へ行きました。自家栽培野菜や手芸品を、小は百円程度から小分けして売る店です。その一角にきれいに薄切りにされた「イノシシ」「シカ」「クマ」の肉が売られていました。近所のハンターが持ち込んだものかと店の人にたずねましたが「イノシシ」「シカ」は永源寺方面、「クマ」は湖北から来ていると、しごくリーズナブルな答えが返ってきました。しかしこの切り方はハンターの大ざっぱな捌きかたとは思えず、食肉業界の流通経路に乗ったもののように見えました。

「イノシシ」「オスジカ」はまだしも、「クマ」は狩猟鳥獣から外すべきではないでしょうか。一頭のクマが大阪の外れを徘徊しただけで、あれだけの目撃情報があったことから見ても棲息数は予想以上に少ないのではないのでしょうか。何の手も打たないうちに九州と四国のクマは絶滅あるいは絶滅同然となっている前例があるのですから。

専門家より

## アライグマについてちょっと一言

私が、はじめて、日本でも飼っていたアライグマが逃げて野生化しはじめたということを知ったのは、今からもう13～14年前になります。岐阜県の可児市というところでたくさん繁殖しているとのことでした。たしか、市でも調査したものがあつたように思います。今では、北海道でも野生で繁殖が確認され、問題となっております。

実は、アメリカでも狂犬病ウイルス汚染個体がいるとされていますが、日本でも人畜共通の回虫や様々な病気を媒介することがわかっています。繁殖期には凶暴になる個体もあり、噛まれると指がとぶ程の鋭い歯をもっているということも言われています。

野生動物すべてにいえることですが、人との接触は普通、なるべく避けたがるのが野生として正常なのだと思います。特に人に接近してしまうことが原因で動物側が病気になったり、また病気を媒介してしまったりしている事実も多くあります。人に知らず知らず接近してしまうきっかけとしてあげられる中に生ゴミがあります。かれらにとって食べ物を確保することは生命にかかわる大きな問題なのです。ですから危険を犯してでもそういった場所についつい近づいてしまうのです。

動物たちは、生ゴミの味を一度しめると何度も同じところに餌づいてしまいます。生ゴミには人の食品に含まれる添加物の影響や動物によってはビニール系のものやプラスチックなどを食べて腸に詰まらせたり、内臓を傷つけて死に至ってしまうものもあります。動物たちにも大変大きな悪影響を与えることとなります。

人と野生に生息する動物との距離を保つことは本当にお互いの安全と将来を考える上で大変重要なことだと私は考えています。人慣れしたものは場合によっては捕獲駆除（駆除というのは殺すことだけではありません）の必要があると思いますし、彼らの本来の生活空間をとりもどしてやる必要が人間にはあると私は考えています。人慣れした彼らをそのまま放置すれば、その子どもも孫も、親と同じ行動パターンをとるでしょうし、そのことでどんどん人慣れ個体を増やしてしまう結果が生じてしまうでしょう。

もし、野生動物が家に侵入してきているようでしたら、お互いのために、是非、扉はあかないように、家には入れないようにして下さい。お願いいたします。そして、もし、動物をみて楽しみたいとか観察したい方には、自動カメラまたはビデオカメラの設置をおすすめいたします。それが無理な方には寝不足を覚悟してもらって（日本の野生の哺乳動物のほとんどが夜行性なので）車の中からか、またはテントや窓ごしにじっと観察することをおすすめいたします。（ただし、絶対その際には餌付けはしないように！）苦勞して観察できた時の喜びは格別ですよ。その場合、くれぐれもくせになってお体を壊されないよう注意して下さいね！（草食獣のように短時間熟睡？ができるよよいかも・・・）

（\*今回、農林水産省 森林総合研究所関西支所 鳥獣研究室長の斎藤隆さんにもご教授いただきました。）

瀬川 也寸子（ディスカバリー・ルーム担当）  
日本哺乳類学会会員



介護を目的とした隻腕カマキリ、羽なしカマキリの飼育に始まり、卵のうの内部構造に関連した産卵状況調査のため、延べ8匹の雌カマキリを4個のクワガタ飼育ケース(寸法18\*29\*33h cm)や金魚鉢で飼育することになりましたが、さる2月6日、最後の1匹が春を目前にしてとうとう死んでしまいました。日中は居間に同居、観葉植物の葉の上でひなたぼっこをしたり、夜間は12.11.以降18℃の保温ケースで安眠という環境で、飼育経過は一度報告しましたが最後の締めくくりとして、産卵状況の解析を除いて、まとめました。

### 1. 飼育経過

次表は8匹それぞれの飼育期間と産卵日の記録を取りまとめた結果である。

- ①12月まで生存したものは2匹、越冬したものは1匹であった。最低気温が10℃以上であれば越冬できるといわれているが、保温18℃でのこの結果はちょっと残念である。
- ②産卵したものは5匹、計11個で、内3回産卵したものは2匹であった。これらの飼育開始月日を見ると、自然環境でのカマキリの産卵時期は11月一杯は十分あり得るといえる。室内条件ではあるが夜間保温なしでも12月7日に一個産卵している。
- ③保温条件ではあるが12月に2個、1月に1個の産卵があった。自然条件の産卵スケジュールは、カマキリの生存限界までに、予定数である3回の産卵を済ませるものとするならば、12月、1月の産卵は予定外の追加産卵ということになり、これらのカマキリは飼育開始前にすでに何回かの産卵を済ませていたことになる。

表 1. 飼育カマキリの飼育期間と産卵記録

カマキリ	飼育開始	死亡	生存日数	第1回産卵	第2回産卵	第3回産卵
隻腕オオカマキリ	9/05	9/12	7	-----	-----	-----
羽なしオオカマキリ	10/04	12/18	63	11/03 発見	-----	-----
ハラビロカマキリ	10/10	10/24	14	*10/24ハリガネムシ	-----	-----
カマキリ a	10/14	10/18	4	-----	-----	-----
オオカマキリ A	10/16	11/08	23	10/22-17:30	11/07-08:30	-----
オオカマキリ B	10/30	12/30	60	11/06-08:35	11/25-15:40	12/26 発見
カマキリ b	11/03	12/12	39	11/07 発見	11/26 発見	12/07 発見
オオカマキリ C	11/26	02/06	72	12/23 発見	01/19-12:45	-----

\*00.12.11.カマキリ温室完成。以後18℃に設定。

\*ハラビロカマキリは寄生していたハリガネムシを10月24日に排泄し、その6時間後に死ぬ。

\*羽なしオオカマキリの羽は、ショウジョウバエの痕跡羽と同じ萎縮羽で突然変異と思われる(図説生物 水野丈夫他 東京書籍 1997)。

④11月26日に採取したオオカマキリは、自宅のコンクリート壁面でひなたぼっこをしていたもので、産卵はすでに済んでいるものと思っていたが、飼育を始めてから27日と更に27日経ってから産卵している。その死後に解剖した結果、腹の中には3粒の卵が残っているだけであった。飼育しなければこれらの産卵なしに死んだのであろうか。

## 2. カマキリの産卵間隔

複数回産卵したカマキリの産卵間隔は表2のようにまとめられる。11日から31日までその差は大きいですが、表3のように産卵月日で整理してみると、寿命が伸びたカマキリの12月末と1月の産卵を除くと、11日から19日、平均16日である。

オオカマキリの自然での産卵は3個がふつうであり、かつそれらはおよそ1m以内のスペースに産みつけられているが、これは16日前の産卵位置をよく覚えているからであろう。自分のテリトリで日当たりの良さなど最適の産卵場所は自然と決まってくるのかも知れない。なお、一本の枝、茎に上下くしざしの形で産卵している例はなく、すべて別々の枝、茎に産卵しているが、これはふ化時の多数の幼虫の混雑防止のためであろう。

表2. カマキリの産卵間隔

単位：日

	カマキリb	材カマキリA	材カマキリB	材カマキリC
飼育開始から産卵まで	4	6	7	27
一回目と二回目の間隔	19	16	19	27
二回目と三回目の間隔	11	---	31	---

表3. 産卵月日と産卵間隔の関係

③：産卵3回目を示す

産卵月日	11月7日	11月25日	11月26日	12月7日	12月26日	1月19日
産卵間隔	16日	19日	19日	③ 11日	③ 31日	27日

## 3. カマキリの産卵メカニズム

前項、前前項とも関連するが、カマキリの産卵メカニズムについて考えてみることにし次の仮説をたててみた。

- ①卵巣には産卵一回分の数だけ(約250個)卵が作られる。産卵間隔の16日間(平均)で次の一回分の卵がまた卵巣内に作られる。
- ②卵巣内にはカマキリ一生分の卵が、初秋にまとめて作られている。一回の産卵でその1/3が産み出される。

後者②の場合、平均16日の産卵期間はなんのためにあるのかという疑問には、卵のうの保護発泡体やふ化膜を作る膠質腺、蛋白腺の分泌能力の回復にあると考えれば説明がつく。

3個産まれる卵のうは、最初のもが一番大きく、即ち卵の数が一番多く、最後のもが一番少ない数であるが（本掲示板2000年7号に報告）、これとの関係については次のような事が考えられる。

①の仮説に対しては、一回ごとに卵を作るのであるから、産卵が遅くなるほど気温が低下して餌のバッタ類が減少して栄養面から体力が弱り、また気温の低下による体力の低下の直接効果も加わって卵のうが小さくなっていくと考えることができる。

②の仮説に対しては、最初に全部の卵が作られているので、3回に分けて産卵するための分割比率の問題であり、なぜ不均等に産卵するのか、理由が分からない。

12月末と1月に産卵したケースは、餌と保温が十分だったので追加して産卵する体力があって、多分、3回以上の産卵を行ったのであろう。

このような考察からは、仮説①が正解と思われるが、カマキリの産卵から産卵の間の体重変化を計測すれば確認できるかも知れない。今秋の課題としたい。

#### 4. 飼育カマキリの卵は受精卵か

飼育開始後は雄カマキリ不在なので、2回目以降の卵のうは受精卵か否かということになるが、雌カマキリは大きな受精嚢を持っていて、交尾で雄の精包を買って保管できるので産卵毎の受精は不要なのであろう。羽化した成虫はすでに交尾能力を持っているそうなので、早い時期に交尾は済んでいるのかもしれない。1月に産卵した卵のうが、ふ化するか否かは、受精嚢の寿命に関連して興味ある課題である。

#### 5. その他

①観察できた5例の産卵時刻と天気は、産卵終了時間で8:30amが2例で快晴と晴れ、12:45曇り、15:40曇り、および17:30晴れの各1例であった。窓側の室内条件であるが、夜間以外を除けば規則性などはないようである。

②産卵後は約2時間、産卵の最終姿勢を保ったままで眠っているようである。

③11月になって気温が低下し、餌のバッタ、イナゴ、コオロギなどがいなくなったので、かまぼこやハムを細長く切って糸で吊して動かすと、すぐに飛びつき、すぐに食べ始める。しかしながら次第に跑ってくるのか、寒くなってきて食欲が減ってくるのか、少し食べただけで餌をはなしてしまうようになる。

その後肉類も試してみたが食欲は特に増加しなかったが、かまぼこよりはよく食べたようである。

小さな煮干し魚は一口食べるとすぐに放り出し、大嫌いなようである。

餌のやり方は、紐で吊すのも面倒なので最初は細い竹串、慣れてからはつま楊枝に肉の小片を刺して与えたが、食欲がない時はかまで揺もうともしない。

この時はつま楊枝で直接口元に肉を押しつけてやると、ムシャムシャという感じで食べては呉れるが、まさに病人というところである。カナブンやゴガネムシの幼虫や成虫などの柔らかいものは好物でよく食べ冬の貴重な食料である。